

## 2025年度 大学院シラバス

PDF閲覧ソフトの検索機能で科目名を検索してください

※担当教員名での検索の場合、全クラス共通シラバスが検索できません

例) Ctrl キーを押しながら F キーを押す

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	音楽と電気音響		
担当教員	片桐 健順		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音響学の基礎と音響機器の使用法の基礎を習得する

#### ◆授業内容・計画◆

音楽に関わる音響学、また音響機器を知り、音楽の実演や、作品創りに活用できることを目指します  
主にライブ公演に向けた内容で進めます。

- 1 音に関わる数字 音響学の基礎を知る
- 2 音と電気音響の関係性 (マイクロフォン・スピーカーについて)
- 3 聴覚(イコライザーについて)
- 4 音響心理学(エフェクターについて)
- 5 音楽と音響 (ミキシングコンソールについて)
- 6 収音・拡声について考察する
- 7 聴衆と演者の違いに関連して 音響の目的を考察
- 8 ビジネスと技術の関係性を考察
- 9 PA実習-1 声
- 10 PA実習-2 ソロ楽器
- 11 PA実習-3 アンサンブル
- 12 PA実習-4 再生音
- 13 PA実習-5 モニター
- 14 PA実習-6 その他
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。  
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、  
授業内で指示する事を遵守のこと。  
実習の進行具合によって順序の変更や、補講日などにまとめて実習する場合があります。  
その際は授業内で改めて相談します。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で触れた事を元に、使用方法などを復習し、各種機材の特性などを習得すること(1時間程度)。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、及び実習により評価する。適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

#### ◆参考図書◆

- 『舞台技術の共通基礎』(劇場等演出空間運用基準協議会)  
『ホールの響きと音楽演奏』ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳(市ヶ谷出版社刊)  
『ハンドブック・オブ・サウンド・システム・デザイン』ジョン・アーグル著、鈴木中訳(プロサウンド編集部監修)

#### ◆留意事項◆

履修条件:テーマ別演習AⅡ も併せて履修すること

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	19世紀の編曲文化		
担当教員	沢田 千秋		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

19世紀の編曲文化を学び、編曲法についての考察や実演を通して、様々な音楽作品への理解と演奏表現技術の習得を図る

#### ◆授業内容・計画◆

前期

- 第1回 編曲の略史
- 第2回 ピアノ編曲の定義と特徴
- 第3回 19世紀の編曲文化(1)市民社会と音楽
- 第4回 19世紀の編曲文化(2)ピアノの発展とヴィルトゥオーゾ
- 第5回 20世紀以降の編曲受容
- 第6回 作曲家と現代の編曲 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第7回 リストと編曲(1)《ベートーヴェン交響曲ピアノ・スコア》の序文と成立
- 第8回 リストと編曲(2)《ベートーヴェン交響曲ピアノ・スコア》の編曲の諸相
- 第9回 ブラームスと編曲 《バッハ シャコンヌニ短調》の編曲と自作品の連弾編曲
- 第10回 グリークと編曲 《ホルベルグ組曲》と自作歌曲のピアノ独奏版
- 第11回 ブラームス 作曲家自身による交響曲の連弾編曲 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第12回 編曲作品演習① 管弦楽曲の室内楽編曲
- 第13回 編曲作品演習② 歌曲のピアノ編曲
- 第14回 公開演奏
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り組む楽曲の楽譜を準備し、演習のための練習を行うこと(目安2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内容の理解度、演習に対する取り組みと成果、ディスカッションや公開演奏への積極的な参加など、平常の授業への取り組みにより評価する。また授業におけるレポートやコメントシートについて、次の授業において講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

- 『鍵盤音楽の歴史』カービー著(全音楽譜出版社)
- 『人間と音楽の歴史Ⅳー1600年から現代まで』(音楽之友社)
- 『ビーダーマイヤー時代ードイツ19世紀前半の文化と社会』ペーン著(三修社)
- 『クララ・シューマン、ヨハネス・ブラームス友情の書簡』原田光子著(ダヴィッド社)
- 『ニューグローヴ世界音楽大辞典 第16巻「編曲」』(講談社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	近現代ドイツ歌曲研究		
担当教員	長島 剛子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ドイツ近現代歌曲を題材にして、その成立の時代背景を学び、詩の解釈、作品分析等通して作品の理想的な演奏法を探求する。

#### ◆授業内容・計画◆

ドイツ近代歌曲から各自数曲を選択し授業の中で発表する。なお伴奏者は受講生或いは演奏助手とする。前期は新ウィーン楽派の中心人物であるA.Schönbergとその弟子のA.Bergの作品を取り上げ演奏法の研究を行う。授業の第14回目には発表を行う。

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、曲目選択に関する相談など)
- 第2回 A.Schönbergの歌曲1) Op.2
- 第3回 A.Schönbergの歌曲2) シェーンベルクの作品について(レクチャー)
- 第4回 A.Schönbergの歌曲3) Brettli-Lieder, Op.6
- 第5回 A.Schönbergの歌曲4) Op.15 Nr.1~5
- 第6回 A.Schönbergの歌曲5) Op.15 Nr.6~10
- 第7回 A.Schönbergの歌曲6) Op.15 Nr.11~15
- 第8回 A.Schönberg《Pierrot Lunaire op.21》より
- 第9回 A.Bergの歌曲1) 7つの初期の歌よりNr.1~3
- 第10回 A.Bergの歌曲2) 7つの初期の歌よりNr.4~7
- 第11回 A.Bergの歌曲3) Op.2
- 第12回 A.Bergの歌曲4) ベルクの作品について(レクチャー)
- 第13回 A.Bergの歌曲5) Jugendliederより
- 第14回 発表コンサート
- 第15回 まとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

自身の演奏曲を決めその作品を綿密に研究し、伴奏者との合わせも含め発表する授業回までにしっかり準備しておくこと。(目安一週間に最低3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『新ウィーン楽派によるドイツ歌曲集』長島剛子・梅本実(監修)(音楽之友社)

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	日本の近現代音楽、オムニバス※休講情報注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

・明治以降の「日本の近現代音楽」についてその概要や歴史的変遷を理解できる。・上記における国立音楽大学の貢献について理解できる。  
・今後の音楽文化に対する自分の立場や役割について考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、それぞれの領域の講師が行なうオムニバス方式をとる。

##### 1 イントロダクション

- 1) 国立音楽大学の歴史(前島美保)
- 2~3 実用音楽
- 2) 戦後から令和~日本の商業音楽の変遷について(丸山和範)
- 3) 映像音楽の制作について(富貴晴美)
- 4~6 ピアノ
- 4) 西洋音楽黎明期における日本のピアノ作品~山田耕筰を中心に(佐野隆哉)
- 5) 演奏家の立場からみる邦人ピアノデュオ作品の諸相~三善晃、武満徹、西村朗、権代敦彦、杉山洋一らの作品から(加藤真一郎)
- 6) 作曲と演奏の現場から——近藤譲と若い世代(井上郷子)
- 7 電子音楽 その1
- 7) 日本の電子音楽(大矢素子)
- 8~9 ジャズ
- 8) ジャズとクラシックの接点——ハーモニーにおいて(塩谷哲)
- 9) 日本人としてのジャズとの関わり(池田篤)
- 10~11 声楽
- 10) 日本の声楽曲の黎明期(松原有奈)
- 11) 日本歌曲~日本語の発音から生まれる歌唱法(松原有奈)
- 12 打楽器
- 12) 20世紀打楽器音楽から探るリズムと音色の生成&実践(新谷祥子)
- 13~14 電子音楽 その2
- 13) 電子オルガンの可能性(渡辺睦樹)
- 14) 日本におけるコンピュータ音楽の展開(今井慎太郎)
- 15) 前期授業のまとめ——関連情報の整理

\* 各回の授業タイトル・内容は進捗状況や講師の都合により変更になることもあります。

#### ◆準備学習の内容◆

この演習は、各回が異なる領域の情報を扱う授業となるので、授業に先立ち、該当する領域や音楽家について参考資料にあたり、基礎的な情報を得ておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および各講師が課す課題を総合して評価する。課題については適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しないが、各講師からの指示に注意すること。

#### ◆参考図書◆

基本的に各講師から資料が配布される。より深い学修のための参考図書については各講師に問い合わせること。

#### ◆留意事項◆

日本の近現代音楽の歴史的な流れとその特徴的な活動を知るための領域横断的な授業です。すべての講義に出席することでその在りようが理解できるようになるので、欠席は極力しないよう心がけること。

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	音楽と電気音響		
担当教員	片桐 健順		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽や音の録音・編集法について基礎を習得する

#### ◆授業内容・計画◆

音を定着する技術である録音に関連してより良い演奏の記録、作品創作ができる様に実践を通じて理解できることを目指します。

- 1 音響学の基礎 復習
- 2 録音技術の歴史
- 3 録音機材と手法 アプリケーション、ファイルに関して
- 4 録音制作について
- 5 収録目的を考察する
- 6 録音実習-1 単一トラック
- 7 録音実習-2 マルチトラック
- 8 録音実習-3 編集
- 9 録音実習-4 トラックダウン
- 10 録音実習-5 声の收音
- 11 録音実習-6 楽器音の收音
- 12 録音実習-7 複数音源の收音
- 13 録音実習-8 ミックスダウン
- 14 録音実習-9 マスタリング
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。  
 機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、  
 授業内で指示する事を遵守のこと。  
 実習の進行具合によって順序の変更や、補講日などにまとめて実習する場合があります。  
 その際は授業内で改めて相談します。

#### ◆準備学習の内容◆

各種の録音された音を改めて聴取し、その内容を分析、再考してみる(1時間程度)。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、及び実習により評価する。適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

#### ◆参考図書◆

『ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング』 ジョン・アーグル著 沢口真生訳(株式会社ステレオサウンド刊)  
 『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳(市ヶ谷出版社刊)

#### ◆留意事項◆

履修条件:テーマ別演習AⅠも併せて履修すること

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション研究		
担当教員	沢田 千秋		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

本学の貴重書である「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」の編曲楽譜の実演を通して、19世紀の音楽文化と編曲作品の演奏について考察する。

#### ◆授業内容・計画◆

後期

- 第1回 国立音楽大学「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」について
- 第2回 国立音楽大学「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」研究の意義 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第3回 ベートーヴェン編曲作品演習:交響曲 室内楽編曲
- 第4回 ベートーヴェン編曲作品演習:交響曲 ピアノ連弾編曲
- 第5回 ベートーヴェン編曲作品演習:序曲 室内楽編曲
- 第6回 ベートーヴェン編曲作品演習:序曲 ピアノ編曲
- 第7回 ベートーヴェン編曲作品演習:協奏曲 室内楽編曲
- 第8回 ベートーヴェン編曲作品演習:協奏曲 連弾編曲 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第9回 ベートーヴェン編曲作品演習:室内楽 室内楽編曲
- 第10回 ベートーヴェン編曲作品演習:室内楽 連弾編曲
- 第11回 ベートーヴェン編曲作品演習:ピアノソナタ 連弾編曲
- 第12回 ベートーヴェン編曲作品演習:器楽のためのソナタ 室内楽編曲
- 第13回 公開演奏に向けての準備
- 第14回 公開演奏 ディスカッション
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り組む楽曲の原曲楽譜を準備し、編曲譜との比較をし、演習のための練習を行うこと(目安2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内容の理解度、演習に対する取り組みと成果、ディスカッションや公開演奏への積極的な参加など、平常の授業への取り組みにより評価する。また授業におけるレポートやコメントシートについて、次の授業において講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

国立音楽大学附属図書館所蔵  
『ベートーヴェン初期印刷楽譜目録』

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	近現代ドイツ歌曲研究		
担当教員	長島 剛子		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ドイツ近現代歌曲を題材にして、その成立の時代背景を学び、詩の解釈、作品分析等を通して作品の理想的な演奏法を探究する。

#### ◆授業内容・計画◆

ドイツ近現代歌曲から各自数曲選択し授業の中で発表する。なお伴奏者は受講生或いは演奏助手とする。後期はA.Zemlinsky, A.Webernの作品を中心に演奏法の研究を行う。授業の第14回目には発表を行う。

- 第1回 A.Zemlinskyの歌曲1)A.Zemlinskyの作品について(レクチャー)
- 第2回 A.Zemlinskyの歌曲2) op.7, op.10
- 第3回 A.Zemlinskyの歌曲3) op.13, op.27
- 第4回 A.Webernの歌曲1) Frühe Lieder, op.3
- 第5回 A.Webernの歌曲2) op.12
- 第6回 A.Webernの歌曲3) op.15, op.16
- 第7回 A.Webernの歌曲4) A.Webernの作品について(レクチャー)
- 第8回 H.Pfitznerの歌曲
- 第9回 J.Marx, E.W.Korngoldの歌曲
- 第10回 V.Ullmann, H.Eislerの歌曲
- 第11回 P.Hindemith, K.Weillの歌曲
- 第12回 H.Reutter, W.Rihmの歌曲
- 第13回 発表コンサートのリハーサル
- 第14回 発表コンサート
- 第15回 まとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

自身の発表曲を決めその作品を綿密に研究し、伴奏者との合わせも含め発表する授業回までにしっかり準備しておくこと。(目安一週間に最低3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『新ウィーン楽派によるドイツ歌曲集』長島剛子・梅本実(監修)(音楽之友社)

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	日本の近現代音楽、オムニバス※休講情報注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

・明治以降の「日本の近現代音楽」についてその概要や歴史的変遷を理解できる。・上記における国立音楽大学の貢献について理解できる。  
・今後の音楽文化に対する自分の立場や役割について考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、それぞれの領域の講師が行なうオムニバス方式をとる。

##### 1～5 作曲

- 1) 日本の音楽評論と創作(白石美雪)
- 2) 武満徹における西洋と日本(白石美雪)
- 3) 戦後日本の作曲家の系譜～伊福部昭とその門弟(菊池幸夫)
- 4) 戦後生まれ以降の日本の作曲家(渡辺俊哉)
- 5) 日本の合唱音楽(上田真樹)

##### 6 吹奏楽

- 6) 日本の吹奏楽の始まり(塚原康子)

##### 7 ジャズ その2

- 7) 日本ジャズ事始め(大鳥徹)

##### 8～9 日本音楽

- 8) くにとちと邦楽(前島美保)
- 9) 雅楽の姿——近現代および江戸後期(宮田まゆみ)

##### 10～11 音楽研究

- 10) 竹内道敬先生と竹内道敬文庫資料(吉野雪子)
- 11) 近代日本の洋楽器産業(井上さつき)

##### 12～13 教育音楽・合唱

- 12) 学校音楽教育の歴史(1)——何を指してきたのか(津田正之)
- 13) 学校音楽教育の歴史(2)——どのように実現しようとしてきたのか(津田正之)

##### 14 教育・リトミック

- 14) 日本におけるリトミック教育の普及と展開(伊藤仁美)

##### 15) 後期授業のまとめ——関連情報の整理

\* 各回の授業タイトル・内容は進捗状況や講師の都合により変更になることもあります。

#### ◆準備学習の内容◆

この演習は、各回が異なる領域の情報を扱う授業となるので、授業に先立ち、該当する領域や音楽家について参考資料にあたり、基礎的な情報を得ておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および各講師が課す課題を総合して評価する。課題については適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しないが、各講師からの指示に注意すること。

#### ◆参考図書◆

基本的に各講師から資料が配布される。より深い学修のための参考図書については各講師に問い合わせること。

#### ◆留意事項◆

日本の近現代音楽の歴史的な流れとその特徴的な活動を知るための領域横断的な授業です。すべての講義に出席することでその在りようが理解できるようになるので、欠席は極力しないよう心がけること。

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	音楽と電気音響		
担当教員	片桐 健順		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音響学の基礎と音響機器の使用法の基礎を習得する

#### ◆授業内容・計画◆

音楽に関わる音響学、また音響機器を知り、音楽の実演や、作品創りに活用できることを目指します  
主にライブ公演に向けた内容で進めます。

- 1 音に関わる数字 音響学の基礎を知る
- 2 音と電気音響の関係性 (マイクロフォン・スピーカーについて)
- 3 聴覚(イコライザーについて)
- 4 音響心理学(エフェクターについて)
- 5 音楽と音響 (ミキシングコンソールについて)
- 6 収音・拡声について考察する
- 7 聴衆と演者の違いに関連して 音響の目的を考察
- 8 ビジネスと技術の関係性を考察
- 9 PA実習-1 声
- 10 PA実習-2 ソロ楽器
- 11 PA実習-3 アンサンブル
- 12 PA実習-4 再生音
- 13 PA実習-5 モニター
- 14 PA実習-6 その他
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。  
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、授業内で指示する事を遵守のこと。  
実習の進行具合によって順序の変更や、補講日などにまとめて実習する場合があります。  
その際は授業内で改めて相談します。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で触れた事を元に、使用方法などを復習し、各種機材の特性などを習得すること(1時間程度)。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、及び実習により評価する。適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

#### ◆参考図書◆

- 『舞台技術の共通基礎』(劇場等演出空間運用基準協議会)  
『ホールの響きと音楽演奏』ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳(市ヶ谷出版社刊)  
『ハンドブック・オブ・サウンド・システム・デザイン』ジョン・アーグル著、鈴木中訳(プロサウンド編集部監修)

#### ◆留意事項◆

履修条件:テーマ別演習B II も併せて履修すること

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	19世紀の編曲文化		
担当教員	沢田 千秋		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

19世紀の編曲文化を学び、編曲法についての考察や実演を通して、様々な音楽作品への理解と演奏表現技術の習得を図る

#### ◆授業内容・計画◆

前期

- 第1回 編曲の略史
- 第2回 ピアノ編曲の定義と特徴
- 第3回 19世紀の編曲文化(1)市民社会と音楽
- 第4回 19世紀の編曲文化(2)ピアノの発展とヴィルトゥオーゾ
- 第5回 20世紀以降の編曲受容
- 第6回 作曲家と現代の編曲 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第7回 リストと編曲(1)《ベートーヴェン交響曲ピアノ・スコア》の序文と成立
- 第8回 リストと編曲(2)《ベートーヴェン交響曲ピアノ・スコア》の編曲の諸相
- 第9回 ブラームスと編曲 《バッハ シャコンヌニ短調》の編曲と自作品の連弾編曲
- 第10回 グリーグと編曲 《ホルベルグ組曲》と自作歌曲のピアノ独奏版
- 第11回 ブラームス 作曲家自身による交響曲の連弾編曲 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第12回 編曲作品演習① 交響曲の室内楽編曲
- 第13回 編曲作品演習② 歌曲のピアノ編曲
- 第14回 公開演奏
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り組む楽曲の楽譜を準備し、演習のための練習を行うこと(目安2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内容の理解度、演習に対する取り組みと成果、ディスカッションや公開演奏への積極的な参加など、平常の授業への取り組みにより評価する。また授業におけるレポートやコメントシートについて、次の授業において講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

- 『鍵盤音楽の歴史』カービー著(全音楽譜出版社)
- 『人間と音楽の歴史Ⅳー1600年から現代まで』(音楽之友社)
- 『ビーダーマイヤー時代ードイツ19世紀前半の文化と社会』ペーン著(三修社)
- 『クララ・シューマン、ヨハネス・ブラームス友情の書簡』原田光子著(ダヴィッド社)
- 『ニューグローヴ世界音楽大辞典 第16巻「編曲」』(講談社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	近現代ドイツ歌曲研究		
担当教員	長島 剛子		
学年	2年	クラス	03
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ドイツ近代歌曲を題材にして、その成立の時代背景を学び、詩の解釈、作品分析等を通して作品の理想的な演奏法を探求する。

#### ◆授業内容・計画◆

ドイツ近代歌曲から各自数曲を選択し授業の中で発表する。なお伴奏者は受講生或いは演奏助手とする。前期は新ウィーン楽派の中心人物であるA.Schönbergとその弟子のA.Bergの作品を取り上げ演奏法の研究を行う。授業の第14回目には発表を行う。

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、曲目選択に関する相談など)
- 第2回 A.Schönbergの歌曲1) Op.2
- 第3回 A.Schönbergの歌曲2) シェーンベルクの作品について(レクチャー)
- 第4回 A.Schönbergの歌曲3) Brettli-Lieder, Op.6
- 第5回 A.Schönbergの歌曲4) Op.15 Nr.1~5
- 第6回 A.Schönbergの歌曲5) Op.15 Nr.6~10
- 第7回 A.Schönbergの歌曲6) Op.15 Nr.11~15
- 第8回 A.Schönberg《Pierrot Lunaire op.21》より
- 第9回 A.Bergの歌曲1) 7つの初期の歌よりNr.1~3
- 第10回 A.Bergの歌曲2) 7つの初期の歌よりNr.4~7
- 第11回 A.Bergの歌曲3) Op.2
- 第12回 A.Bergの歌曲4) ベルクの作品について(レクチャー)
- 第13回 A.Bergの歌曲5) Jugendliederより
- 第14回 発表コンサート
- 第15回 まとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

自身の演奏曲を決めその作品を綿密に研究し、伴奏者との合わせも含め発表する授業回までにしっかり準備しておくこと。(目安一週間に最低3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『新ウィーン楽派によるドイツ歌曲集』長島剛子・梅本実(監修)(音楽之友社)

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	日本の近現代音楽、オムニバス※休講情報注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	2年	クラス	04
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

・明治以降の「日本の近現代音楽」についてその概要や歴史的変遷を理解できる。・上記における国立音楽大学の貢献について理解できる。  
・今後の音楽文化に対する自分の立場や役割について考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、それぞれの領域の講師が行なうオムニバス方式をとる。

##### 1 イントロダクション

- 1) 国立音楽大学の歴史(前島美保)
- 2~3 実用音楽
- 2) 戦後から令和~日本の商業音楽の変遷について(丸山和範)
- 3) 映像音楽の制作について(富貴晴美)
- 4~6 ピアノ
- 4) 西洋音楽黎明期における日本のピアノ作品~山田耕筰を中心に(佐野隆哉)
- 5) 演奏家の立場からみる邦人ピアノデュオ作品の諸相~三善晃、武満徹、西村朗、権代敦彦、杉山洋一らの作品から(加藤真一郎)
- 6) 作曲と演奏の現場から——近藤譲と若い世代(井上郷子)
- 7 電子音楽 その1
- 7) 日本の電子音楽(大矢素子)
- 8~9 ジャズ
- 8) ジャズとクラシックの接点——ハーモニーにおいて(塩谷哲)
- 9) 日本人としてのジャズとの関わり(池田篤)
- 10~11 声楽
- 10) 日本の声楽曲の黎明期(松原有奈)
- 11) 日本歌曲~日本語の発音から生まれる歌唱法(松原有奈)
- 12 打楽器
- 12) 20世紀打楽器音楽から探るリズムと音色の生成&実践(新谷祥子)
- 13~14 電子音楽 その2
- 13) 電子オルガンの可能性(渡辺睦樹)
- 14) 日本におけるコンピュータ音楽の展開(今井慎太郎)
- 15) 前期授業のまとめ——関連情報の整理

\* 各回の授業タイトル・内容は進捗状況や講師の都合により変更になることもあります。

#### ◆準備学習の内容◆

この演習は、各回が異なる領域の情報を扱う授業となるので、授業に先立ち、該当する領域や音楽家について参考資料にあたり、基礎的な情報を得ておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および各講師が課す課題を総合して評価する。課題については適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しないが、各講師からの指示に注意すること。

#### ◆参考図書◆

基本的に各講師から資料が配布される。より深い学修のための参考図書については各講師に問い合わせること。

#### ◆留意事項◆

日本の近現代音楽の歴史的な流れとその特徴的な活動を知るための領域横断的な授業です。すべての講義に出席することでその在りようが理解できるようになるので、欠席は極力しないよう心がけること。

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	音楽と電気音響		
担当教員	片桐 健順		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽や音の録音・編集法について基礎を習得する

#### ◆授業内容・計画◆

音を定着する技術である録音に関連してより良い演奏の記録、作品創作ができる様に実践を通じて理解できることを目指します。

- 1 音響学の基礎 復習
- 2 録音技術の歴史
- 3 録音機材と手法 アプリケーション、ファイルに関して
- 4 録音制作について
- 5 収録目的を考察する
- 6 録音実習-1 単一トラック
- 7 録音実習-2 マルチトラック
- 8 録音実習-3 編集
- 9 録音実習-4 トラックダウン
- 10 録音実習-5 声の收音
- 11 録音実習-6 楽器音の收音
- 12 録音実習-7 複数音源の收音
- 13 録音実習-8 ミックスダウン
- 14 録音実習-9 マスタリング
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。  
 機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、  
 授業内で指示する事を遵守のこと。  
 実習の進行具合によって順序の変更や、補講日などにまとめて実習する場合があります。  
 その際は授業内で改めて相談します。

#### ◆準備学習の内容◆

各種の録音された音を改めて聴取し、その内容を分析、再考してみる(1時間程度)。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、及び実習により評価する。適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

#### ◆参考図書◆

『ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング』 ジョン・アーグル著 沢口真生訳(株式会社ステレオサウンド刊)  
 『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳(市ヶ谷出版社刊)

#### ◆留意事項◆

履修条件:テーマ別演習BⅠも併せて履修すること

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション研究		
担当教員	沢田 千秋		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

本学の貴重書である「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」の編曲楽譜の実演を通して、19世紀の音楽文化と編曲作品の演奏について考察する。

#### ◆授業内容・計画◆

後期

- 第1回 国立音楽大学「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」について
- 第2回 国立音楽大学「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」研究の意義 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第3回 ベートーヴェン編曲作品演習:交響曲 室内楽編曲
- 第4回 ベートーヴェン編曲作品演習:交響曲 ピアノ連弾編曲
- 第5回 ベートーヴェン編曲作品演習:序曲 室内楽編曲
- 第6回 ベートーヴェン編曲作品演習:序曲 ピアノ編曲
- 第7回 ベートーヴェン編曲作品演習:協奏曲 室内楽編曲
- 第8回 ベートーヴェン編曲作品演習:協奏曲 連弾編曲 ～特別講師の先生をお招きして～
- 第9回 ベートーヴェン編曲作品演習:室内楽 室内楽編曲
- 第10回 ベートーヴェン編曲作品演習:室内楽 連弾編曲
- 第11回 ベートーヴェン編曲作品演習:ピアノソナタ 連弾編曲
- 第12回 ベートーヴェン編曲作品演習:器楽のためのソナタ 室内楽編曲
- 第13回 公開演奏に向けての準備
- 第14回 公開演奏 ディスカッション
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り組む楽曲の原曲の楽譜を準備、編曲と比較し、演習のための練習を行うこと(目安2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内容の理解度、演習に対する取り組みと成果、ディスカッションや公開演奏への積極的な参加など、平常の授業への取り組みにより評価する。また授業におけるレポートやコメントシートについて、次の授業において講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

国立音楽大学附属図書館所蔵  
『ベートーヴェン初期印刷楽譜目録』

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	近現代ドイツ歌曲研究		
担当教員	長島 剛子		
学年	2年	クラス	03
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ドイツ近現代歌曲を題材にして、その成立の時代背景を学び、詩の解釈、作品分析等を通して作品の理想的な演奏法を探求する。

#### ◆授業内容・計画◆

ドイツ近現代歌曲から各自数曲選択し授業の中で発表する。なお伴奏者は受講生或いは演奏助手とする。後期はA.Zemlinsky, A.Webernの作品を中心に演奏法の研究を行う。授業の第14回目には発表を行う。

- 第1回 A.Zemlinskyの歌曲1)A.Zemlinskyの作品について(レクチャー)
- 第2回 A.Zemlinskyの歌曲2) op.7, op.10
- 第3回 A.Zemlinskyの歌曲3) op.13, op.27
- 第4回 A.Webernの歌曲1) Frühe Lieder, op.3
- 第5回 A.Webernの歌曲2) op.12
- 第6回 A.Webernの歌曲3) op.15, op.16
- 第7回 A.Webernの歌曲4) A.Webernの作品について(レクチャー)
- 第8回 H.Pfitznerの歌曲
- 第9回 J.Marx, E.W.Korngoldの歌曲
- 第10回 V.Ullmann, H.Eislerの歌曲
- 第11回 P.Hindemith, K.Weillの歌曲
- 第12回 H.Reutter, W.Rihmの歌曲
- 第13回 発表コンサートのリハーサル
- 第14回 発表コンサート
- 第15回 まとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

自身の発表曲を決めその作品を綿密に研究し、伴奏者との合わせも含め発表する授業回までにしっかり準備しておくこと。(目安一週間に最低3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『新ウィーン楽派によるドイツ歌曲集』長島剛子・梅本実(監修)(音楽之友社)

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	日本の近現代音楽、オムニバス※休講情報注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	2年	クラス	04
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

・明治以降の「日本の近現代音楽」についてその概要や歴史的変遷を理解できる。・上記における国立音楽大学の貢献について理解できる。  
・今後の音楽文化に対する自分の立場や役割について考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、それぞれの領域の講師が行なうオムニバス方式をとる。

##### 1～5 作曲

- 1) 日本の音楽評論と創作(白石美雪)
- 2) 武満徹における西洋と日本(白石美雪)
- 3) 戦後日本の作曲家の系譜～伊福部昭とその門弟(菊池幸夫)
- 4) 戦後生まれ以降の日本の作曲家(渡辺俊哉)
- 5) 日本の合唱音楽(上田真樹)

##### 6 吹奏楽

- 6) 日本の吹奏楽の始まり(塚原康子)
- 7) ジャズ その2
- 7) 日本ジャズ事始め(大鳥徹)

##### 8～9 日本音楽

- 8) くにたちと邦楽(前島美保)
- 9) 雅楽の姿——近現代および江戸後期(宮田まゆみ)

##### 10～11 音楽研究

- 10) 竹内道敬先生と竹内道敬文庫資料(吉野雪子)
- 11) 近代日本の洋楽器産業(井上さつき)

##### 12～13 教育音楽・合唱

- 12) 学校音楽教育の歴史(1)——何を指してきたのか(津田正之)
- 13) 学校音楽教育の歴史(2)——どのように実現しようとしてきたのか(津田正之)

##### 14 教育・リトミック

- 14) 日本におけるリトミック教育の普及と展開(伊藤仁美)

##### 15) 後期授業のまとめ——関連情報の整理

\* 各回の授業タイトル・内容は進捗状況や講師の都合により変更になることもあります。

#### ◆準備学習の内容◆

この演習は、各回が異なる領域の情報を扱う授業となるので、授業に先立ち、該当する領域や音楽家について参考資料にあたり、基礎的な情報を得ておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および各講師が課す課題を総合して評価する。課題については適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しないが、各講師からの指示に注意すること。

#### ◆参考図書◆

基本的に各講師から資料が配布される。より深い学修のための参考図書については各講師に問い合わせること。

#### ◆留意事項◆

日本の近現代音楽の歴史的な流れとその特徴的な活動を知るための領域横断的な授業です。すべての講義に出席することでその在りようが理解できるようになるので、欠席は極力しないよう心がけること。

ナンバリング	MGL701U		
科目名	エディション研究A		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-11	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

エディション(出版楽譜)の校訂・編集の方法について学び、エディションを的確に選択・使用して、演奏解釈を深めることに繋がられるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

古典派からロマン派にかけての作曲家たちの作品を中心として、具体的な作品を取り上げ、関連資料を用意して、エディションを作成します。「導入」以外は、演習を中心とする授業です。履修者の専攻や興味の対象に応じて、扱う作品を変更する場合があります。以下は、大まかな予定です。

1. 導入(1)手稿譜と印刷譜
2. 導入(2)原典版と解釈版
3. 導入(3)全集版と作品目録
4. J.S. バッハ(1685-1750)
5. J. ハイドン(1732-1809)
6. W.A. モーツァルト(1756-92)
7. L.v. ベートーヴェン(1770-1827)
8. F. シューベルト(1797-1828)
9. F. メンデルスゾーン(1809-47)
10. R. シューマン(1810-56)
11. F. ショパン(1810-49)
12. F. リスト(1811-86)
13. J. ブラームス(1833-97)
14. B. バルトーク(1881-1945)
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で課した課題に対しては、発表担当者以外もしっかりと取り組んでくること(60分/週)。また、各回の内容については、授業後によく復習をしておくこと(30分/週)。

#### ◆成績評価の方法◆

履修者には、授業計画上の第4回目以降にエディション作成とそれに基づく発表を課します(発表の回数と内容については、履修者数や履修者の専攻に応じて適宜調整します)。また、授業内では、各発表を踏まえたディスカッションを行います。評価は、これらの授業への取り組みをもとに総合的に行います。発表内容については、その都度、教員が講評を加えます。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜、資料を配布する。

#### ◆参考図書◆

ジェイムズ・グリーア『楽譜の校訂術 音楽における本文批判:その歴史・方法・実践』高久 桂訳、東京:道和書院、2023年; 吉成順『知って得するエディション講座』、東京:音楽之友社、2012年; Howard Mayer Brown(土田英三郎)「校訂」、『ニューグローヴ世界音楽大事典』第6巻pp.453-59、東京:講談社、1993年。

#### ◆留意事項◆

演習を中心とするので、積極的な取り組みに期待しています。

ナンバリング	MGL702U		
科目名	エディション研究B		
科目詳細			
担当教員	安田 和信		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

エディションの校訂・編集の方法を習得した上で、既存のエディションをより良く使用し、自らの演奏解釈を深めることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション(エディション研究の基礎)
2. 自筆譜、筆写譜、印刷譜
3. 批判版、批判報告
4. 実用版・解釈版
5. エディション作成の演習(18世紀前半の音楽① J.S. Bach)
6. エディション作成の演習(18世紀前半の音楽② G.F.Handel)
7. エディション作成の演習(18世紀後半の音楽① J.Haydn)
8. エディション作成の演習(18世紀後半の音楽② W.A.Mozart)
9. エディション作成の演習(19世紀前半の音楽① L.v.Beethoven)
10. エディション作成の演習(19世紀前半の音楽② F.Chopin)
11. エディション作成の演習(19世紀後半の音楽① J.Brahms)
12. エディション作成の演習(19世紀後半の音楽② F.Liszt)
13. エディション作成の演習(20世紀前半の音楽① C.Debussy)
14. エディション作成の演習(20世紀前半の音楽② B.Bartok)
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内容で触れた各回のキーワードや課題となる作品の楽譜について事前に予習しておくこと(60分)。授業後はその内容についてもう一度復習しておくこと(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

履修者には授業計画で示した第5回から第14回までのうち少なくとも1度はエディション作成とそのプレゼンテーションを行ってもらい、他の履修者を交えたディスカッションを実施する。評価はそれらの取り組みをもとに総合的に判断すること。各学生のプレゼンにはその都度教員が講評を加える。なお、取り上げる作品は受講者の顔ぶれや関心に従って変更することがある。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『ニューグローヴ世界音楽大事典第6巻』(講談社、1993-95)の「校訂」の項目

#### ◆留意事項◆

ディスカッションを積極的にしたい学生の履修を歓迎する。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	作品創作		
担当教員	池原 舞		
学年	1年	クラス	08
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

さまざまな研究の方法論を知り、研究とは何かを体感する。最終回までに、修士論文もしくは課題研究の大まかな分析を終了させ、論文の目次を仮決定する。

#### ◆授業内容・計画◆

修士論文もしくは課題研究論文執筆を進めていくにあたってガイドとなるような授業を行う。

1. ガイダンス、個別指導(各々と面談)
2. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生A、学生B)
3. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生C、学生D)
4. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生E、学生A)
5. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生B、学生C)
6. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生D、学生E)
7. 論文ファイル作成①
8. 先行研究発表(学生A、学生B、学生C)
9. 先行研究発表(学生D、学生E)、論文ファイル作成②
10. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生A、学生B)
11. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生C、学生D)
12. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生E、学生A、学生B)
13. 個別指導(文献講読や楽曲分析:学生C、学生D、学生E)
14. 仮目次発表(全員)
15. 目次修正、執筆スケジュール計画(全員)

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究課題に沿って、随時進める。必要な準備時間個人によって異なるだろうが、週14時間以上は要すると思われる。

\* 初回授業までに(1年生の前期のうちに)、修士論文もしくは課題研究で取り組みたい課題を見つけてきてください(複数案あっても構いません)。個別に相談が必要であれば、夏休み以前でも構いませんので、メールしてください。

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表、課題への取り組み姿勢、精度に基づき、総合的に判断する。フィードバックは随時授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

各自の研究課題に基づき、各自で用意する。図書館を活用すること。

#### ◆参考図書◆

阿部幸大 2024 『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』 東京:光文社  
 酒井聡樹 2015 『これから論文を書く若者のために 大改訂増補版』 東京:共立出版

#### ◆留意事項◆

履修者の知識や理解度、履修人数に応じて、授業内容を変更する場合がある。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	作品創作		
担当教員	池原 舞		
学年	2年	クラス	08
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文もしくは課題研究論文を書き上げる。

#### ◆授業内容・計画◆

個人指導を中心に、修士論文もしくは課題研究論文執筆のサポートを行う。必要に応じて講義をする場合もある。

1. 個別指導(全員) \* 本文執筆スタート(以降、1週間、修士論文で1500字ペース)
2. 個別指導(全員)
3. 個別指導(全員)
4. 個別指導(全員)
5. 個別指導(全員)
6. 個別指導(全員)
7. 個別指導(全員) \* 本文25%完成を目安に(以降、1週間、修士論文で1500字ペース)
8. 個別指導(全員)
9. 個別指導(全員)
10. 個別指導(全員)
11. 個別指導(全員)
12. 個別指導(全員)
13. 個別指導(全員)
14. 個別指導(全員) \* 本文50%完成を目安に(以降、1週間、修士論文で2000字ペース)
15. まとめ

以降、各自のペースで本文を送ってもらい、都度、メール指導します。ただし、完成目安文字数に達していないメンバーは、夏休み初期から必要な量のオンライン指導を行います。

- 8/15 \* 本文75%完成を目安に(以降、1週間、修士で3000字ペース)  
 8/30 \* 本文90%完成を目安に(以降、1週間、修士で3000字ペース)  
 9/10 \* 本文完成を目安に  
 9/15 \* 「要旨」の作成、「修士論文提出証」の準備、論文の印刷・製本  
 9/20 \* 「修士論文」および「研究報告」を大学に提出

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究課題に沿って、随時進める。必要な準備時間個人によって異なるだろうが、週14時間以上は要すると思われる。

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表、課題への取り組み姿勢、精度に基づき、総合的に判断する。フィードバックは随時授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

各自の研究課題に基づき、各自で用意する。図書館を活用すること。

#### ◆参考図書◆

ケイト・Lトウラビアン著 2012 『シカゴ・マニュアル』 沼口隆・沼口好雄訳 東京:慶應義塾大学出版会

#### ◆留意事項◆

履修者の知識や理解度、履修人数に応じて、授業内容を変更する場合がある。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	塚田 花恵, 齋藤 由香利		
学年	1年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

◆授業目標◆

自分の学術的関心を明確にする。学術論文の作成法を知り、執筆計画を立てる。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定
3. 資料収集の方法
4. 研究計画書の作成
5. 研究計画の発表(1): 学生グループA
6. 研究計画の発表(2): 学生グループB
7. 研究計画の発表(3): 学生グループC
8. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自で設定したテーマについて、学習や作業を進める。準備のために週5時間は見込んで、スケジュールを自己管理すること。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み(50%)、及び、研究計画書(50%)により評価を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。□

◆参考図書◆

適宜指示する。□

◆留意事項◆

課題を確実に実行し、授業に積極的に参加することを心がける。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

1. 専門的な音楽学研究の方法を知る。2. 自分のテーマを見つけ、次年度11月提出の「研究報告」作成の見通しを立て、調査・考察の一步を踏み出す。3. 他者の研究テーマに関心を持って意見を言える

#### ◆授業内容・計画◆

1. スケジュール確認、テーマ設定に向けて、先行研究の意義
2. 論文の事例研究
3. 文献探しのコツ
4. 執筆のアウトライン(章立ての構想)
5. 「研究報告」大まかな計画の発表 (1) 学生グループA
6. 「研究報告」大まかな計画の発表 (2) 学生グループB  
～第1回課題研究計画(12月中旬)～
7. 参考文献リストの作成
8. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

参考文献調査、リストアップ、読み込み。週3時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

課題研究計画の内容。着眼点、具体性、学究性を評価。授業内でコメントや添削を行う。□

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『論文・研究報告の執筆ガイド』、国立音楽大学大学院音楽研究科、2023年。

#### ◆参考図書◆

『[改訂新版]音楽の文章術 論文・レポートの執筆から文献表記法まで』、リチャード・J. ウィンジェル著、宮澤淳一・小倉眞理訳、春秋社、2014年。

『学術論文の技法 新訂版』、斎藤孝、西岡達裕著、日本エディタースクール出版部、2005年。

『論文のレトリック』、澤田昭夫著、講談社学術文庫、1983/96年。

#### ◆留意事項◆

なし□

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	中田 朱美		
学年	1年	クラス	O4
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

2年次に提出する「課題研究報告」「修士論文」の完成に向けて、適切な資料を収集して読み進め、自分にあった研究テーマを見定める。自分のこだわりや関心を大いに自問し、研究対象と方法論を確認しながら、執筆準備を進める。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 暫定的な研究テーマを考える
- 第2回 アプローチ、方法論
- 第3回 資料の調査方法、書式
- 第4回 資料一覧の発表、一部先行研究の紹介①
- 第5回 「課題計画研究書」の準備
- 第6回 章立て原案の発表、一部先行研究の紹介②
- 第7回 個人発表
- 第8回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

研究法 I の授業が始まる前から、自分のこだわりや関心を意識し、問題意識を突き詰めてゆきましょう。かつ少なくとも日本語の基本文献は網羅的に読んでおきましょう。開講後は、2つのグループに分かれて隔週で発表していただき、各人の課題を確認します(準備目安:毎週10時間)。積極的かつ誠実に作業を進める姿勢を期待します。

#### ◆成績評価の方法◆

隔週で、各人のテーマに沿った作業課題を確認します。これらの課題への取り組みや、授業内のディスカッションへの参加姿勢を勘案します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

なし□

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	神部 智		
学年	1年	クラス	05
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究の作成に向けて、基本的な学術的アプローチができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 研究テーマの設定
3. 文献の調査と整理
4. 文献の検証と考察
5. 研究の方法とまとめ方
6. 先行研究の紹介
7. 来年度の研究計画
8. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各課題について、授業計画に沿った形でまとめておくこと。予習・復習の目安:2時間/週

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容、レジュメ、ディスカッションにおける発言、および平常の授業への取り組みにより評価する。課題等については、授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	音楽の科学		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	07
講義室	6-301~303	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究または修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究の目的
2. 先行研究(1)の調査法
3. 先行研究(1)と関連技術の調査
4. 先行研究(1)と関連技術のまとめ
5. 先行研究(1)と関連技術の発表資料の作成
6. 中間報告資料の作成
7. 中間報告
8. 研究のテーマの選定と決定

#### ◆準備学習の内容◆

自身の研究に関連する技術や研究などをまとめておくこと(目安は1.5時間)

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができていないか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom, Slack, Google Drive, Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	09
講義室	2-38	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究または修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して自らの発表力を身に付け、ディスカッション力を向上させる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究とは
2. 先行研究の調査
3. 関連技術の調査
4. トピックからテーマへ
5. 研究計画資料の作成
6. 中間報告発表・討論
7. 来年度の研究計画

#### ◆準備学習の内容◆

各々の研究テーマに則し、関連する資料・技術の調査、研究の実践、執筆作業等に励むこと。週1時間以上を目安とする。

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・研究内容が学術的観点から妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているかどうか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているかどうか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているかどうか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom, Slack, Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	神部 智		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

研究報告作成の準備を実践的に学びながら進める。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 研究テーマの設定
3. 文献の調査
4. 文献の整理
5. 研究の方法
6. 研究のまとめ方
7. 文献の解読
8. 先行研究の紹介
9. 学術的アプローチの基本
10. 章立てと全体のバランス
11. 研究発表(1)グループA
12. 研究発表(2)グループB
13. 研究発表(3)グループC
14. 研究発表(4)グループD
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各課題について、授業計画に沿った形でまとめておくこと。予習・復習の目安:2時間/週

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容、レジュメ、ディスカッションにおける発言、および平常の授業への取り組みにより評価する。課題等については、授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

課題を確実に実行し、授業に積極的に参加することを心がける。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	塚田 花恵		
学年	2年	クラス	02
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

論文・研究報告の作成を、実践的に学びながら進める。

#### ◆授業内容・計画◆

1. テーマ設定の再検討
2. 先行研究批判(1):学生グループA
3. 先行研究批判(2):学生グループB
4. 先行研究批判(3):学生グループC
5. 研究方法の再検討(1):学生グループA
6. 研究方法の再検討(2):学生グループB
7. 研究方法の再検討(3):学生グループC
8. 章立ての再検討(1):学生グループA
9. 章立ての再検討(2):学生グループB
10. 章立ての再検討(3):学生グループC
11. 執筆計画の再検討(1):学生グループA
12. 執筆計画の再検討(2):学生グループB
13. 執筆計画の再検討(3):学生グループC
14. 書式の再確認
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。準備のために週5時間程度は見込んで、スケジュールを自己管理すること。

#### ◆成績評価の方法◆

発表への取り組み(50%)、及び、研究計画書(50%)により評価を行う。発表に対しては授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

課題を確実に実行し、授業に積極的に参加することを心がける。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	2年	クラス	03
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

- 1.「研究報告」の本論部分の草稿を三分の二程度書きあげる
2. 他者の研究内容に対し、突っ込んだ質問・意見を言えるようになる

#### ◆授業内容・計画◆

1. 先行研究紹介1-1 学生グループA
2. 先行研究紹介1-2 学生グループB
3. 先行研究紹介1-3 学生グループC
4. 先行研究紹介2-1 学生グループA
5. 先行研究紹介2-2 学生グループB
6. 先行研究紹介2-3 学生グループC
7. 一次資料調査報告1-1 学生グループA
8. 一次資料調査報告1-2 学生グループB
9. 一次資料調査報告1-3 学生グループC  
～第2回課題研究計画(6月上旬)～
10. 一次資料調査報告2-1 学生グループA
11. 一次資料調査報告2-2 学生グループB
12. 一次資料調査報告2-3 学生グループC
13. 一次資料調査報告3-1 学生グループA, B
14. 一次資料調査報告3-2 学生グループB, C
15. 総括

#### ◆準備学習の内容◆

発表のための調査およびハンドアウト作成。週3時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容(授業内で直後にコメントする)、およびディスカッションへの貢献度(授業内で定期的にコメントする)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『論文・研究報告の執筆ガイド』、国立音楽大学大学院音楽研究科、2023年。

#### ◆参考図書◆

『〔改訂新版〕音楽の文章術 論文・レポートの執筆から文献表記法まで』、リチャード・J. ウィンジェル著、宮澤淳一・小倉眞理訳、春秋社、2014年。

『学術論文の技法 新訂版』、斎藤孝、西岡達裕著、日本エディタースクール出版部、2005年。

『論文のレトリック』、澤田昭夫著、講談社学術文庫、1983/96年。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	中田 朱美		
学年	2年	クラス	O4
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

- 1.「課題研究報告」の本論部分の草稿を三分の二程度書きあげる
2. お互い建設的な意見交換ができる
3. 専門的な知見を読者と共有するために論理的に表現する

#### ◆授業内容・計画◆

1. 資料収集の再確認
2. 先行研究の精査
3. 研究意義の確認
4. 方法論の確認
5. 検証報告① 奇数グループ1回目
6. 検証報告② 偶数グループ1回目
7. 検証報告③ 奇数グループ2回目
8. 検証報告④ 偶数グループ2回目
9. 検証報告⑤ 奇数グループ3回目
10. 検証報告⑥ 偶数グループ3回目
11. 執筆と発表① 奇数グループ1回目
12. 執筆と発表② 偶数グループ1回目
13. 執筆と発表③ 奇数グループ2回目
14. 執筆と発表④ 偶数グループ2回目
15. 計画表の再確認

#### ◆準備学習の内容◆

研究法Ⅰに引きつづき、隔週で発表する課題の準備、論文の執筆・推敲作業(目安毎週10時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

隔週で、各人のテーマに沿った課題を確認します。これらの課題への取り組みや、授業内のディスカッションへの参加姿勢を勘案します。課題の発表内容については都度講評し、改善点や次なる課題を確認します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	濱野 峻行		
学年	2年	クラス	07
講義室	2-38	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究または修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究のテーマの選定
2. 研究のテーマの決定
3. 先行研究(2)の調査
4. 先行研究(2)の発表資料の作成
5. 先行研究(2)の発表とフィードバック
6. 先行研究(2)の討論とフィードバック
7. 研究の目的口
8. 調査研究の実施法
9. 調査研究(1)の実施口
10. 調査研究(1)のまとめ口
11. 調査研究(2)の実施口
12. 調査研究(2)のまとめ口
13. 中間報告資料の作成口
14. 中間報告資料の発表と全体討論およびフィードバック
15. 最終報告のための目次の設定

#### ◆準備学習の内容◆

修士2年後期に提出する報告書の調査はここで完了できるように、準備しておく必要がある(目安は1.5時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom、Slack、Google Drive、Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	音楽の科学		
担当教員	三浦 雅展		
学年	2年	クラス	08
講義室	6-301~303	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究または修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究のテーマの選定
2. 研究のテーマの決定
3. 先行研究(2)の調査
4. 先行研究(2)の発表資料の作成
5. 先行研究(2)の発表とフィードバック
6. 先行研究(2)の討論とフィードバック
7. 研究の目的口
8. 調査研究の実施法
9. 調査研究(1)の実施口
10. 調査研究(1)のまとめ口
11. 調査研究(2)の実施口
12. 調査研究(2)のまとめ口
13. 中間報告資料の作成口
14. 中間報告資料の発表と全体討論およびフィードバック
15. 最終報告のための目次の設定

#### ◆準備学習の内容◆

修士2年後期に提出する報告書の調査はここで完了できるように、準備をしておく必要がある(目安は1.5時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom、Slack、Google Drive、Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MGL706N		
科目名	研究法Ⅲ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	神部 智		
学年	2年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

研究報告を執筆し完成させる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 研究報告のアウトライン
3. 研究報告の章立て
4. 研究報告の内容
5. 研究報告の結論
6. 研究報告の文献表作成
7. 研究報告の完成
8. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各課題について、授業計画に沿った形でまとめておくこと。予習・復習の目安:2時間/週

#### ◆成績評価の方法◆

演発表内容、レジュメ、ディスカッションにおける発言、および平常の授業への取り組みにより評価する。課題等については、授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

課題を確実に実行し、授業に積極的に参加することを心がける。

ナンバリング	MGL706N		
科目名	研究法Ⅲ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	塚田 花恵		
学年	2年	クラス	02
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

論文・研究報告を執筆し、完成させる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 進捗状況の報告
2. 研究結果の報告(1):学生グループA
3. 研究結果の報告(2):学生グループB
4. 研究結果の報告(3):学生グループC
5. 完成原稿の発表(1):学生グループA
6. 完成原稿の発表(2):学生グループB
7. 完成原稿の発表(3):学生グループC
8. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。準備のために週10時間程度は見込んで、スケジュールを自己管理すること。

#### ◆成績評価の方法◆

発表への取り組みにより評価を行う。発表に対しては授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

課題を確実に実行し、授業に積極的に参加することを心がける。

ナンバリング	MGL706N		
科目名	研究法Ⅲ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	2年	クラス	03
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

1.「研究報告」を完成させる 2. 他者の研究内容に対し、突っ込んだ質問・意見を言えるようになる

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.「研究報告」原稿発表1-1 学生グループA
- 2.「研究報告」原稿発表1-2 学生グループB
- 3.「研究報告」原稿発表1-3 学生グループC
- 4.「研究報告」原稿発表2-1 学生グループA
- 5.「研究報告」原稿発表2-2 学生グループB
- 6.「研究報告」原稿発表2-3 学生グループC
7. 要旨の検討
8. 総括

#### ◆準備学習の内容◆

原稿執筆および発表のためのハンドアウト作成。週10時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容(授業内で発表直後にコメントする)、原稿の出来(添削を行う)、ディスカッションへの貢献度(定期的にコメントする)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

『論文・研究報告の執筆ガイド』、国立音楽大学大学院音楽研究科、2023年。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGL706N		
科目名	研究法Ⅲ		
科目詳細	混合クラス		
担当教員	中田 朱美		
学年	2年	クラス	O4
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

「課題研究報告」「卒業論文」の執筆を通じて、自分ならではの発見を大切にしながら、その研究意義や学術的な検証方法を認識し、論述することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 執筆内容の発表とディスカッション① 奇数グループ1回目
2. 執筆内容の発表とディスカッション② 偶数グループ1回目
3. 執筆内容の発表とディスカッション③ 奇数グループ2回目
4. 執筆内容の発表とディスカッション④ 偶数グループ2回目
5. 執筆内容の発表とディスカッション⑤ 奇数グループ3回目
6. 執筆内容の発表とディスカッション⑥ 偶数グループ3回目
7. 要旨の準備
8. 総括

#### ◆準備学習の内容◆

隔週で発表する課題の準備、論文の執筆・推敲作業(目安毎週最低20時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回ないし隔週で、各人のテーマに沿った作業課題を確認します。これらの課題への取り組みや、授業内のディスカッションへの参加姿勢を勘案します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGL706N		
科目名	研究法Ⅲ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	濱野 峻行		
学年	2年	クラス	07
講義室	2-38	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究または修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究内容の整理口
2. 報告書の章立てと目次作成
3. 執筆(1)基礎内容
4. 執筆(2)調査内容・検討内容口
5. 執筆(3)精査
6. 執筆(4)まとめと議論口
7. 討論
8. 最終提出物の完成

#### ◆準備学習の内容◆

研究法IIで検討した内容を本授業では執筆を進めていくので、本授業の前に研究法IIの内容をまとめておく必要がある(目安は1.5時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom, Slack, Google Drive, Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MGL706N		
科目名	研究法Ⅲ		
科目詳細	音楽の科学		
担当教員	三浦 雅展		
学年	2年	クラス	08
講義室	6-301~303	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

課題研究または修士論文を学术论文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究内容の整理口
2. 報告書の章立てと目次作成
3. 執筆(1)基礎内容
4. 執筆(2)調査内容・検討内容口
5. 執筆(3)精査
6. 執筆(4)まとめと議論口
7. 討論
8. 最終提出物の完成

#### ◆準備学習の内容◆

研究法Ⅱで検討した内容を本授業では執筆を進めていくので、本授業の前に研究法Ⅱの内容をまとめておく必要がある(目安は1.5時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom、Slack、Google Drive、Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MCS733N		
科目名	ライブ・エレクトロニクス実習		
科目詳細			
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ライブエレクトロニクス作品の上演に関わる諸技術を修得し、演奏できる。

#### ◆授業内容・計画◆

コンピュータを始めとする電子テクノロジーとアコースティック楽器を組み合わせるライブエレクトロニクスは、近年においてもはや特殊なものではなく、レパートリーとして一般化しつつある。この授業は、主に演奏専攻学生と作曲専攻学生の履修を想定し、ライブエレクトロニクス作品を独力で上演するために必要最低限の技能を身に付けることを目的としている。

独奏楽器とコンピュータのためにコート・リップが作曲した「Music」シリーズ(<https://www.cortlippe.com/compositions.html>)を主な題材とし、ライブエレクトロニクス作品のコンセプトを学んだ上で、上演に関わる技術を総合的に修得する。初学者は、マイクロフォンやミキサーなど音響機器のセットアップや楽曲パッチ(コンピュータ・プログラム)の基本的な操作方法を学び、経験者はパッチの仔細な分析を行う。その後、上演までのプロセスを段階的に検討し、授業内で実際に演奏して評価し合い、困難や問題点を顕在化させる。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) ライブエレクトロニクス作品のコンセプト
- 3) 「Music」シリーズ試聴
- 4) パッチのアーキテクチャ
- 5) 音響セットアップ
- 6) 演奏におけるパッチ操作
- 7) 中間報告
- 8) パッチ分析1前半
- 9) パッチ分析2後半
- 10) リハーサルでのチェックポイント
- 11) リハーサル1前半
- 12) リハーサル2後半
- 13) 成果発表1前半
- 14) 成果発表2後半
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、積極的に自主リハーサルを行うこと。目安週1時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終成果発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および最終成果発表後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

Performing Electronic Music Live (Kirsten Hermes 著/ Focal Press)  
 Live Electronic Music: Composition, Performance, Study (Friedemann Sallisほか 編/ Routledge)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL709N		
科目名	Research in English I		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

この授業前期の結果、学生は：(1)音楽の作曲法・奏法・分析・解釈に関係がある英文論文書を読めるようになり、(2)それらの主眼・論法や重要な点を示すようになり、(3)及びそれらの内容を判断し批評できるようになる。学生は英語で、英文を効果的に要約できるようになり、及び音楽に関する諸研究テーマを論じられるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

この授業では、作曲技法や奏法に関する実技的な問題点も、音楽の分析や解釈等に関する理論的問題点も含む英語で行われている音楽研究の現在のトレンドを検討する。これらの問題点を探りながら、学生は英語で行った音楽研究を読解できるようになることの上、英文の読み書き能力や考察力を高めるようになる。学生の研究目標に合わせ、仏文も独文も検討することも可能。

In this class we will investigate current trends in music research in English, including practical issues related to music composition and performance practice, as well as more theoretical issues related to music analysis, interpretation, and aesthetics. As we explore these issues, students will develop their writing and critical thinking skills while also gaining the ability to understand and apply research about music conducted in English. Depending on student interest, it is possible for inquiry to be expanded to include also research conducted in French and/or German.

As a result of activities in the spring semester, students will be able to:

- [1] read academic articles (in English) related to the areas of music composition, analysis, performance, and interpretation;
- [2] identify the main arguments and key points raised in a piece of academic writing;
- [3] evaluate and critique the contents of an academic article written in English;
- [4] write effective summaries of articles using their own words (in English);
- [5] discuss and debate research topics (in English).

- 1)序説、英語で行なっている音楽研究について Introduction and overview
- 2)論文の一般構造、段落の一般構造について Basic structure of academic writing in English
- 3)論文の本論について、構造の比較 Comparison of methods and approaches
- 4)論文の参考文献、参考文献の探し方 Common styles for references and citation
- 5)学術論文の読み方 Reading an academic article in English (practice and discussion)
- 6)読書論点についてのディスカッション Finding the main points in an academic article
- 7)学術論文の読書 Reading practice
- 8)読書論点のディスカッション Discussion of main points
- 9)学術論文の読書 Reading practice
- 10)読書論点のディスカッション Discussion of main points
- 11)学術論文の読書 Reading practice
- 12)読書論点のディスカッション Discussion of main points
- 13)学術論文の読書 Reading practice
- 14)読書論点のディスカッション Discussion of main points and issues
- 15)まとめ、後期の計画 Review and preparation for fall semester

#### ◆準備学習の内容◆

授業にそなえるため、課題英文論文を読んだり、関連がある作品を聴いたり、それらについて筆記する。学生の研究目標に合わせ、仏文論文も独文論文も検討することも可能。目安毎週3時間。  
Each week, students read an assigned article in English (or possibly also French or German), listen to any relevant works, and take notes for discussion.

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

- T. Herbert. Music in Words: A Guide to Researching and Writing about Music (Oxford University Press, 2009)  
 D. K. Holoman. Writing about Music: A Style Sheet, 3rd Edition (University of California Press, 2014)  
 L. J. Sampsel. Music Research: A Handbook, 2nd Edition (Oxford University Press, 2015)  
 K. L. Turabian et al. A manual for writers of research papers, theses, and dissertations: Chicago Style for students and researchers, 8th Edition (University of Chicago Press, 2013)  
 その他

#### ◆留意事項◆

この授業は主に英語で行う。だが、高度な英語力は必要となく、学生のニーズに授業課題のための求められた英語力レベルは適合する。学生の研究目標に合わせ、仏文も独文も検討することも可能。  
 専攻に関わらず全学の大学院生の参加をぜひ歓迎する。  
 Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities. Depending on student interest, it is possible for inquiry to be expanded to include also research conducted in French and/or German.  
 Graduate students from all school departments are welcome to participate regardless of specialty.

ナンバリング	MCL710N		
科目名	Research in English II		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	ティプロマポリシーとの関連:3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

この授業後期の結果、学生は：(1)英語で研究提案書を書くこと、(2)修士・博士論文を行うための基礎を築くこと、(3)選んだトピックに対する適切な英文文献を探して記録すること、及び(4)諸英文文献から研究情報を集めて纏めることができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

この授業では、作曲技法や奏法に関する実技的な問題点も、音楽の分析や解釈等に関する理論的問題点も含む英語で行われている音楽研究の現在のトレンドを検討する。これらの問題点を探りながら、学生は英語で行った音楽研究を読解できるようになることの上、英文の読み書き能力や考察力を高めるようになる。学生の研究目標に合わせ、仏文も独文も検討することも可能。

In this class we will investigate current trends in music research in English, including practical issues related to music composition and performance practice, as well as more theoretical issues related to music analysis, interpretation, and aesthetics. As we explore these issues, students will develop their writing and critical thinking skills while also gaining the ability to understand and apply research about music conducted in English. Depending on student interest, it is possible for inquiry to be expanded to include also research conducted in French and/or German.

As a result of activities in the fall semester, students will be able to write a research proposal (in English) and lay the foundations for carrying out their own research project. Students will be able to locate and properly document (in English) sources for information relevant to a chosen topic, as well as summarize and synthesize (in English) research data and other information from a variety of sources.

- 第1回目：序説、トピックの口決定 Introduction and selection of topics
- 第2回目：参考文献の収集 Collecting sources
- 第3回目：参考文献の書き方 Writing a bibliography
- 第4回目：参考文献(引用と参照) Review of collecting and citing sources
- 第5回目：問題点・論点の収集 Gathering the issues
- 第6回目：論文の書き方(先行研究について) Writing the background section
- 第7回目：論文の書き方(研究方法について) Writing about research methods
- 第8回目：論文の書き方(序論・目的・意図について) Writing the introduction (Thesis statement)
- 第9回目：研究の提案書 Writing a research proposal in English
- 第10回目：提案書の復習 Review of research proposals
- 第11回目：プレゼンテーションを口行うためのコツ Presentation guidelines
- 第12回目：復習、個人指導(論文指導) Review
- 第13回目：研究発表 Presentations (Group A)
- 第14回目：研究発表 Presentations (Group B)
- 第15回目：まとめ Conclusion

#### ◆準備学習の内容◆

毎回の授業を準備するため、学生は選んだ英文論文を読んだり、関連がある作品を聞いたり、個人研究に適切な文献を集めたり、それらについて筆記する。学生の研究目標に合わせ、仏文論文も独文論文も検討することも可能。

Each week, students read an assigned article in English (or possibly also French or German), listen to any relevant works, collect reference materials for their individual research, and take notes for discussion.

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表。その他、平常の授業への取り組み、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

- T. Herbert. Music in Words: A Guide to Researching and Writing about Music (Oxford University Press, 2009)
- D. K. Holoman. Writing about Music: A Style Sheet, 3rd Edition (University of California Press, 2014)
- L. J. Sampsel. Music Research: A Handbook, 2nd Edition (Oxford University Press, 2015)
- K. L. Turabian et al. A manual for writers of research papers, theses, and dissertations: Chicago Style for students and researchers, 8th Edition (University of Chicago Press, 2013)
- その他

#### ◆留意事項◆

この授業は主に英語で行う。だが、高度な英語力は必要となく、学生のニーズに授業課題のための求められた英語力レベルは適合する。学生の研究目標に合わせ、仏文も独文も検討することも可能。

専攻に関わらず全学の大学院生の参加をぜひ歓迎する。  
 Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities. Depending on student interest, it is possible for inquiry to be expanded to include also research conducted in French and/or German.  
 Graduate students from all school departments are welcome to participate regardless of specialty.

ナンバリング	MVP701N		
科目名	声楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方）

第2回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(1)学生の研究対象になる歌曲を2曲

第3回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(2)2回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(3)3回目の復習及び別の歌曲2曲

第5回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(4)4回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(5)4回目の復習及びオペラのアリア1曲

第7回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(6)5回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(7)歌曲1曲とオラトリオ、宗教曲のアリア1曲

第9回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(9)別の時代の歌曲及びアリア1曲ずつ

第11回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(10)9回目の復習

第12回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(11)歌曲及びアリア1曲ずつ

第13回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

◆準備学習の内容◆

毎日1時間以上の練習をすること

◆成績評価の方法◆

毎回の演習時に講評としてフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP702N		
科目名	声楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方）

第2回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(1)中期歌曲1曲

第3回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(2)1回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(3)2回目の復習及び新たな歌曲1曲

第5回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(4)3回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(5)他言語の歌曲1曲

第7回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(6)5回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(7)歌曲及びオペラアリア1曲ずつ

第9回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(9)オペラアリア、オラトリオ、宗教曲1曲ずつ

第11回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(10)9回目の復習

第12回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(11)10回目の復習

第13回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

◆準備学習の内容◆

毎日1時間以上の練習をすること

◆成績評価の方法◆

毎回の演習時に講評としてフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP703N		
科目名	声楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探索し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(1)学生が取り上げたテーマの歌曲2曲

第3回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(2)2回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(3)2回目と別の歌曲及びオラトリオ1曲

第5回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(4)4回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(5)4回目と別の歌曲2曲及びモーツァルトのアリア1曲

第7回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(6)6回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(7)6回目と別の2曲とオラトリオ1曲

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

宿題とされた曲について日本語訳をし、発音記号を明記すること。その後実技練習をして授業に備えること。

#### ◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックすると共に、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

#### ◆参考図書◆

授業内で指示

#### ◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP704N		
科目名	声楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(1)前期に取り上げた歌曲の復習

第3回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(2)モーツァルトのアリア及びオラトリオ2曲

第4回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(3)3回目の復習

第5回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(4)学生のテーマに沿った歌曲(前期に取り上げた曲目)3曲

第6回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(5)5回目の復習

第7回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(6)今までに取り上げた歌曲の復習

第8回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(7)今までに取り上げたオラトリオ曲の復習

第9回 身体を使い発声練習

修了演奏に向けて、古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

修了演奏に向けて、古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(9)8回目の復習

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。  
宿題とされた曲について日本語訳をし、発音記号を明記すること。その後実技練習をして授業に備えること。

#### ◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、成果を総合的に評価する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

#### ◆参考図書◆

授業内で指示

#### ◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVS701N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子, 黒田 博, 澤畑 恵美, 福井 敬, 清水 華澄, 平井 香織, 望月 哲也, 中村 敬一, 安部 克彦, 平野 桂子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

オペラを演奏するために必要な音楽表現及び舞台表現を演習を通して学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習① レチタティーヴォセッコ)

第3回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習② アリア中心)

第4回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習③ 小アンサンブル)

第5回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習④ 大アンサンブル(フィナーレなど))

第6回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)

第7回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)

第8回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)

第9回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)

第10回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)

第11回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)

第12回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)

第13回 前期試演会に向けて(通し稽古)

第14回 前期試演会に向けて(ゲネプロ)

第15回 前期試演会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。(目安毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS702N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子, 黒田 博, 澤畑 恵美, 福井 敬, 清水 華澄, 平井 香織, 望月 哲也, 中村 敬一, 安部 克彦, 平野 桂子		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰを踏まえ、Ⅱではドイツ語の作品を取り上げ、オペラを演奏するために、より必要な音楽表現・舞台表現を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習① ドイツ語について)
- 第2回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習② 台詞部分の発音指導)
- 第3回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習③ 音楽部分の発音指導)
- 第4回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習④ 小アンサンブル)
- 第5回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習⑤ 大アンサンブル、フィナーレ)
- 第6回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)
- 第7回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)
- 第8回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)
- 第9回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)
- 第10回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)
- 第11回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 荒通し)
- 第12回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ 直し稽古)
- 第13回 後期試演会に向けて(通し稽古)
- 第14回 後期試演会に向けて(ゲネプロ)
- 第15回 後期試演会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。  
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。(目安毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS703N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子, 黒田 博, 澤畑 恵美, 福井 敬, 清水 華澄, 平井 香織, 望月 哲也, 中村 敬一, 安部 克彦, 平野 桂子		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰ・Ⅱで培った能力を大学院オペラ公演で発揮するため、更に深くオペラの表現方法を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽稽古①レチタティーヴォを中心とした)

第3回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽稽古②アリア中心)

第4回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽稽古③アンサンブル中心)

第5回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽稽古④通し)

第6回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(前期試演会の範囲決定。演技指導)

愛7回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古①基本的動作の確認)

第8回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古②アリア中心)

第9回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古③アンサンブル中心)

第10回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古④全体の流れを確認)

第11回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(荒通し)

第12回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(直し稽古)

第13回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(通し稽古)

第14回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(ゲネプロ)

第15回 前期試演会(本番)

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。  
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。(目安毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS704N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子, 黒田 博, 澤畑 恵美, 福井 敬, 清水 華澄, 平井 香織, 望月 哲也, 中村 敬一, 安部 克彦, 平野 桂子		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1.2.4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰ～Ⅲで培った表現方法を、大学院オペラ公演、修了演奏会にて十分に発揮し、オペラ歌手、演奏家としての第1歩とする。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習① 公演指揮者によるレチタティーヴォセッコの指導)
- 第2回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習② 公演指揮者による音楽指導)
- 第3回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習③ 公演指揮者によるアリア指導)
- 第4回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古① 公演指揮者、演出家によるアンサンブル稽古)
- 第5回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古② 公演指揮者、演出家による大アンサンブル稽古)
- 第6回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古③ 公演指揮者、及びオーケストラを交えての音楽稽古)
- 第7回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古① 各自選択した演目についての講義)
- 第8回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古② アンサンブル稽古(1))
- 第9回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古③ アンサンブル稽古(2))
- 第10回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)
- 第11回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古② アンサンブルの立ち稽古)
- 第12回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古③ 通し稽古)
- 第13回 修了演奏に向けて(通し稽古)
- 第14回 修了演奏に向けて(ゲネプロ)
- 第15回 修了演奏会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。  
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。(目安毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVL701U		
科目名	作品研究(声楽) I		
科目詳細			
担当教員	三ヶ尻 正		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

声楽作品(オペラ、オラトリオ、宗教曲、リートなど)と歌詞について実践的な知識と技能を高める(ドイツ語、ラテン語、英語)。ディクシオン(歌唱発音)に重点を置くほか、宗教曲など諸ジャンルへの取り組み方も扱う。歌詞・テキストと歌唱表現についてはオペラ演習とも連動する。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品では歌詞・テキストをいかに聴衆に伝えるかが表現上重要な要素だが、その外形的な課題としてのディクシオンと、内容面の両方を学ぶ(両者は無関係ではない)。ディクシオンでは正確で明瞭な発音を習得するとともに、時代や地域による違いと取組み方を実践的に学ぶ。各回の授業で数人ずつ実際に歌ってディクシオン指導を行なう。内容面では歌詞の解釈・表現にあたって、単なる読解にとどまらず、韻律や修辞法の理解も深める。なお、この科目では宗教曲への取り組み方も学ぶ。またドイツ語については後期のオペラ演習と連携した内容とする。

#### 【作品研究 I (前期)】

4/10第1回:オリエンテーション、[ドイツ語]ドイツ語ディクシオン概論(1)  
 4/17第2回:[ドイツ語]ドイツ語ディクシオン概論(2)韻律  
 [オペラ演習連動]字幕作成手順  
 4/24第3回:[ドイツ語]ドイツ語ディクシオン(3)舞台発音と実技  
 5/ 8第4回:[ドイツ語]ドイツ語文法再入門 & ドイツ語演劇実技  
 5/15第5回:[英語]英語ディクシオン概論  
 5/22第6回:[英語]英語ディクシオン実技  
 5/29第7回:[英語・ドイツ語]ディクシオン実技:《第九》《メサイア》など  
 6/ 5第8回:音声学・IPA入門  
 6/12第9回:[ラテン語]ラテン語(1)ディクシオン概論  
 6/19第10回:[ラテン語]ラテン語(2)解読法(※PCまたはスマートフォン、タブレット使用)  
 6/26第11回:[ラテン語]ラテン語(3)解読法(※PCまたはスマートフォン、タブレット使用)  
 7/ 3第12回:キリスト教入門  
 7/10第13回:[ドイツ語]ルター派教会音楽とバッハ(特にコラールと受難曲)  
 7/17第14回:[ドイツ語]ルター派教会音楽とバッハ(続き)  
 第15回:総括

#### ◆準備学習の内容◆

- 1)講義を受講するにあたっては下に指定する教科書および講義で示される課題にあらかじめ目を通しておくこと。講義では、次回扱う内容を予告するので、その内容に関する予備知識を得た上で講義に臨むこと。また参考となる曲を予告するので、事前に視聴しておくこと。必要な時間の目安は以上合わせて週1~2時間を見込む。
- 2)辞書については、英独の準備が必要だが(ラテン語辞書は当面不要)、詳しくは第1回講義で説明する。
  - ・独和辞典:手持ちのものがあれば使用可否を判断するので、第1回講義に持参のこと。
  - ・新たに買う場合は小学館『独和大辞典』に限る。(紙の辞書も可だが、電子辞書またはアップル社アプリを推奨。)
  - ・英和辞典:各社中辞典以上(収録語10万語以上)で用例の豊富なもの。収録語が多くても用例が貧弱なものは不可。

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本としつつ(50%)、実技での達成度(30%)、レポート(20%)も加味して、総合的に判断する。レポートなど提出物および実技についてフィードバックを行なう。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・三ヶ尻 正『歌うドイツ語ハンドブック』、(株)ハンナ
- ・三ヶ尻 正『メサイア・ハンドブック』、(株)ハンナ
- ・三ヶ尻 正『ミサ曲・ラテン語・教会音楽』、(株)ハンナ

#### ◆参考図書◆

- 音声学とディクシオン
  - ・小泉保『音声学』、大学書林
  - ・Joan Wall『International Phonetic Alphabet for Singers』Pst.,Inc.社
  - ・高橋正平『レクイエム・ハンドブック』、(株)ハンナ
  - ・『レクイエム発音講座』ローマ・カトリックの流れに基づく指導:エルマンノ・アリエンティ、きき手:辻秀幸、アット・プリモ(※絶版だが図書館に所蔵)
  - ・Vera U.G. Scherr『Handbuch der lateinischen Aussprache』第3版、ペーレンライター(※図書館所蔵)
- 音楽史・教会音楽
  - ・皆川達夫『中世・ルネサンスの音楽』、講談社学術文庫
  - ・相良憲昭『音楽史の中のミサ曲』、音楽之友社
  - ・大村恵美子・健二『バッハ コラールハンドブック』、春秋社
  - ・三ヶ尻正『ヘンデルが駆け抜けた時代』、春秋社
  - ・Ron Jeffers編著『Translations and Annotations of Choral Repertoire: Sacred Latin Texts』、Earthsongs社(※図書館所蔵)

#### ◆留意事項◆

声楽家として演奏する際、歌詞が客席に明瞭に聞こえるディクシオンを身に付けて欲しい。また、歌詞内容の理解・解釈・表現について、他人の訳や解釈に頼ることなく、自分自身の理解に基づいて表現できる地力を養って欲しい。

ナンバリング	MVL702U		
科目名	作品研究(声楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	三ヶ尻 正		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

「作品研究Ⅰ」に引き続き、声楽作品と歌詞について実践的な知識と技能を高める(ドイツ語、ラテン語、英語)。ディクシオンに重点を置くほか、宗教曲など諸ジャンルへの取り組み方も扱う。歌詞・テキストと歌唱表現についてはオペラ演習とも連動する。

#### ◆授業内容・計画◆

「作品研究Ⅰ」に引き続き、声楽作品における、外形的な課題としてのディクシオンと、内容面の両方を学ぶ(両者は無関係ではない)。後期は特にオペラ演習との連携を深め、ドイツ語声楽作品におけるディクシオンとオペラのDialog部分の実技に重点を置く。また宗教曲やオラトリオについても時間を割く。

前期に引き続き、ディクシオン指導は各回数人ずつ実際に歌って指導を行なう。

#### 【作品研究Ⅱ(後期)】

- 9/11第1回:オリエンテーション、解説の書き方入門
- 9/18第2回:[ラテン語]教会音楽について(1)ミサと聖歌
- 9/25第3回:[ラテン語]教会音楽について(2)聖務日課と詩編唱
- 10/2第4回:[ラテン語]教会音楽について(3)近現代の教会音楽
- 10/9第5回:《メサイア》についての新しい視点～音楽と政治・社会
- 10/16第6回:[オペラ/オラトリオ演習連動]セリフ実技および対訳指導
- 10/23第7回:オラトリオの歴史(1)黎明期からカリッシミ
- 10/30芸術祭のため授業なし
- 11/6第8回:オラトリオの歴史(2)シャルバンティエ、シュッツ
- 11/13第9回:オラトリオの歴史(3)ストラデッラ
- 11/20第10回:オラトリオの歴史(4)アレッシンドロ・スカラルラッティ(1)
- 11/27第11回:オラトリオの歴史(5)アレッシンドロ・スカラルラッティ(2)～ヘンデル
- 12/4第12回:オラトリオの歴史(6)ヘンデル以降(7)ロマン派・現代へ
- 12/11第13回:バロックオペラ、現代オペラについて
- 12/18第14回:関連する分野(内容検討中、西洋建築史)
- 第15回:総括

#### ◆準備学習の内容◆

講義を受講するにあたっては下に指定する教科書および講義で示される課題にあらかじめ目を通しておくこと。

講義では、次回扱う内容を予告するので、その内容に関する予備知識を得た上で講義に臨むこと。

また参考となる曲を予告するので、事前に視聴しておくこと。必要な時間の目安は以上合わせて週3～4時間を見込む。

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本としつつ(50%)、実技での達成度(30%)、レポート(20%)も加味して、総合的に判断する。レポートなど提出物および実技についてフィードバックを行なう。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・三ヶ尻 正『歌うドイツ語ハンドブック』、(株)ハンナ
- ・三ヶ尻 正『メサイア・ハンドブック』、(株)ハンナ
- ・三ヶ尻 正『ミサ曲・ラテン語・教会音楽』、(株)ハンナ

#### ◆参考図書◆

- ドイツ文学・詩・演劇
  - ・手塚富雄・神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』、岩波文庫別冊
  - ・生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』、岩波文庫 赤4601
  - ・一ノ瀬恒夫『ドイツ詩学入門』、大学書林語学文庫
  - ・ゲーテの作品、たとえば『若きウェルテルの悩み』(岩波文庫 赤405-1)、『ヘルマンとドロテア』(岩波文庫 赤405-5)など
  - ・手塚治虫『ファウスト』『ネオ・ファウスト』
  - ・シラーの作品、たとえば『群盗』(岩波文庫 赤410-1)、『ドン・カルロス』(岩波文庫 赤-復刻版)など
- 音楽史・教会音楽
  - ・皆川達夫『中世・ルネサンスの音楽』、講談社学術文庫1937
  - ・相良憲昭『音楽史の中のミサ曲』、音楽之友社
  - ・カルル・ドニ著・相良憲昭訳『モーツァルトの宗教音楽』、白水社、文庫クセジュ700
  - ・川端順四郎・志村拓生・原恵・横坂康彦『キリスト教音楽 名曲CD100選』、日本基督教団出版局
  - ・大村恵美子・大村健二『バッハ コラール・ハンドブック』、春秋社

#### ◆留意事項◆

声楽家として演奏する際、歌詞が客席に明瞭に聞こえるディクシオンを身につけて欲しい。

また、歌詞内容の理解・解釈・表現について、他人の訳や解釈に頼ることなく、自分自身の理解に基づいて表現できる地力を養って欲しい。

ナンバリング	MVS732N		
科目名	オラトリオ研究 I		
科目詳細			
担当教員	成田 博之, 中嶋 克彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

オラトリオをはじめとする宗教的テキストを持つバロック期の作品における歌唱の役割を理解し、必要な技術・知識・様式感を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

◎基本的に、マスタークラスの形式で行う。各自スコアを用意して授業に臨むこと。

- 第1回 オリエンテーション(曲決め等)、17～18世紀のレパートリー概観
- 第2回 ヘンデル《メサイア》①レチタティーヴォ楽章を中心に
- 第3回 ヘンデル《メサイア》②アリア楽章を中心に
- 第4回 ヘンデル《メサイア》③個別レッスン
- 第5回 ヘンデル《メサイア》④別の楽章に取り組む
- 第6回 ヘンデル《メサイア》⑤アンサンブルを意識して
- 第7回 ヘンデル以外のレパートリー※に取り組む①概観  
※モンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、ペルゴレージ、バッハなど
- 第8回 ヘンデル以外のレパートリー②重唱作品を中心に
- 第9回 ヘンデル以外のレパートリー③個別レッスン(重唱作品)
- 第10回 ヘンデル以外のレパートリー④ソロ作品を中心に
- 第11回 ヘンデル以外のレパートリー⑤個別レッスン(ソロ作品)
- 第12回 ヘンデル以外のレパートリー⑥アンサンブルを意識して
- 第13回 成果発表会に向けたレッスン①復習
- 第14回 成果発表会に向けたレッスン②仕上げ
- 第15回 成果発表会

#### ◆準備学習の内容◆

各自が授業で歌う作品について、言葉の意味、発音記号を調べて、対訳を作成したプリントを準備すること。  
また、自分が使用している楽譜がどのような楽譜か、説明できるように調べておくこと。各回、以上のような下調べと練習を合わせて、6時間以上の準備学習をもって授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度と、成果発表会での演奏を合わせて評価する。  
毎回の授業時での歌唱について教員がコメントするとともに、最終回の成果発表会後はその演奏について個別に講評する時間(またはメールでのやりとり)を設けることで学生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品のスコア(※ヴォーカルスコアではなくてオーケストラスコアが望ましい)を各自で用意すること。ヘンデル《メサイア》はベーレンライター版を使用する。

#### ◆参考図書◆

三ヶ尻正「メサイア・ハンドブック」(シヨパン)

#### ◆留意事項◆

授業の内容は、履修生の到達度等を考慮し、学期途中で変更する場合がある。

ナンバリング	MVS732N		
科目名	オラトリオ研究 I		
科目詳細			
担当教員	山下 浩司, 中嶋 克彦		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

幅広い時代のオラトリオ・宗教曲の歌唱及び重唱のレパートリーの習得。

#### ◆授業内容・計画◆

◎基本的に、マスタークラスの形式で行う。

- 第1回 オリエンテーション(曲決め等)。
- 第2回 バロック～古典のオラトリオ①発音練習、詩の朗読
- 第3回 バロック～古典のオラトリオ②発音練習、詩の朗読の復習。可能であれば音を出す
- 第4回 バロック～古典のオラトリオ③重唱、あるいはソロ曲
- 第5回 バロック～古典のオラトリオ④前回の復習
- 第6回 バロック～古典のオラトリオ⑤5回目までの授業内での問題点についてのディスカッション
- 第7回 バロック～古典のオラトリオ⑥新しい曲を取り上げ、詩を朗読及び歌唱
- 第8回 バロック～古典のオラトリオ⑦重唱、あるいはソロ曲
- 第9回 バロック～古典のオラトリオ⑧前回の復習
- 第10回 バロック～古典のオラトリオ⑨新しい曲に関しての授業内での問題点をディスカッション
- 第11回 バロック～古典のオラトリオ⑩これまでに取り上げた全ての曲を通して演奏(1)
- 第12回 バロック～古典のオラトリオ⑪これまでに取り上げた全ての曲を通して演奏(2)
- 第13回 成果発表会に向けた復習
- 第14回 成果発表会に向けた仕上げ
- 第15回 成果発表会

#### ◆準備学習の内容◆

各自が授業で歌う作品について、言葉の意味、発音記号を調べて、対訳を作成しておくこと。  
 また、自分が使用している楽譜がどのような楽譜か、説明できるように調べておくこと。  
 各回、以上のような下調べと練習を合わせて6時間以上の準備学習をもって授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度と、成果発表会での演奏を合わせて評価する。  
 毎回の授業時での歌唱について教員がコメントするとともに、最終回の成果発表会後はその演奏について個別に講評する時間(またはメールでのやりとり)を設けることで学生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

授業の内容は、履修生の到達度等を考慮し、学期途中で変更する場合がある。

ナンバリング	MVS733N		
科目名	オラトリオ研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	成田 博之, 中嶋 克彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1.2.4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

オラトリオをはじめとする宗教的テキストを持つバロック期の作品における歌唱の役割を理解し、必要な技術・知識・様式感を身につける。Ⅱのクラスでは特にJ.S.バッハの作品に焦点をあてる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 J.S.バッハ《マタイ受難曲》①概観、4声コーラルを歌ってみる
- 第2回 J.S.バッハ《マタイ受難曲》②ソロ楽章を歌ってみる(基本の確認)
- 第3回 J.S.バッハ《マタイ受難曲》③個別レッスン(レチタティーヴォを中心に)
- 第4回 J.S.バッハ《マタイ受難曲》④個別レッスン(アリアを中心に)
- 第5回 J.S.バッハ《マタイ受難曲》⑤アンサンブルを意識して
- 第6回 J.S.バッハの重唱曲(またはモテット)①歌詞や息の流れに注目して
- 第7回 J.S.バッハの重唱曲(またはモテット)②アンサンブルを意識して
- 第8回 ミサ通常文をテキストにした作品①概論
- 第9回 ミサ通常文をテキストにした作品②実際に歌ってみる
- 第10回 J.S.バッハ以外のレパートリーに親しむ①基本の確認
- 第11回 J.S.バッハ以外のレパートリーに親しむ②個別レッスン
- 第12回 J.S.バッハ以外のレパートリーに親しむ③アンサンブルを意識して
- 第13回 成果発表会に向けたレッスン①個別レッスン
- 第14回 成果発表会に向けたレッスン②仕上げ
- 第15回 成果発表会

#### ◆準備学習の内容◆

各自が授業で歌う作品について、言葉の意味、発音記号を調べて、対訳を作成したプリントを準備すること。また、自分が使用している楽譜がどのような楽譜か、説明できるように調べておくこと。各回、以上のような下調べと練習を合わせて、6時間以上の準備学習をもって授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極性と、成果発表会での演奏を合わせて評価する。毎回の授業時での歌唱について教員がコメントするとともに、最終回の成果発表会後はその演奏について個別に講評する時間(またはメールでのやりとり)を設けることで学生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品のスコア(※ヴォーカルスコアではなくてオーケストラスコアが望ましい)を各自で用意すること。バッハ《マタイ受難曲》はペーレンライター版を使用する。

#### ◆参考図書◆

【バッハのための参考書】

- 磯山雅「マタイ受難曲」(ちくま学芸文庫)
- 磯山雅、小林義武、鳴海史生編著「バッハ事典(全作品解説辞典)」(東京書籍)
- 若林敦盛訳「対訳J.S.バッハ声楽全集」(慧文社)
- アグリーコラ著、訳編東川清一「歌唱芸術の手引き」(春秋社)

【ミサ曲】

- 三ヶ尻正「ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック」(シヨパン)
- 井形ちづる、吉村恒「宗教音楽対訳集成」(国書刊行会)
- 嶺貞子監修、森田学編「イタリアのオペラと歌曲を知る12章」(東京堂出版)

【バロック期の演奏習慣を理解するために】

- トフト著、高久桂訳「ルネサンス・初期バロックの歌唱法」(道和書院)
- バートン著、角倉一朗訳「バロック音楽～歴史的背景と演奏習慣」(音楽之友社)
- 橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

授業の内容は、履修生の到達度等を考慮し、学期途中で変更する場合がある。

ナンバリング	MVS733N		
科目名	オラトリオ研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	山下 浩司, 中嶋 克彦		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

幅広い時代のオラトリオ・宗教曲の歌唱及び重唱のレパートリーの習得。

#### ◆授業内容・計画◆

◎基本的にマスタークラスの形式で行う。

- 第1回 古典派～ロマン派のオラトリオ①発音練習、詩の朗読
- 第2回 古典派～ロマン派のオラトリオ②発音練習、詩の朗読の復習。可能であれば音を出す
- 第3回 古典派～ロマン派のオラトリオ③重唱、あるいはソロ曲
- 第4回 古典派～ロマン派のオラトリオ④前回の復習
- 第5回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑤4回目までの授業内での問題点についてのディスカッション
- 第6回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑥新しい曲を取り上げ、詩を朗読及び歌唱
- 第7回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑦重唱、あるいはソロ曲
- 第8回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑧前回の復習
- 第9回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑨新しい曲に関しての授業内での問題点をディスカッション
- 第10回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑩後期に取り上げた全ての曲を通して演奏(1)
- 第11回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑪後期に取り上げた全ての曲を通して演奏(2)
- 第12回 古典派～ロマン派のオラトリオ⑫前期・後期全ての曲目から、必要なものをピックアップして復習
- 第13回 成果発表会に向けた復習
- 第14回 成果発表会に向けた仕上げ
- 第15回 成果発表会

#### ◆準備学習の内容◆

各自が授業で歌う作品について、言葉の意味、発音記号を調べて、対訳を作成しておくこと。  
 また、自分が使用している楽譜がどのような楽譜か、説明できるように調べておくこと。各回、以上のような下調べと練習を合わせて、6時間以上の準備学習をもって授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度と、成果発表会での演奏を合わせて評価する。  
 毎回の授業時での歌唱について教員がコメントするとともに、最終回の成果発表会後はその演奏について個別に講評する時間(またはメールでのやりとり)を設けることで学生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

授業の内容は、履修生の到達度等を考慮し、学期途中で変更する場合がある。

ナンバリング	MVS734N		
科目名	オラトリオ研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄, 中嶋 克彦		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

各々の歌唱力の向上を目標にしつつ、重唱を用いてお互いの声質やハーモニーを認識し1つの音楽を作り出す力を身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

ルネッサンス、バロックから古典派、ロマン派における世俗作品、宗教作品の重唱曲を履修学生の声種などを考慮したうえで選曲し、小規模な重唱曲からオラトリオのソリストアンサンブルの形態を体験する。曲目に関してはクラス編成時に声などのバランスにより適宜変更する場合がある。

#### 授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: メンデルスゾーン、2重唱曲(1)音の確認

第3回: メンデルスゾーン、2重唱曲(2)詩の理解

第3回: メンデルスゾーン、2重唱曲(3)音楽表現

第4回: メンデルスゾーン、3重唱曲(4)(1)～(3)のまとめ

第5回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(1)音の確認

第6回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(2)詩の確認

第7回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(3)音楽表現

第8回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ

第9回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(1)音の確認

第10回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(2)詩の理解

第11回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(3)音楽表現

第12回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ

第13回: メンデルスゾーン、バッハ、ロッシーニ、2重唱(1)授業内発表に向けての確認

第14回: アンサンブル演習 I のまとめ

第15回: 授業内発表及び後期課題の発表

#### ◆準備学習の内容◆

新曲に関しては音取りをして、歌詞の意味調べをし、内容を理解しておく。授業の復讐と準備を1日30分ほど練習することが望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価。

随時演習課題を出しフィードバックすると共に、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に提示、プリントを配布する。

#### ◆参考図書◆

授業内で提示する。

#### ◆留意事項◆

歌曲ソリストコース以外の履修を認めない。

ナンバリング	MVS734N		
科目名	オラトリオ研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	山下 浩司, 中嶋 克彦		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

幅広い時代のオラトリオ・宗教曲・オーケストラ曲の歌唱及び重唱(アンサンブル)のレパートリーの習得。

#### ◆授業内容・計画◆

前年度の成果を踏まえ、個々の声に合った曲を学び、修了後の演奏に役立てる。

##### 【前期】

第1回 オリエンテーション

第2回 発音練習、詩の朗読

第3回 発音練習、詩の朗読の復習。可能であれば演習。

第4回 同様の曲をパートナーを変更しながら演習。

第5回 4回目の復習。

第6回 5回目までの授業内での問題点についてのディスカッション。

第7回 次の曲を取り上げ、詩を朗読及び歌唱。

第8回 7回目の復習。

第9回 進行状況に応じ、新しい曲もしくは復習。

第10回 9回目の復習。

第11回 これまでの曲の復習、歌唱、及びディスカッション。

第12回 これまでの曲の復習、歌唱、及びディスカッション。

第13回 成果発表に向けての歌唱及びディスカッション。

第14回 全曲演奏(通し稽古)

第15回 成果発表

#### ◆準備学習の内容◆

各自が授業で歌う作品について、言葉の意味、発音記号を調べ、対訳を作成しておくこと。  
また、自分が使用している楽譜がどのような楽譜(年代・出版社等)が説明できるように調べておくこと。各回、以上のような下調べと練習を合わせて6時間以上の準備学習をもって授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加積極度と成果発表会での演奏を併せて評価する。  
毎回の授業時での歌唱について教員がコメントするとともに、最終回の成果発表会後はその演奏について個別に講評する時間(またはメールでのやりとり)を設けることで学生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

授業の内容は、進行の度合いなどによって、変更になる場合がある。

ナンバリング	MVS735N		
科目名	オラトリオ研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄, 中嶋 克彦		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

各々の歌唱力の向上を目標にしつつ、重唱を用いてお互いの声質やハーモニーを認識し1つの音楽を作り出す力を身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

ルネッサンス、バロックから古典派、ロマン派における世俗作品、宗教作品の重唱曲を履修学生の声種などを考慮したうえで選曲し、小規模な重唱曲からオラトリオのソリストアンサンブルの形態を体験する。曲目に関してはクラス編成時に声などのバランスにより適宜変更する場がある。

#### 授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: メンデルスゾーン、2重唱曲(1)音の確認

第3回: メンデルスゾーン、2重唱曲(2)詩の理解

第3回: メンデルスゾーン、2重唱曲(3)音楽表現

第4回: メンデルスゾーン、3重唱曲(4)(1)～(3)のまとめ

第5回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(1)音の確認

第6回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(2)詩の確認

第7回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(3)音楽表現

第8回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ

第9回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(1)音の確認

第10回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(2)詩の理解

第11回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(3)音楽表現

第12回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ

第13回: メンデルスゾーン、バッハ、ロッシーニ、2重唱(1)授業内発表に向けての確認

第14回: アンサンブル演習Ⅰのまとめ

第15回: 授業内発表及び後期課題の発表

#### ◆準備学習の内容◆

新曲に関しては音取りをして、歌詞の意味調べをし、内容を理解しておく。授業の復讐と準備を1日30分ほど練習することが望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価。

随時演習課題を出しフィードバックすると共に、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に提示、プリントを配布する。

#### ◆参考図書◆

授業内で提示する。

#### ◆留意事項◆

歌曲ソリストコース以外の履修を認めない。

ナンバリング	MVS735N		
科目名	オラトリオ研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	山下 浩司, 中嶋 克彦		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

幅広い時代のオラトリオ・宗教曲・オーケストラ曲の歌唱及び重唱(アンサンブル)のレパートリーの習得。

#### ◆授業内容・計画◆

前期の成果を踏まえ、個々の声に合った曲を学び、修了後の演奏に役立てる。

【後期】

第1回 オリエンテーション

第2回 発音練習、詩の朗読。

第3回 発音練習、詩の朗読の復習、可能であれば演習。

第4回 同様の曲をパートナーを変更しながら演習。

第5回 4回目の復習。

第6回 5回目までの授業内での問題点についてのディスカッション。

第7回 次の曲を取り上げ、詩を朗読及び歌唱。

第8回 7回目の復習。

第9回 進行状況に応じ、新しい曲もしくは復習。

第10回 9回目の復習。

第11回 これまでの曲の復習、歌唱、及びディスカッション。

第12回 これまでの曲の復習、歌唱、及びディスカッション。

第13回 成果発表に向けての歌唱、及びディスカッション。

第14回 全曲演奏(通し稽古)

第15回 成果発表

#### ◆準備学習の内容◆

各自が授業で歌う作品について、言葉の意味、発音記号を調べ、対訳を作成しておくこと。  
また、自分が使用している楽譜がどのような楽譜(年代・出版社等)が説明できるように調べておくこと。各回、以上のような下調べと練習を合わせて6時間以上の準備学習をもって授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加積極度と成果発表会での演奏を併せて評価する。  
毎回の授業時での歌唱について教員がコメントするとともに、最終回の成果発表会後はその演奏について個別に講評する時間(またはメールでのやりとり)を設けることで学生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

授業の内容は、進行の度合いなどによって、変更になる場合がある。

ナンバリング	MVS736N		
科目名	歌曲研究(日本語)A I		
科目詳細			
担当教員	悦田 比呂子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などから検証し、いかにして自然で美しい日本語を歌唱表現できるかを研究する。詩の朗読や歌唱の実践を通して、より深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 日本歌曲その歴史と変遷
2. 日本語の特質、日本伝統の発声法について
3. 音声学から見た日本語
4. 詩の朗読実践。西洋の発声法と日本語の発語、発声の比較を通して
5. 創成期作曲家 滝廉太郎歌曲作品の歌唱について
6. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(1)詩人 北原白秋との出会い
7. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(2)詩人 野口雨情との出会い
8. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(3)詩人 三木露風、大木惇夫との出会い
9. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(4)民謡との融合と試み
10. 継承期作曲家 橋本国彦歌曲作品の歌唱について
11. 継承期作曲家 信時 潔歌曲作品の歌唱について
12. 継承期作曲家 平井康三郎歌曲作品の歌唱について
13. 継承期作曲家 高田三郎、成田為三ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践して行く形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。(毎日1時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏会などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MVS737N		
科目名	歌曲研究(独語)A I		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ドイツ芸術歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。ドイツ語作品歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に気づき、表現を工夫する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、受講生による試聴会(任意のドイツ歌曲1曲を歌うこと。)
- 第2回 Mozartの歌曲の研究と演習
- 第3回 Beethovenの歌曲の研究と演習
- 第4回 Loeweの歌曲の研究と演習
- 第5回 Schubert の歌曲(ゲーテの詩による)の研究と演習
- 第6回 Schubert の歌曲(シュレーゲル、マイルホーファー等の詩による)研究と演習
- 第7回 Schubert の歌曲(リュッケルト、ザイドル等の詩による)の研究と演習
- 第8回 Mendelssohn の歌曲の研究と演習
- 第9回 R.Schumann の歌曲「ミルテの花 作品25」の研究と演習
- 第10回 R.Schumann の歌曲「リーダークライス 作品24及び作品39」の研究と演習
- 第11回 R.Schumann の歌曲「女の愛と生涯 作品42」の研究と演習
- 第12回 R.Schumann の歌曲(後期の作品)の研究と演習
- 第13回 C.Schumannの歌曲の研究と演習
- 第14回 Liszt の歌曲の研究と演習
- 第15回 前期のまとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと(目安 週3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度について、常にフィードバックする。授業計画に沿った課題を出し、平常の授業での取り組みにより評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する

#### ◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、積極的に自習すること

ナンバリング	MVS738N		
科目名	歌曲研究(伊語)A I		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-121	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

- 1回目 声聴き会、オリエンテーション
- 2回目 授業で取り上げるペートン版についての説明をし、個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 3回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 4回目 発音練習後、各自選択した曲を取り上げ、実際に歌唱する。適宜発音に関してチェックする。
- 5回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にA母音を正しく発音できるようにする。(1)
- 6回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(2)
- 7回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(3)
- 8回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(4)
- 9回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(5)
- 10回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目を再度選択し決定する。
- 11回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(6)
- 12回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(7)
- 13回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(8)
- 14回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(9)
- 15回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。(目安 毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

留意事項 インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS739N		
科目名	歌曲研究(仏語)A I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-226	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 母音についての説明。一人ずつ発音する。
- ・3回目 リエゾンについての説明。各自曲を取り上げ、発音した後、実際に歌唱する。
- ・4回目 3回目の復習。
- ・5回目 名曲についての詩の解釈と歌唱。
- ・6回目 名曲についての詩の和声についての説明と歌唱。
- ・7回目 フォーレについての説明と歌唱。
- ・8回目 ドビュッシーについての説明と歌唱。
- ・9回目 フランスの文化についての説明と歌唱。
- ・10回目 新たな曲を取り歌唱する。
- ・11回目 10回目の復習。
- ・12回目 各自歌唱した後でディスカッションを行う。
- ・13回目 各自複数曲を歌唱する。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしてくること。
- ・30分～1時間の予習をしてくる事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS740N		
科目名	歌曲研究(日本語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	悦田 比呂子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

前期に引き続き、展開期作曲家から現代までの多くの作曲家歌曲作品の歌唱実践と詩の朗読、解釈を通して日本歌曲への理解をより深めてゆく。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.現代詩における日本語の自然な発語発声と歌唱法
- 2.「あいうえお」の母音の音色や子音についての考察
3. 展開期作曲家 中田喜直歌曲作品の歌唱について
4. 展開期作曲家 大中 恩歌曲作品の歌唱について
5. 展開期作曲家 清水修、柴田南雄歌曲作品の歌唱について
6. 展開期作曲家 石桁真礼生、早坂文雄歌曲作品の歌唱について
7. 展開期作曲家 諸井三郎、諸井 誠歌曲作品の歌唱について
8. 展開期作曲家 團 伊玖磨歌曲作品の歌唱について
9. 展開期作曲家 小林秀雄、畑中良輔歌曲作品の歌唱について
10. 展開期作曲家 別宮貞雄歌曲作品の歌唱について
11. 展開期作曲家 三善 晃歌曲作品の歌唱について
12. 展開期作曲家 木下牧子歌曲作品の歌唱について
13. 展開期作曲家 猪本 隆歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践していく形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。(実技については毎日30分、解釈他については30分以上が望ましい)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏会などからの総合的な評価、授業内で演奏された歌曲について一人一人に対し指導し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MVS741N		
科目名	歌曲研究(独語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

Brahms以降のドイツ歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。前期の基礎に引き続きドイツ語歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に更なる深い解釈をして、表現を工夫する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 Brahmsの歌曲(作品3～49)の研究と演習
- 第2回 Brahmsの歌曲(作品57～121)の研究と演習
- 第3回 Wolf「メーリケ歌曲集」の研究と演習
- 第4回 Wolf「ゲーテ歌曲集」の研究と演習
- 第5回 Mahlerの歌曲の研究と演習
- 第6回 R.Strauss の歌曲(作品10～41)の研究と演習
- 第7回 R.Strauss の歌曲(作品43～88)の研究と演習
- 第8回 Pfitznerの歌曲
- 第9回 Zemlinskyの歌曲
- 第10回 Schönbergの歌曲の研究と演習
- 第11回 Bergの歌曲の研究と演習
- 第12回 Webernの歌曲の研究と演習
- 第13回 Schreker,Hindemithの歌曲の研究と演習
- 第14回 Korngold,Ullmannの歌曲の研究と演習
- 第15回 まとめと発表

\*なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと(目安週3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度について、常にフィードバックする。授業計画に沿った課題を出し、平常の授業での取り組みにより評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する

#### ◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、積極的に自習すること。

ナンバリング	MVS742N		
科目名	歌曲研究(伊語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。イタリア語で演奏する上で大切な7つの母音を正確に発音できるようになる。

- 1回目 前期の復習。ディスカッション。
- 2回目 オラトリオを含む新たな曲を取り入れるよう、ディスカッションしながら決めて行く。
- 3回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
- 4回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 5回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 6回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にA母音が正しく発音されているかチェックする。(1)
- 7回目 授業最後に行われる発表会に対処すべく、ディスカッションしながら選曲準備をする。
- 8回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にI母音が正しく発音されているかチェックする。(2)
- 9回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(3)
- 10回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(4)
- 11回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(5)
- 12回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(6)
- 13回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にO母音が正しく発音されているかチェックする。(7)
- 14回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にイタリア語特有の7つの母音が正しく発音されているかチェックする。(8)
- 15回目 授業内発表会

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。(目安 毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS743N		
科目名	歌曲研究(仏語)A II		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-226	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【後期】

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・5回目 グノーについての説明と4回目の復習。
- ・6回目 ショーソンについての説明及び歌唱。
- ・7回目 4回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 7回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 今まで取り上げた曲の歌唱。
- ・12回目 発表会で歌う曲を選択し、歌唱。
- ・13回目 12回目の復習とディスカッション。
- ・14回目 発表会に向けての準備及び発表会で歌う曲を全部歌唱。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしてくること。
- ・30分～1時間の予習をしてくる事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS744N		
科目名	歌曲研究(日本語)B I		
科目詳細			
担当教員	悦田 比呂子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などから検証し、いかにして自然で美しい日本語を歌唱表現できるかを研究する。詩の朗読や歌唱の実践を通して、より深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 日本歌曲その歴史と変遷
2. 日本語の特質、日本伝統の発声法について
3. 音声学から見た日本語
4. 詩の朗読実践。西洋の発声法と日本語の発語、発声の比較を通して
5. 創成期作曲家 滝廉太郎歌曲作品の歌唱について
6. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(1)詩人 北原白秋との出会い
7. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(2)詩人 野口雨情との出会い
8. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(3)詩人 三木露風、大木惇夫との出会い
9. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(4)民謡との融合と試み
10. 継承期作曲家 橋本国彦歌曲作品の歌唱について
11. 継承期作曲家 信時 潔歌曲作品の歌唱について
12. 継承期作曲家 平井康三郎歌曲作品の歌唱について
13. 継承期作曲家 高田三郎、成田為三ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践して行く形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。実技、詩の朗読については毎日それぞれ30分以上の予習が望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢、演奏会などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MVS745N		
科目名	歌曲研究(独語)B I		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ドイツ芸術歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。ドイツ語作品歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に気づき、表現を工夫する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、受講生による試聴会(任意のドイツ歌曲1曲を歌うこと。)
- 第2回 Mozartの歌曲の研究と演習
- 第3回 Beethovenの歌曲の研究と演習
- 第4回 Loeweの歌曲の研究と演習
- 第5回 Schubert の歌曲(ゲーテの詩による)の研究と演習
- 第6回 Schubert の歌曲(シュレーゲル、マイルホーファー等の詩による)研究と演習
- 第7回 Schubert の歌曲(リュッケルト、ザイドル等の詩による)の研究と演習
- 第8回 Mendelssohn の歌曲の研究と演習
- 第9回 R.Schumann の歌曲「ミルテの花 作品25」の研究と演習
- 第10回 R.Schumann の歌曲「リーダークライス 作品24及び作品39」の研究と演習
- 第11回 R.Schumann の歌曲「女の愛と生涯 作品42」の研究と演習
- 第12回 R.Schumann の歌曲(後期の作品)の研究と演習
- 第13回 C.Schumannの歌曲の研究と演習
- 第14回 Liszt の歌曲の研究と演習
- 第15回 前期のまとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと(目安 週3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度について、常にフィードバックする。授業計画に沿った課題を出し、平常の授業での取り組みにより評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する

#### ◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、積極的に自習すること。

ナンバリング	MVS746N		
科目名	歌曲研究(伊語)B I		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

- 1回目 声聴き会、オリエンテーション
- 2回目 授業で取り上げるペートン版についての説明をし、個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 3回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 4回目 発音練習後、各自選択した曲を取り上げ、実際に歌唱する。適宜発音に関してチェックする。
- 5回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にA母音を正しく発音できるようにする。(1)
- 6回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(2)
- 7回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(3)
- 8回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(4)
- 9回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(5)
- 10回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目を再度選択し決定する。
- 11回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(6)
- 12回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(7)
- 13回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(8)
- 14回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(9)
- 15回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。(目安 毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

留意事項 インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS747N		
科目名	歌曲研究(仏語)B I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-226	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 母音についての説明。一人ずつ発音する。
- ・3回目 リエゾンについての説明。各自曲を取り上げ、発音した後、実際に歌唱する。
- ・4回目 3回目の復習。
- ・5回目 名曲についての詩の解釈と歌唱。
- ・6回目 名曲についての詩の和声についての説明と歌唱。
- ・7回目 フォーレについての説明と歌唱。
- ・8回目 ドビュッシーについての説明と歌唱。
- ・9回目 フランスの文化についての説明と歌唱。
- ・10回目 新たな曲を取り歌唱する。
- ・11回目 10回目の復習。
- ・12回目 各自歌唱した後でディスカッションを行う。
- ・13回目 各自複数曲を歌唱する。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしてくること。
- ・30分～1時間の予習をしてくる事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS748N		
科目名	歌曲研究(日本語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	悦田 比呂子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

前期に引き続き、展開期作曲家から現代までの多くの作曲家歌曲作品の歌唱実践と詩の朗読、解釈を通して日本歌曲への理解をより深めてゆく。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.現代詩における日本語の自然な発語発声と歌唱法
- 2.「あいうえお」の母音の音色や子音についての考察
3. 展開期作曲家 中田喜直歌曲作品の歌唱について
4. 展開期作曲家 大中 恩歌曲作品の歌唱について
5. 展開期作曲家 清水修、柴田南雄歌曲作品の歌唱について
6. 展開期作曲家 石桁真礼生、早坂文雄歌曲作品の歌唱について
7. 展開期作曲家 諸井三郎、諸井 誠歌曲作品の歌唱について
8. 展開期作曲家 團 伊玖磨歌曲作品の歌唱について
9. 展開期作曲家 小林秀雄、畑中良輔歌曲作品の歌唱について
10. 展開期作曲家 別宮貞雄歌曲作品の歌唱について
11. 展開期作曲家 三善 晃歌曲作品の歌唱について
12. 展開期作曲家 木下牧子歌曲作品の歌唱について
13. 展開期作曲家 猪本 隆歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践していく形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。(実技については毎日30分、解釈他については30分以上が望ましい)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢、演奏会などからの総合的な評価、授業内で演奏された歌曲について一人一人に対し指導し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MVS749N		
科目名	歌曲研究(独語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	長島 剛子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

Brahms以降のドイツ歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。前期の基礎に引き続きドイツ語歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に更なる深い解釈をして、表現を工夫する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 Brahmsの歌曲(作品3～49)の研究と演習
- 第2回 Brahmsの歌曲(作品57～121)の研究と演習
- 第3回 Wolf「メーリケ歌曲集」の研究と演習
- 第4回 Wolf「ゲーテ歌曲集」の研究と演習
- 第5回 Mahlerの歌曲の研究と演習
- 第6回 R.Strauss の歌曲(作品10～41)の研究と演習
- 第7回 R.Strauss の歌曲(作品43～88)の研究と演習
- 第8回 Pfitznerの歌曲
- 第9回 Zemlinskyの歌曲
- 第10回 Schönbergの歌曲の研究と演習
- 第11回 Bergの歌曲の研究と演習
- 第12回 Webernの歌曲の研究と演習
- 第13回 Schreker,Hindemithの歌曲の研究と演習
- 第14回 Korngold,Ullmannの歌曲の研究と演習
- 第15回 まとめと発表

\*なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと(目安毎日3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度について、常にフィードバックする。授業計画に沿った課題を出し、平常の授業での取り組みにより評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する

#### ◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、積極的に自習すること。

ナンバリング	MVS750N		
科目名	歌曲研究(伊語)B II		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクションを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。イタリア語で演奏する上で大切な7つの母音を正確に発音できるようになる。

- 1回目 前期の復習。ディスカッション。
- 2回目 オラトリオを含む新たな曲を取り入れるよう、ディスカッションしながら決めて行く。
- 3回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
- 4回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 5回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 6回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にA母音が正しく発音されているかチェックする。(1)
- 7回目 授業最後に行われる発表会に対処すべく、ディスカッションしながら選曲準備をする。
- 8回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にI母音が正しく発音されているかチェックする。(2)
- 9回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(3)
- 10回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(4)
- 11回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(5)
- 12回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(6)
- 13回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にO母音が正しく発音されているかチェックする。(7)
- 14回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にイタリア語特有の7つの母音が正しく発音されているかチェックする。(8)
- 15回目 授業内発表会

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。(目安 毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS751N		
科目名	歌曲研究(仏語)B II		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-226	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【後期】

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・5回目 グノーについての説明と4回目の復習。
- ・6回目 ショーソンについての説明及び歌唱。
- ・7回目 4回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 7回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 今まで取り上げた曲の歌唱。
- ・12回目 発表会で歌う曲を選択し、歌唱。
- ・13回目 12回目の復習とディスカッション。
- ・14回目 発表会に向けての準備及び発表会で歌う曲を全部歌唱。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしてくること。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしてくること。
- ・30分～1時間の予習をしてくる事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS725N		
科目名	舞台発音発声法 I		
科目詳細			
担当教員	小澤 慎吾		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考	ティプロマポリシーとの関連: 1.2.4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

台本の言葉の力を身体及び呼吸法を駆使しながら発音及び朗読できるよう基礎的な表現方法を学び、歌曲、宗教曲に関連付けながら、オペラ等の舞台人及び声楽家としての第一歩を踏み出せるようにすることを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

まずは日本語の高低アクセントを基とした舞台における発語を訓練した後、イタリア語(ヨーロッパ言語)のものと比較しつつ韻文を役者としての朗読方法を学ぶ。劇場における発音法を学びつつ人を感動させる呼吸法を用い、歌唱に活かす。次に役者と声楽家との相違を研究し、韻文を芸術的に朗読する方法を身に着ける。最後にオペラの台本を声楽家としての舞台発声と発音を結びつけ、レチタティーヴォに主軸を置きつつもソロ、重唱へと発展させ、オペラ台本の読み合わせを実践できるよう進める。また、聞き手を感動させる呼吸法を学び、表現法の基礎を体現する。

第1回:オリエンテーション及び日本語の高低アクセントを基本とした発音と日本古来の呼吸法を研究

第2回:呼吸法を駆使して恋を語り、愛を語りつつ人を感動させる方法を研究

第3回:ヨーロッパ発音法と呼吸法の相違を歌曲や宗教曲をもとに研究

第4回:呼吸法を基に役者と声楽家の発音法の相違を研究する

第5回:課題の考察と実践(1)役者としてオペラの台本を朗読

第6回:課題の考察と実践(2)声楽家としてオペラの台本を朗読

第7回:課題の考察と実践(3)ソロによるレチタティーヴォの発音法

第8回:課題の考察と実践(4)掛け合いによるレチタティーヴォの発音法

第9回:課題の考察と実践(5)アリアの発音法

第10回:課題の考察と実践(6)2重唱の発音法

第11回:課題の考察と実践(7)アンサンブルの発音法

第12回:課題の考察と実践(8)様々な役の朗読

第13回:課題の考察と実践(9)オペラ台本の読み合わせ前半

第14回:課題の考察と実践(10)オペラ台本の読み合わせ後半

第15回:前期のまとめ

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が必要となる。授業外学習時間は各学生の語学力により異なるが、半期でオペラ台本1本を訳し朗読するために必要な時間数となる。

#### ◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。授業内でおこなう実践についてはフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング	MVS726N		
科目名	舞台発音発声法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	小澤 慎吾		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

「舞台発音発声法Ⅰ」に引き続き、テキストを持つ音楽作品を、声楽家、もしくは舞台人として扱う際に必要となる基礎知識を学び、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについて考える。

#### ◆授業内容・計画◆

主にイタリア語およびヨーロッパ言語の歴史的文法と音声学・音響学の観点から考察する(言語としてのヨーロッパ言語の韻文を芸術的な言語として扱う)。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。舞台発音発声の基礎固めを行うとともに呼吸法、発音法、身体表現及び演劇的な動きとの融合を促し、実践を通してその応用力を養う。またオーディエンスを感動させる呼吸法を身に付け、歌唱に活かせるようにする。

#### 【舞台発音発声法Ⅱ(後期)】

- 第1回:課題の考察と実践(1)人の心をつかむ呼吸法の習得
- 第2回:課題の考察と実践(2)人の心を刺激する呼吸法と発音法の習得
- 第3回:課題の考察と実践(3)会話と声楽における舞台発音の研究
- 第4回:課題の考察と実践(4)言葉の方向性及び距離における発音法
- 第5回:課題の考察と実践(5)舞台空間と劇場における発音点の研究
- 第6回:課題の考察と実践(6)レチタティーヴォとアリアの呼吸法の研究
- 第7回:課題の考察と実践(7)レチタティーヴォとアリアの呼吸法、身体表現と発音法の融合
- 第8回:課題の考察と実践(8)重唱の呼吸法、身体表現と発音法の融合
- 第9回:課題の考察と実践(9)発音法と演劇的な動きの融合
- 第10回:課題の考察と実践(10)オペラ演劇と発音法前半
- 第11回:課題の考察と実践(11)オペラ演劇と発音法後半
- 第12回:課題の考察と実践(12)音程無しのオペラ、歌曲及び宗教曲の発音法の実践前半
- 第13回:課題の考察と実践(13)音程無しのオペラ、歌曲、及び宗教曲の発音法の実践後半
- 第14回:後期のまとめ
- 第15回:総論

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。事前準備として外国語テキストを訳すための時間を必要とする。

#### ◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。授業内で起こる実践についてフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜、参考図書を推薦する。

#### ◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やヨーロッパ言語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング	MVS727N		
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニク) I		
科目詳細			
担当教員	堀田 麻子		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

クラシックバレエの技法を用い、声楽家に必要な身体作りをしていく。左右対称の動きをすることで、身体のバランスを整え、立ち姿を美しく保つ訓練をしていく。

#### ◆授業内容・計画◆

クラシックバレエの基本的な動作を行うことで、身体作りを行う。

左右対称の動きによりバランス感覚を養い、舞台に立つ姿勢作りをする。

また、身体の末端まで意識することにより、足の裏で床を感じ、手先を美しくしていく。

まずフロアでストレッチをし身体の柔軟性を高め、ケガの予防をし、体幹を鍛えることで身体の軸を意識する。

バーレッスンでは基本のポジションを学びながら、少しずつ足を上げることでバランスを身に付け、センターではバーから離れバランスを整えながら全身で動く訓練をする。

動きを身体に習得させるために同じことを何度も行う。

第1 ストレッチ、トレーニング、手と足のポジション

第2 第1+バー・プリエ(膝を曲げる動き。1. 2. 4. 5番)、ポールドブラ(胸から腕の動き)、マイム

第3 第1～第2+1番タンジュ、5番タンジュ(床を滑らせて足を前。横。後ろに出す動き)

第4 第1～第3+1番デガジェ、5番デガジェ(タンジュを通り少し床から離れる)、パッセ(片足を膝に持ってくる動き)

第5 第1～第4+ロンデジャンプ・アテール(片足で半円を描く動き)、ピケ(片足プリエから立つ)

第6 第1～第5+フォンジュ(片足プリエから足を伸ばす)

第7 第1～第6+シャンジュマン(両足ジャンプ)、パデシャ(片足で飛び越す)

第8 第1～第7+アダジオ(アラベスク)(後ろに足を上げる)

第9 第1～第8+グランバットマン(足を放り投げる動き)

第10 第1～第9+センター・ポールドブラ

第11 第1～第10+バランセ(3拍子でステップを踏む)・小さいジャンプ(シャンジュマンなど)

第12 第1～第11+大きいジャンプ(アラベスクジャンプ、パデシャなど)

第13 第1～第12+ターン

第14 第1～第13+ワルツなどオペラに必要とされるステップ

第15 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

ストレッチや普段の姿勢を意識する

#### ◆成績評価の方法◆

毎回のレッスンを通して随時課題を出し、フィードバックすると共に、身体の変化や理解度で評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ(踵のある靴は不可)

動きやすい服装(上はTシャツなど身体のラインが見えるもの。特に腕周りはピッタリしたもの。下は足を開いたり上げたりする為、ジーンズワイドパンツ、スカートは不可)

髪が顔にかかる場合はゴムでまとめる

後期は前期の応用となる為、前期後期と受講するのが望ましい。

ナンバリング	MVS728N		
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニック)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	堀田 麻子		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

舞台表現において演技者に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシックバレエの肉体訓練法をもとに習得していく

#### ◆授業内容・計画◆

後期は前期とほぼ同様の内容であるが、前期の応用である。ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンをを行う。

この訓練を通して「視覚だけではなく感覚」を意識したい。

さらにいくつかのステップを組み合わせ、オペラに必要なダンスの最低限な技術を身に付け、〈動き〉ではなく〈踊る〉ことを知ってもらいたい。

足の裏で床を押し、腹筋を使い腰を高い位置で保ち、背中を使い胸。腕・顔を動かすのが大事である。

身体のアライメントを整え、高いパフォーマンス力を身につける。

- 第1回 フロアー、バー、センターレッスン アームス、プリエ、タンジュの確認、復習
- 第2回 フロアー、バー、センターレッスン デガジェ、の確認、復習
- 第3回 フロアー、バー、センターレッスン デガジェ、パッセの確認、復習
- 第4回 フロアー、バー、センターレッスン ロンデジャンプ・アテール、アンレールの確認、復習
- 第5回 フロアー、バー、センターレッスン フォンジュ、アラベスクの確認、復習
- 第6回 フロアー、バー、センターレッスン グランバットマンの確認 復習
- 第7回 フロアー、バー、センターレッスン シャンジュマン、ぱパデシャの確認 復習
- 第8回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるアダジオ、バランセ 発展
- 第9回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるタンジュ、パッセ 発展
- 第10回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるシャンジュマン 発展
- 第11回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるパデシャ 発展
- 第12回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるグラン・ワルツ 発展
- 第13回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるピケターン 発展
- 第14回 フロアー、バー、センターレッスン ステップの組み合わせ
- 第15回 フロアー、バー、センターレッスン まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

ストレッチや姿勢など、普段から意識することで身体に感覚として身に付けていく。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回のレッスンを通して随時課題を出し、フィードバックすると共に、身体の変化や理解度で評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ(踵のある靴は不可)

動きやすい服装(上はTシャツなど身体のラインが見えるもの。特に腕はピッタリした物。下は足を開いたり上げたりするためジーンズ、ワイドパンツ、スカートは不可)

髪が顔にかかる場合はゴムやピンでまとめる。

後期は前期の応用となる為、前期と後期を受講するのが望ましい。

ナンバリング	MVS729N		
科目名	舞台表現技術演習(身体表現) I		
科目詳細	抽選科目 16名		
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

<オペラにおいて「必要な」歌手の表現方法(=演技)を学ぶ> ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。 ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

- \* 1年次での履修が望ましい。
- \* 続けて後期「舞台表現技術演習(身体表現) II」の履修に進むことが望ましい。

1. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.1 《舞台人の思考の仕方》
2. 動けるからだを造る Vol.1 《動く側の意識を作る》
3. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.2 《テクニックの面において》
4. 動けるからだを造る Vol.2 《見られる側の意識を作る》
5. シアターゲーム Vol.1 《フィンガー・トレーニング》
6. シアターゲーム Vol.2 《オーラル・トレーニング》
7. シアターゲーム Vol.3 《選択的注意のコントロール=ストループ効果の認識と克服》
8. 感じる心を造る Vol.1 《プライベート反応の認識トレーニング》
9. 感じる心を造る Vol.2 《プライベート反応とパブリック反応⇒インタラクティブな反応へ》
10. エチュード Vol.1 《思考と表現を合致させるトレーニング》
11. エチュード Vol.2 《思考と表現のブラッシュアップ》
12. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.1 《表出トレーニング》
13. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.2 《説明と表現の相違と棲み分け》
14. 復習、アクティブラーニング
15. まとめ、試験、etc

\* それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

#### ◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。(目安60分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。授業中に常にフィードバックする。  
前期終了時に試験を実施する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。  
遅刻厳禁・100%の出席が望ましい。

ナンバリング	MVS730N		
科目名	舞台表現技術演習(身体表現)Ⅱ		
科目詳細	抽選科目 16名		
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

<オペラにおいて「必要な」歌手の表現方法(=演技)を学ぶ> ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。 ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

##### 【授業内容】

- \* 前期「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」を更に応用実践的に追求する授業である。
- \* 前期「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」→後期「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅱ」と、1年次での連続履修が最も望ましい。

- 1.「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」からのブリッジ＝「表現する」という意味内容を確認する
2. シアターゲーム・エチュード、アクティブラーニング
3. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.1 ⇨演劇とオペラ&ミュージカルの違いを知る
4. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.2  
⇨作曲家によるスコア上の「演出」を読み解く＝演出面からの楽曲アナリーゼ
5. 歌唱と演技を共存させる Vol.1《共存の難しさを意識する》
6. 歌唱と演技を共存させる Vol.2《両者の相関関係を認識する＝繋げ方のコツを学び相乗効果と化す》
7. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.1《トライアウト》
8. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.2《観客の視点を踏まえた表現の確認》
9. エアオペラで既習事項を実践する Vol.1《実施方法の確認》
10. エアオペラで既習事項を実践する Vol.2《読み合わせ》
11. エアオペラで既習事項を実践する Vol.3《設定を作る》
12. エアオペラで既習事項を実践する Vol.4《相手役との確認作業の実施・ブレインストーミング》
13. エアオペラで既習事項を実践する Vol.5《立ち稽古実践》
14. エアオペラで既習事項を実践する Vol.6《ノート&修正作業》
15. 課題曲実演による試演会＝テスト

\* それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

#### ◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。(目安30分)  
エアオペラの課題スコアを事前学習のこと。(目安30分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。  
授業への取り組み方、課題の修得度合い、後期終了時の試演会の成果を加味し評価する。  
授業中に課題について常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。  
遅刻厳禁。100%の出席が望ましい。

ナンバリング	MSP701N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習 I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現によるすぐれた演奏を実現することの出来る力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 通年の予定を立て、レパートリー拡大のための学修の予定も立てる。
- 第2回 脱力について考え、そのための意識を確立する。(前半)
- 第3回 脱力について考え、そのための意識を確立する。(後半)
- 第4回 バロック時代の作品の様式、演奏法について考察する。(前半)
- 第5回 バロック時代の作品の様式、演奏法について考察する。(後半)
- 第6回 古典派の作品を学び、スタイル、テクニクについて考える。(前半)
- 第7回 古典派の作品を学び、スタイル、テクニクについて考える。(後半)
- 第8回 初期ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(前半)
- 第9回 初期ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(後半)
- 第10回 ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(前半)
- 第11回 ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(後半)
- 第12回 ロマン派以降の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(前半)
- 第13回 ロマン派以降の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(後半)
- 第14回 現代音楽について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。
- 第15回 前期に学習したことのまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をすること。  
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査、などを自分に課すことが望まれる。(毎日2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教員の指示によって用意してもらうこともある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的な学修を心がけること。

ナンバリング	MSP702N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現できる力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ペダルの使用について学修する。(前半)
- 第2回 ペダルの使用について学修する。(後半)
- 第3回 身体の使い方について。(前半)
- 第4回 身体の使い方について。(後半)
- 第5回 中間発表、修了演奏のプログラムについて考える。
- 第6回 作品の分析について学修する。(前半)
- 第7回 作品の分析について学修する。(後半)
- 第8回 暗譜の方法について学修する。(前半)
- 第9回 暗譜の方法について学修する。(後半)
- 第10回 レパートリーの拡大の方法について学修する。(前半)
- 第11回 レパートリーの拡大の方法について学修する。(後半)
- 第12回 プログラミングの方法について学修する。(前半)
- 第13回 プログラミングの方法について学修する。(後半)
- 第14回 後期の学修のまとめ
- 第15回 第1年目の学修についての反省と、次年度への計画

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をすること。  
 楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自分に課すことが望まれる。(毎日2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態。準備の内容、随時出す課題についてフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教員の指示によって準備してもらうこともある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的に学修を心がけること。

ナンバリング	MSP703N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現することの出来る力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 1年間の計画を立てる。
- 第2回 脱力について、より深く考える。(前半)
- 第3回 脱力について、より深く考える。(後半)
- 第4回 バロック時代の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第5回 バロック時代の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第6回 古典派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第7回 古典派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第8回 初期ロマン派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第9回 初期ロマン派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第10回 ロマン派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第11回 ロマン派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第12回 ロマン派以降の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第13回 ロマン派以降の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第14回 現代音楽について
- 第15回 前期のまとめと整理。

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をすること。  
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自らに課すが望まれる。(毎日2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当の教員から提示があることもある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的な学修を心がけること。

ナンバリング	MSP704N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現できる力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ペダルの使用について更に学修する。(前半)
- 第2回 ペダルの使用について更に学修する。(後半)
- 第3回 身体の使い方について更に学修する。(前半)
- 第4回 身体の使い方について更に学修する。(後半)
- 第5回 論文について、実技教員との打ち合わせと方向付け。
- 第6回 作品の分析について更に学修する。(前半)
- 第7回 作品の分析について更に学修する。(後半)
- 第8回 暗譜の方法について更に学修する。(前半)
- 第9回 暗譜の方法について更に学修する。(後半)
- 第10回 レパートリーの拡大のための方策について更に学修する。(前半)
- 第11回 レパートリーの拡大のための方策について更に学修する。(後半)
- 第12回 修了演奏に向かったのレッスン。
- 第13回 修了演奏に向けてあらゆる角度からの掘り下げ。
- 第14回 修了演奏に向けての表現研究。
- 第15回 修了演奏に向けての仕上げ。

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生に相応しい準備ができるようにすること。  
 楽譜の綿密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自分に課すことが望まれる。(毎日2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み方、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特にはないが、担当の教員から指示があることもある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的に学修することを心がけるようにすること。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	濱尾 夕美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアノ奏法の研究を深め、より高度な演奏技術の修得を目指す。主に古典派、ロマン派の音楽を中心に取り上げ、時代背景や様式、及び作曲家の理解などを通して作品への理解を深め、独創的な演奏表現ができることを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽の本質を見極め、演奏やコミュニケーションによって人々に感動を伝えることができる力を養う。楽曲分析やエディション比較など多角的な実習を通して作品への理解を深め、より豊かな演奏表現を探究する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ピアノ演奏論から学ぶ ～技術と練習法の省察～
- 第3回 ピアノ演奏の基本的なフォームと奏法
- 第4回 様々なメソッドによる脱力を意識した奏法
- 第5回 エチュードの練習法とレパートリーの拡充
- 第6回 テクニックの課題点を克服するための考察と実践
- 第7回 ウィーン古典派の音楽 様式と演奏法
- 第8回 運指法とアーティキュレーションの研究
- 第9回 歴史的ピアノによる演奏
- 第10回 ロマン派音楽の様式と演奏法
- 第11回 カンタービレ奏法の研究
- 第12回 ディスカッション 音楽鑑賞を通して演奏解釈を読み解く
- 第13回 交響的な響きづくりとバランスの研究
- 第14回 終了コンサート
- 第15回 まとめ

\* 演奏作品及び担当曲は、学生と相談しながら決める。

#### ◆準備学習の内容◆

自分が担当する作品を研究し、授業内で演奏と解説ができるように準備しておくこと。(目安: 毎日30分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏の成果により総合的に評価する。  
課題に対するフィードバックは、授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

- 『大ピアニストは語る』 原田光子編訳 (東京創元社)
- 『現代ピアノ演奏法』 ライマー＝ギーゼキング著 (音楽之友社)
- 『ピアノ奏法』 井上直幸著 (春秋社)
- 『シャンドール ピアノ教本』 ジョルジ・シャンドール著 (春秋社)
- 『メナヘム・プレスラーのピアノレッスン』 ウィリアム・ブラウン著 (音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	遠藤 志葉		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》を分析し、様々な考察を試みることにより、楽譜への洞察力を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

J.S.バッハの鍵盤楽器音楽の代表作《平均律クラヴィーア曲集第1巻》について、分析を行う。そして本作品が後生の作曲家へ及ぼした影響、多数のエディションと録音資料によって形成される演奏の歴史、現代ピアノで演奏する際に検討すべき諸問題など、様々な考察を試みながら全曲を網羅し、この偉大な作品をまとめあげた作曲家J.S.バッハの視点に迫ることを目指す。

- 1) ガイダンス
- 2) 第1番、第2番
- 3) 第3番、第4番
- 4) 第5番、第6番
- 5) 第7番、第8番
- 6) 第9番、第10番
- 7) 第11番、第12番
- 8) 第13番、第14番
- 9) 第15番、第16番
- 10) 第17番、第18番
- 11) 第19番、第20番
- 12) 第21番、第22番
- 13) 第23番、第24番
- 14) ミニコンサート
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

数曲を分析、演奏ができるように準備することが望ましい。(目安:一週間に2時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏・研究発表の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》の楽譜を用意すること。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	奈良 希愛		
学年	1年	クラス	03
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアニストにとって大切なグローバルな知識・研究を求め、自身のこれからのキャリアを作る力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

この授業では世界に広く視野をもち知識を深め、これから自身でつくりあげていく演奏法、キャリアに関して学ぶ機会とする。また演奏技術に関しても、己の身体的長所及び癖などを見つめ直し、長く演奏できる方法を考える。

- 第1回 打ち合わせ、前期全体の授業内容の確認  
 第2回 レパートリーについて 1. 今の自分のレパートリーから見ること  
 第3回 レパートリーについて 2. 自分らしいプログラムを考える、アンコールについて  
 第4回 レパートリーについて 3. プログラムノートについて  
 第5回 姿勢について(座り方)1. 腕の脱力法を考える  
 第6回 姿勢について(座り方)2. 腕の仕組みを知る  
 第7回 姿勢について(ペダル)1. ペダリングの方法 a アナトミックの観点から考える  
 第8回 姿勢について(ペダル)1. ペダリングの方法 b 美しいペダリングの技術  
 第9回 演奏法 1. 多種にわたる音づくり  
 第10回 演奏法 2. 各声部のフレージングの共存  
 第11回 伴奏から学ぶべき、ソロの演奏法 1. 声楽から学べること  
 第12回 伴奏から学ぶべき、ソロの演奏法 2. 器楽から学べること
- 第13回 ソルフェージュのスキルを上げる 1. 譜読みを正確に早く行う練習法  
 第14回 ソルフェージュのスキルを上げる 2. 移調の訓練の仕方  
 第15回 ピアノの構造、音づくりに関して(調律の立場から)

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

このクラスでは、キャリアアップのために必要なこと、また音楽に携わる仕事(指導、演奏)を求める人に対して、気づいてほしいことを中心に行います。演奏することも多々含まれます。曲に指定は原則ありませんが、短くていいので、演奏できるような状態を常に求めます。進行は、習得状態を鑑みて、柔軟に行います。(準備学習・1日30分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

バランスボールやピラティスボールなどの、プロップスを使った内容も含まれます。調律、音楽学に関しては、専門の立場からの授業を行います。

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	濱尾 夕美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ロマン派、近現代の音楽を取り上げ、より多彩な技術と表現力を高める。さらに演奏家として独自の個性を生かしたプログラムを作成し、演奏会を実現していくことができる力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

前期に引き続きテクニックの向上を目指し、演奏研究を進める。

- 第1回 ガイダンス レパートリーの確認
- 第2回 ロマン派音楽の様式と演奏法
- 第3回 室内楽作品の鑑賞と分析研究
- 第4回 演奏表現の探究
- 第5回 近代フランス音楽 ドビュッシー、ラヴェル
- 第6回 オーケストラ作品の鑑賞とスコアリーディング
- 第7回 ペダリングの研究
- 第8回 ロシア音楽とピアノイズム
- 第9回 演奏表現の探究
- 第10回 楽式論① 作品と分析
- 第11回 楽式論② 演奏法
- 第12回 コンサート企画とプログラミング
- 第13回 ソロリサイタル開催への道
- 第14回 終了コンサート
- 第15回 まとめ

\* 演奏作品及び担当曲は、学生と相談しながら決める。

#### ◆準備学習の内容◆

自分が担当する作品を研究し、授業内で演奏と解説ができるように準備しておくこと。(目安:毎日30分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏・研究発表の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

『ピアノの演奏様式』ピーター・クーパー著 (シンフォニア)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	遠藤 志葉		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-325	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第2巻》を分析し、様々な考察を試みることにより、楽譜への洞察力を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

J.S.バッハの鍵盤楽器音楽の代表作《平均律クラヴィーア曲集第2巻》について、分析を行う。主に、前期に行った《平均律クラヴィーア曲集第1巻》との比較を行い、J.S.バッハの最晩年の書法を詳細に解説する。そしてJ.S.バッハの音楽作品全体を俯瞰し、作曲家の人物像に焦点を当てる。

- 1) ガイダンス
- 2) 第1番、第2番
- 3) 第3番、第4番
- 4) 第5番、第6番
- 5) 第7番、第8番
- 6) 第9番、第10番
- 7) 第11番、第12番
- 8) 第13番、第14番
- 9) 第15番、第16番
- 10) 第17番、第18番
- 11) 第19番、第20番
- 12) 第21番、第22番
- 13) 第23番、第24番
- 14) ミニコンサート
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

数曲を分析、演奏ができるように準備することが望ましい。(目安:一週間に2時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏・研究発表の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第2巻》の楽譜を用意すること。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	奈良 希愛		
学年	1年	クラス	03
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアニストにとって大切なグローバルな知識・研究を求め、自身のこれからのキャリアを作る力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

前期の学修成果を踏まえ、より取り上げる分野を広げ、知識を深め自身の研究に活かす。

- 第1回 後期全体の授業についての話、打ち合わせ  
 第2回 キャリアを考える 1.コンクールへの準備(必要とされるレパートリー、国際コンクールの傾向)  
 第3回 キャリアを考える 2.コンクールへの準備(自分の良さを出すために)  
 第4回 キャリアを考える 3.コンクールへの準備(自分の課題を知る、書類審査を通るためには)  
 第5回 キャリアを考える 1.舞台に立つということ(コンクールにおける演奏考慮)  
 第6回 キャリアを考える 2.舞台に立つということ(演奏会における演奏考慮)  
 第7回 キャリアを考える 3.舞台に立つということ(共演者として配慮すべきこと)  
 第8回 演奏技術の向上 1.手の仕組みを知る  
 第9回 演奏技術の向上 2.自分に必要なトレーニング方法を考える a 体の仕組みから  
 第10回 演奏技術の向上 3.自分に必要なトレーニング方法を考える b メンタルコントロールについて  
 第11回 演奏技術の向上 4.息の長い演奏家になるために  
 第12回 キャリアに必要なこと 1.様々なチャンスを得るために  
 第13回 キャリアに必要なこと 2.経歴について  
 第14回 演奏法(前期後期で学んだことを、演奏で確かめる)  
 第15回 音楽学の観点から学ぶ 作品へのアプローチ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

このクラスでは、キャリアアップのために必要なこと、また音楽に携わる仕事(指導、演奏)を求める人に対して、気づいてほしいことを中心に行います。演奏することも多々含まれます。曲に指定は原則ありませんが、短くていいので、演奏できるような状態を常に求めます。進行は、習得状態を鑑みて、柔軟に行います。(準備学習・1日30分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

バランスボールやピラティスボールなどの、プロップスを使った内容も含まれます。調律、音楽学に関しては、専門の立場からの授業を行います。

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	濱尾 夕美		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアノ奏法の研究を深め、より高度な演奏技術の修得を目指す。主に古典派、ロマン派の音楽を中心に取り上げ、時代背景や様式、及び作曲家の理解などを通して作品への理解を深め、独創的な演奏表現ができることを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽の本質を見極め、演奏やコミュニケーションによって人々に感動を伝えることができる力を養う。楽曲分析やエディション比較など多角的な実習を通して作品への理解を深め、より豊かな演奏表現を探究する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ピアノ演奏論から学ぶ ～技術と練習法の省察～
- 第3回 ピアノ演奏の基本的なフォームと奏法
- 第4回 様々なメソッドによる脱力を意識した奏法
- 第5回 エチュードの練習法とレパートリーの拡充
- 第6回 テクニックの課題点を克服するための考察と実践
- 第7回 ウィーン古典派の音楽 様式と演奏法
- 第8回 運指法とアーティキュレーションの研究
- 第9回 歴史的ピアノにおける演奏
- 第10回 ロマン派音楽の様式と演奏法
- 第11回 カンタービレ奏法の研究
- 第12回 ディスカッション 音楽鑑賞を通して演奏解釈を読み解く
- 第13回 交響的な響きづくりとバランスの研究
- 第14回 終了コンサート
- 第15回 まとめ

\* 演奏作品及び担当曲は、学生と相談しながら決める。

#### ◆準備学習の内容◆

自分が担当する作品を研究し、授業内で演奏と解説ができるように準備しておくこと。(目安:毎日30分程度)□

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏の成果により総合的に評価する。  
課題に対するフィードバックは、授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

- 『大ピアニストは語る』 原田光子編訳 (東京創元社)
- 『現代ピアノ演奏法』 ライマー＝ギーゼキング著 (音楽之友社)
- 『ピアノ奏法』 井上直幸著 (春秋社)
- 『シャンドール ピアノ教本』 ジョルジ・シャンドール著 (春秋社)
- 『メナヘム・プレスラーのピアノレッスン』 ウィリアム・ブラウン著 (音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	遠藤 志葉		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

J.S.バッハの平均律クラヴィーア曲集第1巻について、様々な視点から考察する。

#### ◆授業内容・計画◆

J.S.バッハの鍵盤楽器音楽の代表作《平均律クラヴィーア曲集第1巻》について、分析を行う。そして本作品が後生の作曲家へ及ぼした影響、多数のエディションと録音資料によって形成される演奏の歴史、現代ピアノで演奏する際に検討すべき諸問題など、様々な考察を試みながら全曲を網羅し、この偉大な作品をまとめあげた作曲家J.S.バッハの視点に迫ることを目指す。

- 1) ガイダンス
- 2) 第1番、第2番
- 3) 第3番、第4番
- 4) 第5番、第6番
- 5) 第7番、第8番
- 6) 第9番、第10番
- 7) 第11番、第12番
- 8) 第13番、第14番
- 9) 第15番、第16番
- 10) 第17番、第18番
- 11) 第19番、第20番
- 12) 第21番、第22番
- 13) 第23番、第24番
- 14) ミニコンサート
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

数曲を分析、演奏ができるように準備することが望ましい。(目安:一週間に2時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏・研究発表の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》の楽譜を用意すること。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	奈良 希愛		
学年	2年	クラス	03
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアニストにとって大切なグローバルな知識・研究を求め、自身のこれからのキャリアを作る力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

この授業では世界に広く視野をもち知識を深め、これから自身でつくりあげていく演奏法、キャリアに関して学ぶ機会とする。また演奏技術に関しても、己の身体的長所及び癖などを見つめ直し、長く演奏できる方法を考える。

- 第1回 打ち合わせ、前期全体の授業内容の確認
- 第2回 レパートリーについて 1. 今の自分のレパートリーから見えること
- 第3回 レパートリーについて 2. 自分らしいプログラムを考える、アンコールについて
- 第4回 レパートリーについて 3. プログラムノートについて
- 第5回 姿勢について(座り方)1. 腕の脱力法を考える
- 第6回 姿勢について(座り方)2. 腕の仕組みを知る
- 第7回 姿勢について(ペダル)1. ペダリングの方法 a アナトミックの観点から考える
- 第8回 姿勢について(ペダル)1. ペダリングの方法 b 美しいペダリングの技術
- 第9回 演奏法 1. 多種にわたる音づくり
- 第10回 演奏法 2. 各声部のフレージングの共存
- 第11回 伴奏から学ぶべき、ソロの演奏法 1. 声楽から学べること
- 第12回 伴奏から学ぶべき、ソロの演奏法 2. 器楽から学べること
  
- 第13回 ソルフェージュのスキルを上げる 1. 譜読みを正確に早く行う練習法
- 第14回 ソルフェージュのスキルを上げる 2. 移調の訓練の仕方
- 第15回 ピアノの構造、音づくりに関して(調律の立場から)

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

このクラスでは、キャリアアップのために必要なこと、また音楽に携わる仕事(指導、演奏)を求める人に対して、気づいてほしいことを中心に行います。演奏することも多々含まれます。曲に指定は原則ありませんが、短くていいので、演奏できるような状態を常に求めます。進行は、習得状態を鑑みて、柔軟に行います。(準備学習・1日30分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

バランスボールやピラティスボールなどの、プロップスを使った内容も含まれます。調律、音楽学に関しては、専門の立場からの授業を行います。

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究BⅡ		
科目詳細			
担当教員	濱尾 夕美		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ロマン派、近現代の音楽を取り上げ、より多彩な技術と表現力を高める。さらに演奏家として独自の個性を生かしたプログラムを作成し、演奏会を実現していくことができる力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

前期に引き続きテクニックの向上を目指し、演奏研究を進める。

- 第1回 ガイダンス レパートリーの確認
- 第2回 ロマン派音楽の様式と演奏法
- 第3回 室内楽作品の鑑賞と分析研究
- 第4回 演奏表現の探究
- 第5回 近代フランス音楽 ドビュッシー、ラヴェル
- 第6回 オーケストラ作品の鑑賞とスコアリーディング
- 第7回 ペダリングの研究
- 第8回 ロシア音楽とピアノイズム
- 第9回 演奏表現の探究
- 第10回 楽式論① 作品と分析
- 第11回 楽式論② 演奏法
- 第12回 コンサート企画とプログラミング
- 第13回 ソロリサイタル開催への道
- 第14回 終了コンサート
- 第15回 まとめ

\* 演奏作品及び担当曲は、学生と相談しながら決める。

#### ◆準備学習の内容◆

自分が担当する作品を研究し、授業内で演奏と解説ができるように準備しておくこと。(目安:毎日30分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏・研究発表の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

『ピアノの演奏様式』ピーター・クーパー著 (シンフォニア)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究BⅡ		
科目詳細			
担当教員	遠藤 志葉		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-325	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第2巻》を分析し、様々な考察を試みることにより、楽譜への洞察力を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

J.S.バッハの鍵盤楽器音楽の代表作《平均律クラヴィーア曲集第2巻》について、分析を行う。主に、前期に行った《平均律クラヴィーア曲集第1巻》との比較を行い、J.S.バッハの最晩年の書法を詳細に解説する。そしてJ.S.バッハの音楽作品全体を俯瞰し、作曲家の人物像に焦点を当てる。

- 1) ガイダンス
- 2) 第1番、第2番
- 3) 第3番、第4番
- 4) 第5番、第6番
- 5) 第7番、第8番
- 6) 第9番、第10番
- 7) 第11番、第12番
- 8) 第13番、第14番
- 9) 第15番、第16番
- 10) 第17番、第18番
- 11) 第19番、第20番
- 12) 第21番、第22番
- 13) 第23番、第24番
- 14) ミニコンサート
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

数曲を分析、演奏ができるように準備することが望ましい。(目安:一週間に2時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および演奏・研究発表の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集第2巻》の楽譜を用意すること。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B II		
科目詳細			
担当教員	奈良 希愛		
学年	2年	クラス	03
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアニストにとって大切なグローバルな知識・研究を求め、自身のこれからのキャリアを作る力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

前期の学修成果を踏まえ、より取り上げる分野を広げ、知識を深め自身の研究に活かす。

- 第1回 後期全体の授業についての話、打ち合わせ
- 第2回 キャリアを考える 1. コンクールへの準備（必要とされるレパートリー、国際コンクールの傾向）
- 第3回 キャリアを考える 2. コンクールへの準備（自分の良さを出すために）
- 第4回 キャリアを考える 3. コンクールへの準備（自分の課題を知る、書類審査を通るためには）
- 第5回 キャリアを考える 1. 舞台に立つということ（コンクールにおける演奏考慮）
- 第6回 キャリアを考える 2. 舞台に立つということ（演奏会における演奏考慮）
- 第7回 キャリアを考える 3. 舞台に立つということ（共演者として配慮すべきこと）
- 第8回 演奏技術の向上 1. 手の仕組みを知る
- 第9回 演奏技術の向上 2. 自分に必要なトレーニング方法を考える a 体の仕組みから
- 第10回 演奏技術の向上 3. 自分に必要なトレーニング方法を考える b メンタルコントロールについて
- 第11回 演奏技術の向上 4. 息の長い演奏家になるために
- 第12回 キャリアに必要なこと 1. 様々なチャンスを得るために
- 第13回 キャリアに必要なこと 2. 経歴について
- 第14回 演奏法（前期後期で学んだことを、演奏で確かめる）
- 第15回 音楽学の観点から学ぶ 作品へのアプローチ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

このクラスでは、キャリアアップのために必要なこと、また音楽に携わる仕事（指導、演奏）を求める人に対して、気づいてほしいことを中心に行います。演奏することも多々含まれます。曲に指定は原則ありませんが、短くていいので、演奏できるような状態を常に求めます。進行は、習得状態を鑑みて、柔軟に行います。（準備学習・1日30分程度）

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

バランスボールやピラティスボールなどの、プロップスを使った内容も含まれます。調律、音楽学に関しては、専門の立場からの授業を行います。

ナンバリング	MSS730N		
科目名	ピアノ協奏曲研究 I		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	江澤 聖子, 新納 洋介		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ティンパノマホリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアニストにとって重要なレパートリーの一つであるピアノ協奏曲を学び、自身のピアノ演奏の表現力を高めるとともに、将来のオーケストラとの共演の機会に備える。また、オーケストラ・パートをピアノで演奏することにより、オーケストラにおけるそれぞれの楽器の役割を理解する。オーケストラ・スコアの音の組み立てを明確にし、多彩な音色を作り出す力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

ウィーン古典派から近代のピアノ協奏曲の中から各自1曲選択し1年間で全楽章を仕上げることとする。

下記に課題曲例を提示するが、これらの曲以外にも担当教員と相談の上、可とする。

前期はまず第1楽章を中心に演奏法の研究を行う。

授業の第14回目にはミニコンサートを行い、ピアノ伴奏との共演により協奏曲を演奏する。

#### 課題曲例

W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲第9番 変ホ長調《ジュナミ》K.271、第20番 二短調 K.466、第21番 八長調 K.467、第22番 変ホ長調 K.482、第23番 イ長調 K.488、第24番 ハ短調 K.491、第25番 ハ長調 K.503、第26番 二長調《戴冠式》K.537、第27番 変ロ長調 K.595

L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第1番 八長調 作品15、第2番 変ロ長調 作品19、第3番 ハ短調 作品37、第4番ト長調 作品58、第5番 変ホ長調 作品73

F.ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11、第2番 へ短調 作品21

R.シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

F.リスト:ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調

E.グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

S.ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18

M.ラヴェル:ピアノ協奏曲ト長調

第1回 ガイダンス(曲目選択に関する相談、オーケストラパートの共演者決めなど)

第2回 選択曲の鑑賞。次週より各ペアが選択曲を幾つかの部分に分け演奏し、教員がアドバイスをします。

第3回 第1楽章提示部1) 第1ペア、第2ペア

第4回 第1楽章提示部2) 第3ペア、第4ペア

第5回 第1楽章展開部1) 第1ペア、第2ペア

第6回 第1楽章展開部2) 第3ペア、第4ペア

第7回 第1楽章再現部1) 第1ペア、第2ペア

第8回 第1楽章再現部2) 第3ペア、第4ペア

第9回 第1楽章オーケストラパートを中心に1) 第1ペア、第2ペア

第10回 第1楽章オーケストラパートを中心に2) 第3ペア、第4ペア

第11回 第1楽章総仕上げ

第12回 ミニコンサートのリハーサル1) 第1ペア、第2ペア

第13回 ミニコンサートのリハーサル2) 第3ペア、第4ペア

第14回 ミニコンサート

第15回 まとめ

\* なお各回の内容は進度により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

自身の課題曲を決めその作品を綿密に研究し、パートナーとの合わせも含め発表する授業回までにしっかり準備しておくこと。

また課題曲以外に伴奏パートを最低一曲受け持つので、その曲に関しても準備をする。(目安一週間に最低3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS731N		
科目名	ピアノ協奏曲研究Ⅱ		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	江澤 聖子, 新納 洋介		
学年	1年	クラス	00
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	ティプロマホリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアニストにとって重要なレパートリーの一つであるピアノ協奏曲を学び、自身のピアノ演奏の表現力を高めるとともに、将来のオーケストラとの共演の機会に備える。また、オーケストラ・パートをピアノで演奏することにより、オーケストラにおけるそれぞれの楽器の役割を理解する。オーケストラ・スコアの音の組み立てを明確にし、多彩な音色を作り出す力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

前期の学修成果を踏まえ、ウィーン古典派から近代のピアノ協奏曲の中から各自1曲選択した課題曲の全楽章を仕上げる。下記に課題曲例を提示するが、これらの曲以外も担当教員と相談の上、可とする。

後半以降にクラス内発表演奏や2クラス合同コンサートを行い、ピアノ伴奏との共演により協奏曲全楽章を演奏することとする。

#### 課題曲例

W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲第9番 変ホ長調《ジュナミ》K.271、第20番 二短調 K.466、第21番 八長調 K.467、第22番 変ホ長調 K.482、第23番 イ長調 K.488、第24番 ハ短調 K.491、第25番 ハ長調 K.503、第26番 二長調《戴冠式》K.537、第27番 変ロ長調 K.595

L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第1番 八長調 作品15、第2番 変ロ長調 作品19、第3番 ハ短調 作品37、第4番ト長調 作品58、第5番 変ホ長調 作品73

F.ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11、第2番 ヘ短調 作品21

R.シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

F.リスト:ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調

E.グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

S.ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18

M.ラヴェル:ピアノ協奏曲ト長調

第1回 ガイダンス(今後の進め方について)

第2回 第2楽章1)第1ペア、第2ペア、

第3回 第2楽章2)第3ペア、第4ペア

第4回 第2楽章3)オーケストラパートを中心に 第1ペア、第2ペア

第5回 第2楽章4)オーケストラパートを中心に 第3ペア、第4ペア

第6回 第3楽章1)前半を中心に 第1ペア、第2ペア

第7回 第3楽章2)前半を中心に 第3ペア、第4ペア

第8回 第3楽章3)後半を中心に 第1ペア、第2ペア

第9回 第3楽章4)後半を中心に 第3ペア、第4ペア

第10回 第3楽章5)オーケストラパートを中心に 第1ペア、第2ペア

第11回 第3楽章6)オーケストラパートを中心に 第3ペア、第4ペア

第12回 クラス内発表演奏1)第1ペア、第2ペア

第13回 クラス内発表演奏2)第3ペア、第4ペア

第14回 2クラス合同コンサート

第15回 まとめ

\*なお各回の内容は進捗により変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

自身の課題曲を決めその作品を綿密に研究し、パートナーとの合わせも含め発表する授業回までにしっかり準備をしておくこと。また課題曲以外に伴奏パートを最低一曲受け持つので、その曲に関してもしっかり準備をする。(目安一週間に最低3時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により総合的に評価する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSS718N		
科目名	器楽系伴奏研究 I		
科目詳細	器楽系		
担当教員	岡本 知也		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

器楽とのアンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者とのコミュニケーションの方法を理解することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について考察する。  
 器楽との二重奏を中心に進めていくが、他にもアンサンブル・ピアニストに求められる分野として、協奏曲の伴奏パートとしてオーケストラのリダクション、バロック作品の通奏低音パート、オーケストラの中の鍵盤楽器パート(オケ中ピアノ、オケ中チェレスタ)についても、実際の演奏について取り上げる。

#### 〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。  
 ピアノパートのみのレッスンとなる場合もある。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違、特性
- 3) 弦楽器とピアノの作品(ヴァイオリンを中心に)
- 4) 管楽器とピアノの作品(フルートを中心に)
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 9) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 10) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 11) 協奏曲の伴奏、オーケストラのリダクションパート
- 12) 通奏低音パート
- 13) オケ中(ピアノ、チェレスタ)、パート譜
- 14) 舞台上の位置の選び方、共演者とのバランスと位置関係
- 15) 本番へ向けた調整

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
 (目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』 練木繁夫著(春秋社)  
 『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著 日高孝之訳(市ヶ谷出版社)

#### ◆留意事項◆

原則として演奏助手が授業に参加するが、共演者を各自で手配することもできる。

ナンバリング	MSS719N		
科目名	器楽系伴奏研究Ⅱ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	岡本 知也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

器楽とのアンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者とのコミュニケーションを図り、自発的な音楽表現ができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について考察する。器楽との二重奏を中心に進めていくが、他にもアンサンブル・ピアニストに求められる分野として、協奏曲の伴奏パートとしてオーケストラのリダクション、バロック作品の通奏低音パート、オーケストラの中の鍵盤楽器パート(オケ中ピアノ、オケ中チェレスタ)についても、実際の演奏について取り上げる。

後期の内容については、前期の授業内容を踏まえ、履修者の希望を取り入れて柔軟に進めていきたい。

#### 〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

ピアノパートのみのレッスンとなる場合もある。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違、特性
- 3) 弦楽器とピアノの作品(ヴァイオリンを中心に)
- 4) 管楽器とピアノの作品(フルートを中心に)
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 9) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 10) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 11) 協奏曲の伴奏、オーケストラのリダクションパート
- 12) 通奏低音パート
- 13) オケ中(ピアノ、チェレスタ)、パート譜
- 14) 舞台上の位置の選び方、共演者とのバランスと位置関係
- 15) 本番へ向けた調整

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

- 『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』 練木繁夫著(春秋社)  
 『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著 日高孝之訳(市ヶ谷出版社)

#### ◆留意事項◆

原則として演奏助手が授業に参加するが、共演者を各自で手配することもできる。

ナンバリング	MSS720N		
科目名	器楽系伴奏研究Ⅲ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	岡本 知也		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

器楽とのアンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者と緻密なコミュニケーションをとることができ、自発的な音楽表現ができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について考察する。器楽との二重奏を中心に進めていくが、他にもアンサンブル・ピアニストに求められる分野として、協奏曲の伴奏パートとしてオーケストラのリダクション、バロック作品の通奏低音パート、オーケストラの中の鍵盤楽器パート(オケ中ピアノ、オケ中チェレスタ)についても、実際の演奏について取り上げる。

#### 〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。ピアノパートのみのレッスンとなる場合もある。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違、特性
- 3) 弦楽器とピアノの作品(ヴァイオリンを中心に)
- 4) 管楽器とピアノの作品(フルートを中心に)
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 9) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 10) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 11) 協奏曲の伴奏、オーケストラのリダクションパート
- 12) 通奏低音パート
- 13) オケ中(ピアノ、チェレスタ)、パート譜
- 14) 舞台上の位置の選び方、共演者とのバランスと位置関係
- 15) 本番へ向けた調整

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』 練木繁夫著(春秋社)  
 『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著 日高孝之訳(市ヶ谷出版社)

#### ◆留意事項◆

原則として演奏助手が授業に参加するが、共演者を各自で手配することもできる。

ナンバリング	MSS721N		
科目名	器楽系伴奏研究Ⅳ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	岡本 知也		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

器楽とのアンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者との緻密なコミュニケーションを自然にとることができ、自発的な音楽表現ができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について考察する。

器楽との二重奏を中心に進めていくが、他にもアンサンブル・ピアニストに求められる分野として、協奏曲の伴奏パートとしてオーケストラのリダクション、バロック作品の通奏低音パート、オーケストラの中の鍵盤楽器パート(オケ中ピアノ、オケ中チェレスタ)についても、実際の演奏について取り上げる。

後期の内容については、前期の授業内容を踏まえ、履修者の希望を取り入れて柔軟に進めていきたい。

#### 〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

ピアノパートのみのレッスンとなる場合もある。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違、特性
- 3) 弦楽器とピアノの作品(ヴァイオリンを中心に)
- 4) 管楽器とピアノの作品(フルートを中心に)
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 9) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 10) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 11) 協奏曲の伴奏、オーケストラのリダクションパート
- 12) 通奏低音パート
- 13) オケ中(ピアノ、チェレスタ)、パート譜
- 14) 舞台上の位置の選び方、共演者とのバランスと位置関係
- 15) 本番へ向けた調整

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。

(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』 練木繁夫著(春秋社)

『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著 日高孝之訳(市ヶ谷出版社)

#### ◆留意事項◆

原則として演奏助手が授業に参加するが、共演者を各自で手配することもできる。

ナンバリング	MSS732N		
科目名	声楽系伴奏研究(歌曲) I		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	河原 忠之、田中 悠一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。詩を自らの言葉で訳す力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(シューベルト I)
- 第2回 ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(シューマン I)
- 第3回 ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(ブラームス I)
- 第4回 ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(リヒャルト・シュトラウス I)
- 第5回 日本歌曲を巡って(山田耕筰 I 北原白秋の作品)
- 第6回 日本歌曲を巡って(山田耕筰 II 三木露風の作品)
- 第7回 日本歌曲を巡って(山田耕筰 III 大木惇夫の作品)
- 第8回 フランス作品(ドビュッシー I)
- 第9回 英語作品(ブリテン I)
- 第10回 英語作品(バーバー I)
- 第11回 ロシア作品(チャイコフスキー I、ラフマニノフ I)
- 第12回 イタリア古典
- 第13回 イタリア近代
- 第14回 現代作品
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りは勿論のこと歌詞についても解説、解釈してくること。基本的にピアニストに朗読してもらう。(1日2、3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックするなど総合的に評価し成績をつける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

この授業の内容が即戦力となり得るので、緊張感を持って学習すること。

ナンバリング	MSS733N		
科目名	声楽系伴奏研究(歌曲)Ⅱ		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	河原 忠之, 田中 悠一郎		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。詩を自らの言葉で訳す力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツロマン派歌曲を巡って(フーゴー・ヴォルフⅠ メーリケ歌曲集)
- 第2回 ドイツロマン派歌曲を巡って(フーゴー・ヴォルフⅡ ゲーテ歌曲集)
- 第3回 ドイツロマン派歌曲を巡って(フーゴー・ヴォルフⅢ イタリア歌曲集)
- 第4回 ドイツロマン派歌曲を巡って(シェーンベルクの作品)
- 第5回 日本歌曲を巡って(中田喜直の作品)
- 第6回 日本歌曲を巡って(團伊玖磨の作品)
- 第7回 日本歌曲を巡って(三善晃の作品)
- 第8回 ロシア歌曲(グリンカⅠ)
- 第9回 ロシア歌曲(リムスキー・コルサコフⅠ)
- 第10回 英米歌曲(ブリテンⅠ)
- 第11回 英米歌曲(クウイルターⅠ)
- 第12回 現代歌曲
- 第13回 現代歌曲
- 第14回 まとめ(前半)
- 第15回 まとめ(後半)

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと歌詞についても解説、解釈してくること。基本的にピアニストに朗読してもらう。(1日2、3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックするなど、総合的に評価し成績をつける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS734N		
科目名	声楽系伴奏研究(歌曲)Ⅲ		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	河原 忠之、田中 悠一郎		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。詩を自らの言葉で訳す力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(シューベルトⅠ)
- 第2回 ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(シューマンⅠ)
- 第3回 ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(ブラームスⅠ)
- 第4回 ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(リヒャルト・シュトラウスⅠ)
- 第5回 ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(ワーグナー・ヴォルフⅠ・メーリケ作品)
- 第6回 ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(ワーグナー・ヴォルフⅡ・ゲーラ作品)
- 第7回 フランス作品(フォーレⅠ)
- 第8回 フランス作品(ドビュッシーⅠ)
- 第9回 英語作品(ブリテンⅠ)
- 第10回 英語作品(バーバーⅠ)
- 第11回 ロシア作品(チャイコフスキーⅠ、ラフマニノフⅠ)
- 第12回 日本作品(瀧廉太郎Ⅰ)
- 第13回 日本作品(山田耕作Ⅰ)
- 第14回 日本作品(清水脩Ⅰ)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りは勿論のこと歌詞についても解説、解釈してくること。基本的にピアニストに朗読してもらう。(1日2、3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックするなど総合的に評価し成績をつける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

この授業の内容が即戦力となり得るので、緊張感を持って学習すること。

ナンバリング	MSS735N		
科目名	声楽系伴奏研究(歌曲)Ⅳ		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	河原 忠之, 田中 悠一郎		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。詩を自らの言葉で訳す力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツ近代(シェーンベルクⅠ)
- 第2回 ドイツ近代(ベルクⅠ)
- 第3回 ドイツ近代(ウェーベルンⅠ)
- 第4回 ロシア作品(グリンカⅠ)
- 第5回 ロシア作品(リムスキー・コルサコフⅠ)
- 第6回 英語作品(ブリテンⅠ)
- 第7回 英語作品(クウイルターⅠ)
- 第8回 日本作品(中田喜直Ⅰ)
- 第9回 日本作品(團伊玖磨Ⅰ)
- 第10回 日本作品(橋本國彦Ⅰ)
- 第11回 日本作品(高田三郎Ⅰ)
- 第12回 日本作品(小林秀雄Ⅰ)
- 第13回 日本作品(木下牧子Ⅰ)
- 第14回 まとめ(前半)
- 第15回 まとめ(後半)

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと歌詞についても解説、解釈してくること。基本的にピアニストに朗読してもらう。(1日2、3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックするなど、総合的に評価し成績をつける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS736N		
科目名	声楽系伴奏研究(コレペティツィオン) I		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コレペティートルは今まで現場経験で学ぶものとされてきたが、この授業で基礎を学ぶ事により、より現場に出やすい状況になる様に、より実践的な実力を発揮できる力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 台本研究 I (ロレンツォ・ダ・ポンテの台本を用いて。感想をレポートして教員がフィードバックする)
- 第2回 作曲家研究 I (モーツァルトを用いて。感想をレポートして教員がフィードバックする)
- 第3回 作品研究 (モーツァルトのフィガロの結婚を用いて。感想をレポートして教員がフィードバックする)
- 第4回 レチタティーヴォ奏法研究 (モーツァルトのフィガロの結婚を用いて)
- 第5回 オーケストラ作品のピアノ奏法、スコアの見方
- 第6回 指揮の見方、及び実践
- 第7回 コレペティツィオン実践 I (モーツァルト作品)
- 第8回 コレペティツィオン実践 II (ベルカント作品)
- 第9回 コレペティツィオン実践 III (ヴェルディ作品)
- 第10回 コレペティツィオン実践 IV (プッチーニ作品)
- 第11回 コレペティツィオン実践 V (ドイツ語オペラ作品)
- 第12回 コレペティツィオン実践 VI (フランス語オペラ作品)
- 第13回 コレペティツィオン実践 VII (英米オペラ作品)
- 第14回 コレペティツィオン実践 VIII (邦楽オペラ作品)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

歌手を指導する立場にある以上、歌手の学習の範囲を超えた学習が必要になる。準備内容は毎週違ってくるが、できる限りの自宅での準備をする事。(1日2~3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックするなど、総合的に評価し成績を付ける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示がある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

当然、コレペティートルの経験がない学生を対象にするので、初めてのことや簡単ではない事が多く、大変である。各自覚悟を持って参加すること。

ナンバリング	MSS737N		
科目名	声楽系伴奏研究(コレペティツィオン)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コレペティートルは今まで現場経験で学ぶものとされてきたが、この授業で基礎を学ぶ事により、より現場に出やすい状況になる様に、より実践的な実力を発揮できる力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 台本研究Ⅱ(各自和訳を實踐して教員がフィードバックする)
- 第2回 作曲家研究Ⅱ(作曲家を選びその特徴をレポート提出し教員がフィードバックする)
- 第3回 コレペティツィオンⅠ 個人稽古(ディクシオン、音程などのチェック)
- 第4回 コレペティツィオンⅡ 個人稽古(発声、ニュアンス、音楽性のチェック)
- 第5回 コレペティツィオンⅢ アンサンブル稽古(少人数での實踐)
- 第6回 コレペティツィオンⅣ アンサンブル稽古(多人数での實踐)
- 第7回 コレペティツィオンⅤ 指揮者との稽古(指揮者、歌手とのコンタクト)
- 第8回 コレペティツィオンⅥ 指揮者との稽古(ニュアンス、音楽性をより意識する)
- 第9回 コレペティツィオンⅦ 立ち稽古を想定した稽古(立ちについてのディスカッション)
- 第10回 レポート提出(シーンについて、教員はフィードバック)
- 第11回 レポート提出(幕全体について、教員はフィードバック)
- 第12回 レポート提出(オペラ全体について、教員はフィードバック)
- 第13回 レポート提出(自分のセールスポイントについて、教員はフィードバック)
- 第14回 レポート提出(コレペティートルへの総合的見解、教員はフィードバック)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

レポートも多く相当大変だが、自宅での準備をしっかりとる事。毎回準備内容は変わる。(1日2~3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題などについてフィードバックし、総合的に評価し成績を付ける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

相当大変だと思われるが、覚悟を持って参加すること。

ナンバリング	MSS738N		
科目名	声楽系伴奏研究(コレペティツィオン)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コレペティートルは今まで現場経験で学ぶものとされてきたが、この授業で基礎を学ぶ事により、より現場に出やすい状況になる様に、より実践的な実力を発揮できる力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 台本研究Ⅰ(ロレンツォ・ダ・ポンテの台本を用いて。感想をレポートして教員がフィードバックする)
- 第2回 作曲家研究Ⅰ(モーツァルトを用いて。感想をレポートして教員がフィードバックする)
- 第3回 作品研究(モーツァルトのフィガロの結婚を用いて。感想をレポートして教員がフィードバックする)
- 第4回 レチタティーヴォ奏法研究(モーツァルトのフィガロの結婚を用いて)
- 第5回 オーケストラ作品のピアノ奏法、スコアの見方
- 第6回 指揮の見方、及び実践
- 第7回 コレペティツィオン実践Ⅰ(モーツァルト作品)
- 第8回 コレペティツィオン実践Ⅱ(ベルカント作品)
- 第9回 コレペティツィオン実践Ⅲ(ヴェルディ作品)
- 第10回 コレペティツィオン実践Ⅳ(プッチーニ作品)
- 第11回 コレペティツィオン実践Ⅴ(ドイツ語オペラ作品)
- 第12回 コレペティツィオン実践Ⅵ(フランス語オペラ作品)
- 第13回 コレペティツィオン実践Ⅶ(英米オペラ作品)
- 第14回 コレペティツィオン実践Ⅷ(邦楽オペラ作品)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

歌手を指導する立場にある以上、歌手の学習の範囲を超えた学習が必要になる。準備内容は毎週違ってくるが、できる限りの自宅での準備をする事。(1日2~3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題についてフィードバックするなど、総合的に評価し成績を付ける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示がある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

当然、コレペティートルの経験がない学生を対象にするので、初めてのことや簡単ではない事が多く、大変である。各自覚悟を持って参加すること。

ナンバリング	MSS739N		
科目名	声楽系伴奏研究(コレペティツィオン)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コレペティートルは今まで現場経験で学ぶものとされてきたが、この授業で基礎を学ぶ事により、より現場に出やすい状況になる様に、より実践的な実力を発揮できる力を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 台本研究Ⅱ(各自和訳を實踐して教員がフィードバックする)
- 第2回 作曲家研究Ⅱ(作曲家を選びその特徴をレポート提出し教員がフィードバックする)
- 第3回 コレペティツィオンⅠ 個人稽古(ディクシオン、音程などのチェック)
- 第4回 コレペティツィオンⅡ 個人稽古(発声、ニュアンス、音楽性のチェック)
- 第5回 コレペティツィオンⅢ アンサンブル稽古(少人数での実践)
- 第6回 コレペティツィオンⅣ アンサンブル稽古(多人数での実践)
- 第7回 コレペティツィオンⅤ 指揮者との稽古(指揮者、歌手とのコンタクト)
- 第8回 コレペティツィオンⅥ 指揮者との稽古(ニュアンス、音楽性をより意識する)
- 第9回 コレペティツィオンⅦ 立ち稽古を想定した稽古(立ちについてのディスカッション)
- 第10回 レポート提出(シーンについて、教員はフィードバック)
- 第11回 レポート提出(幕全体について、教員はフィードバック)
- 第12回 レポート提出(オペラ全体について、教員はフィードバック)
- 第13回 レポート提出(自分のセールスポイントについて、教員はフィードバック)
- 第14回 レポート提出(コレペティートルへの総合的見解、教員はフィードバック)
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

レポートも多く相当大変だが、自宅での準備をしっかりする事。毎回準備内容は変わる。(1日2~3時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況、随時出す課題などについてフィードバックし、総合的に評価し成績を付ける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

相当大変だと思われるが、覚悟を持って参加すること。

ナンバリング	MSS709N		
科目名	室内楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	金子 恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

他楽器とのアンサンブルを通じて幅広い経験を積み、より柔軟な表現力を習得する。リハーサルを展開に当たってパートナーに何をどのように提案すべきかを深く考え、要求やアイデアを的確に提案できるスキルと積極性を培うのが、最大の目標である。

#### ◆授業内容・計画◆

さまざまな楽器とのアンサンブル作品を準備する。指導教員の指示に従うだけの受動的な演奏改善を目的とせず、演奏者自身が演奏上の問題点に気づき、それらを自らの提案によって改善に寄与するリハーサルを構築できるよう努力する。

##### 1) ガイダンス

- 2) 第1グループ、第2グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 3) 第3グループ、第4グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 4) 第5グループ、第6グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 5) 第7グループ、第8グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 6) 第1グループ、第2グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 7) 第3グループ、第4グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 8) 第5グループ、第6グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 9) 第7グループ、第8グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 10) 第1グループ、第2グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 11) 第3グループ、第4グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 12) 第5グループ、第6グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 13) 第7グループ、第8グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 14) 演奏発表及び後期の準備(編成と曲決め)
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業は弦楽器、管楽器、打楽器とピアノを含んだアンサンブル作品を軸に展開される。授業開始時に扱う作品、編成は授業開始前にclassroomで指示する。アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につける。自分が担当する作品においては、演奏するパートの技術的な準備のみならず、それが音楽全体の中で何を担うべきかを1時間以上の時間をかけて事前に詳細に考察し、パートナーとの音楽的連携を理解しておくこと。気がついたことは自分の楽譜に書き込んでおくことを推奨する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。そのための楽譜の入手方法に関しては授業内で指示する。これを利用して、自分が演奏しない作品の楽譜にも事前に確認し、実際のアンサンブルの際にどのような配慮が必要になるかを予測しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

演奏の完成度を評価対象にするのではなく、事前の演奏準備の綿密さ、リハーサルを展開する際の創意工夫や積極性を重視するとともに、平常の授業への取り組み(自分が演奏しない場合も含む)によって評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。「留意事項」も参照のこと。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

演奏曲の楽譜は各自用意する。入手困難な場合は担当教員に知らせること。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員およびアンサンブルのパートナーに連絡すること。

ナンバリング	MSS710N		
科目名	室内楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	金子 恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

前期で経験したことに加え、さらに経験を積むべく演習を継続する。

#### ◆授業内容・計画◆

さまざまな楽器とのアンサンブル作品を準備する。前期と同様、演奏者自身の力によってリハーサルを進行させる力を養うことを目的とする。

- 1) 第1グループ、第2グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 2) 第3グループ、第4グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 3) 第5グループ、第6グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 4) 第7グループ、第8グループの第1回目の演奏研究(楽曲研究)
- 5) 第1グループ、第2グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 6) 第3グループ、第4グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 7) 第5グループ、第6グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 8) 第7グループ、第8グループの第2回目の演奏研究(アンサンブル研究)
- 9) 第1グループ、第2グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 10) 第3グループ、第4グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 11) 第5グループ、第6グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 12) 第7グループ、第8グループの第3回目の演奏研究(仕上げの研究)
- 13) 第1、第2、第3、第4グループの演奏発表
- 14) 第5、第6、第7、第8グループの演奏発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業は弦楽器、管楽器、打楽器とピアノを含んだアンサンブル作品を軸に展開される。授業で扱う作品は前期終了時に指示する。アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につける。自分が担当する作品においては、演奏するパートの技術的な準備のみならず、それが音楽全体の中で何を担うべきかを1時間以上の時間をかけて事前に詳細に考察し、パートナーとの音楽的連携を理解しておくこと。気がついたことは自分の楽譜に書き込んでおくことを推奨する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。そのための楽譜の入手方法に関しては授業内で指示する。これを利用して、自分が演奏しない作品の楽譜にも事前に確認し、実際のアンサンブルの際にどのような配慮が必要になるかを予測しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

演奏の完成度を評価対象にするのではなく、事前の演奏準備の綿密さ、リハーサルを展開する際の創意工夫や積極性を重視するとともに、平常の授業への取り組み(自分が演奏しない場合も含む)によって評価する。授業中に課題を常にフィードバックする。「留意事項」も参照のこと。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

演奏曲の楽譜を各自で用意する。入手困難な場合は担当教員に知らせること。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員およびアンサンブルのパートナーに連絡すること。

ナンバリング	MSL701U		
科目名	作品研究(器楽) I		
科目詳細			
担当教員	沢田 千秋		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

演奏するという事の本質的な意味を考え、楽譜を読み解き、精神的により深い演奏が出来るようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1回目 時間芸術としての音楽、そして「演奏」とは。
- 2回目 音楽分析の歴史
- 3回目 音楽文献の種類と文献表について
- 4回目 音楽の言語化～文章の種類～
- 5回目 資料研究、音楽情報についてのガイダンス
- 6回目 音楽の文章表現力
- 7回目 音楽修辞学
- 8回目 プログラムノート
- 9回目 エッセイ
- 10回目 作品研究 バロック作品
- 11回目 作品研究 古典派作品
- 12回目 作品研究 ロマン派作品
- 13回目 作品研究 近代作品
- 14回目 作品研究 現代作品
- 15回目 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

作品の研究に当たっては指示された曲の楽譜を用意し授業の理解の為に充分予習すること。(毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

課題提出やプレゼンテーションに対してのフィードバックを行い、学習意欲(レポートへの取り組み、発表における積極性、講義におけるディスカッション)と到達度に応じ、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業ごとに指示する。

#### ◆参考図書◆

- 『記譜法の歴史～モンテヴェルディからベートーヴェンへ～』カールス・パウルマイヤー著(春秋社)  
『音楽論』白石美雪編著 横井雅子・宮澤淳一著(武蔵野美術大学出版局)  
『バロック音楽 豊かなる生のドラマ』磯山雅 著(ちくま学芸文庫)  
『バロックから初期古典派までの音楽の奏法』橋本英二 著(音楽之友社)  
『音楽の文章術』リチャード・J・ウインジェル著 宮澤淳一/小倉真理 訳  
『音楽分析の歴史』久保田慶一著(春秋社)  
『ソナタ形式の修辞学: 古典派の音楽形式論』ボンズ著 土田英三郎訳  
『ベートーヴェン ピアノ・ソナタ演奏法と解釈』パウル・バドゥーラ=スコダ著 高辻知義,岡村梨影共訳(音楽之友社)  
『音楽と音楽家』シューマン著 吉田秀和訳(岩波書店)  
『音楽のために: ドビュッシー評論集』ドビュッシー著; F.ルジュール編; 杉本秀太郎訳(白水社)  
『作曲家の意図は、すべて楽譜に!: ピアニストが語る!』焦元溥著 森岡葉訳(アルファベータブックス)  
『音楽アナリーゼのための実践ガイド』ナジ・ハキム、マリ=ベルナデット・デュフルセ著 野平多美、他訳(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

作品へのアプローチを通じ、音楽を言葉にする力を身につけるようにする。また様々な器楽奏者が集まる授業の中で、他の楽器に対する知識を深め、各自の成長に役立ててほしい。

ナンバリング	MSL702U		
科目名	作品研究(器楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	沢田 千秋		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

様々な楽曲の分析・研究を通じて、音楽の原理について考え、演奏において必要な技術力、表現力を高めることを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1回目 作品研究計画
- 2回目 室内楽作品の研究
- 3回目 室内楽作品の研究発表
- 4回目 鍵盤楽器作品の研究
- 5回目 鍵盤楽器作品の研究発表
- 6回目 演奏解釈と演奏家としての視点
- 7回目 論文の構成
- 8回目 構造図、表、図の作成
- 9回目 ディスカッション
- 10回目 校正
- 11回目 プレゼンテーション①
- 12回目 プレゼンテーション②
- 13回目 プレゼンテーション③
- 14回目 プレゼンテーション④
- 15回目 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

研究する曲の楽譜を用意し調べて授業に臨むことが望まれる。(毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

課題提出やプレゼンテーションに対してのフィードバックを行い、学習意欲(レポートへの取り組み、発表における積極性、講義におけるディスカッション)と到達度に応じ、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業ごとに指示する

#### ◆参考図書◆

授業の中で推奨する本を提示する

#### ◆留意事項◆

作品へのアプローチを通じ、音楽を文章にする力を身につける。また様々な楽器奏者が集う授業の中で、他の楽器に対する知識を深め演奏力の向上に努めてほしい。

ナンバリング	MSS711N		
科目名	室内楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	山内 のり子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアノと弦楽器、管楽器、打楽器の室内楽曲を演奏するために、お互いに各楽器の特徴を理解し、コミュニケーションを取りながらアンサンブルに必要な能力を高めていく。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は全員参加で公開で行う。お互いに聴き合い、指摘し合いながらそれぞれの問題点やその解決法について探っていく。履修曲目は履修者の専攻楽器によって柔軟に対応する。

#### 〈授業スケジュール〉

- 1) ガイダンスと選曲
- 2) 第1、第2グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 3) 第3、第4グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 4) 第5、第6グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 5) 第7、第8グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 6) 第1、第2グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 7) 第3、第4グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 8) 第5、第6グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 9) 第7、第8グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 10) 第1、第2グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 11) 第3、第4グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 12) 第5、第6グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 13) 第7、第8グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 14) 演奏発表と合評
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。  
演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。(目安90分)  
履修学生全員が授業内で演奏される曲のスコアを閲覧できるよう準備すること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

演奏曲の楽譜は各自用意すること。

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』練木繁夫著(春秋社)

#### ◆留意事項◆

アンサンブルのパートナーとよくコミュニケーションを取り、連絡や練習などを行うこと。やむを得ない事情で授業に参加出来ない場合には教員と、アンサンブルのパートナーに出来るだけ早く連絡すること。

ナンバリング	MSS712N		
科目名	室内楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	山内 のり子		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ピアノと弦楽器、管楽器、打楽器の室内楽曲を演奏するために、お互いに各楽器の特徴を理解し、コミュニケーションを取りながらアンサンブルに必要な能力を高めていく。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は全員参加で公開で行う。お互いに聴き合い、指摘し合いながらそれぞれの問題点やその解決法について探っていく。履修曲目は履修者の専攻楽器によって柔軟に対応する。

#### 〈授業スケジュール〉

- 1) ガイダンスと選曲
- 2) 第1、第2グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 3) 第3、第4グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 4) 第5、第6グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 5) 第7、第8グループの演奏と楽曲研究と各楽器の特徴を知る。
- 6) 第1、第2グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 7) 第3、第4グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 8) 第5、第6グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 9) 第7、第8グループの演奏とアンサンブルとしての表現を探る。
- 10) 第1、第2グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 11) 第3、第4グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 12) 第5、第6グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 13) 第7、第8グループの本番に向けて準備する。(リハーサル)
- 14) 演奏発表と合評
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。  
 演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。(目安90分)  
 履修学生全員が授業内で演奏される曲のスコアを閲覧できるよう準備すること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

演奏曲の楽譜は各自用意すること。

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』練木繁夫著(春秋社)

#### ◆留意事項◆

アンサンブルのパートナーとよくコミュニケーションを取り、連絡や練習などを行うこと。やむを得ない事情で授業に参加出来ない場合には教員と、アンサンブルのパートナーに出来るだけ早く連絡すること。

ナンバリング	MSL703U		
科目名	原典講読(鍵盤楽器) I		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

歌詞を知悉することは、歌曲伴奏において必須のことである。自らが専門としたい言語系はもちろんであるが、それ以外の言語系の文学作品について知っておくことも重要である。様々な言語の文学作品に触れ、将来の演奏の現場での実用につなげて行くことを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

4名の教員によるオムニバス形式の講義が展開される。

- 第1回(河原)通年の授業計画が示され、授業の方法について実際に学習、演習をし、原典購読の意義について理解する。  
 第2回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈。ペトルルカやダンテ 1/3  
 第3回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈。ペトルルカやダンテ 3/2  
 第4回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈 3/3  
 第5回(加納)ドイツの文学思潮の大きな流れ、ドイツの社会史を含めて、理解を深める  
 第6回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈 1/3  
 第7回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈 2/3  
 第8回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈 3/3  
 第9回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に 1/3  
 第10回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に 2/3  
 第11回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に 3/3  
 第12回(望月)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈 1/3  
 第13回(望月)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈 2/3  
 第14回(望月)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈3/3  
 第15回 前期授業のまとめと、後期の課題の確認

#### ◆準備学習の内容◆

課題として出された文学作品について、自力で読解し、解釈出来るようにしておく。  
 時には課題となる作品を使用している音楽作品をめぐる演習もあり得るので、歌い手と用意しておくことも必要となろう。  
 (1日2時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価し、成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度、講師から示される。共通の教科書などはない。

#### ◆参考図書◆

その都度、講師から示される。各言語の辞書は用意しておくように。

#### ◆留意事項◆

負担も大きいですが、将来必ず役に立つ学修内容であるから、確かな意識を持って取り組むように。

ナンバリング	MSL704U		
科目名	原典講読(鍵盤楽器)Ⅱ		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

歌詞を知悉することは、歌曲伴奏において必須のことである。自らが専門としたい言語系はもちろんであるが、それ以外の言語系の文学作品について知っておくことも重要である。様々な言語の文学作品に触れ、将来の演奏の現場での実用につなげていくことを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

4名の教員によって、オムニバス形式で行われる

第1回(河原)イタリアのロマン派以降の作品の解説と解釈。ダヌンツィオなど 1/3

第2回(河原)イタリアのロマン派以降の作品の解説と解釈。ダヌンツィオなど 2/3

第3回(河原)イタリアのロマン派以降の作品の解説と解釈。ダヌンツィオなど 3/3

第4回(加納)ドイツのロマン派以降の作品の解説と解釈 1/4

第5回(加納)ドイツのロマン派以降の作品の解説と解釈 2/4

第6回(加納)ドイツのロマン派以降の作品の解説と解釈3/4

第7回(加納)ドイツのロマン派以降の作品の解説と解釈4/4

第8回(武内)フランスのロマン派以降の作品の解説と解釈 アポリネール、エリュアール、コクトー、etc 3/1

第9回(武内)フランスのロマン派以降の作品の解説と解釈 アポリネール、エリュアール、コクトー、etc 3/2

第10回(武内)フランスのロマン派以降の作品の解説と解釈 アポリネール、エリュアール、コクトー、etc3/3

第11回(望月)日本の詩歌作品。昭和以降の作品の解説と解釈。三好達治を中心に 1/3

第12回(望月)日本の詩歌作品。昭和以降の作品の解説と解釈。三好達治を中心に 2/3

第13回(望月)日本の詩歌作品。昭和以降の作品の解説と解釈。三好達治を中心に 3/3

第14回 講義全体のまとめ①前半、演奏者として歌曲作品の詩に対してどのようなアプローチの仕方が考えられるか、を考えてみる。

第15回 講義全体のまとめ②後半、演奏者として歌曲作品の詩に対してどのようなアプローチの仕方が考えられるか、を考えてみる。

#### ◆準備学習の内容◆

課題として出された文学作品について、自分で読解し、解釈できるようにしておく。

時には課題となる文学作品をめぐる演習もあり得るので、歌い手と用意しておくことも必要になろう。

(1日2時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価し、成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度、講師から示される。共通の教科書などはない。

#### ◆参考図書◆

その都度、講師から示される。各言語の辞書は用意しておくように。

#### ◆留意事項◆

負担も大きいですが、将来必ず役に立つ学習内容であるから、確かな意識を持って取り組むように。

ナンバリング	MSL705U		
科目名	ピアノ教育研究 I		
科目詳細			
担当教員	堀江 志磨		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

これまでに自身が受けた教育・練習・演奏を検証し、これからの練習・演奏を自律して考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

ピアノ教育を考えるために、まず自分を知ることから始める。自分は、どのような教育をうけ、どのような練習をし、どのように演奏してきたのか、無意識、習慣で行っていることにどのような意味があったのかを、ディスカッションを通して確認する。映像を視聴し意見交換を行い、これからの練習・演奏の方向性について考える。

- 1)ガイダンス
- 2)自分を知る、これまでの自分について考える
- 3)音楽性とは何なのか？
- 4)音楽性とは何なのか？（記録映像を見る）
- 5)音楽性とは何なのか？（前回の映像を見て、意見交換・共有）
- 6)聴くということについて（経験から考える）
- 7)聴くということについて（さまざまな聴き方を考える）
- 8)テクニクについて
- 9)テクニクについて（レクチャー映像を見る）
- 10)テクニクについて（前回の映像を見て、意見交換・共有）
- 11)練習について（自分の練習方法とその目的・効果）
- 12)練習について（ICEモデルを使って考える）
- 13)演奏について
- 14)前期に考えたことを踏まえてレポート作成する
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

資料を読む、課題について考える、自分の意見をまとめる。  
課題準備のため週1～3時間程度の時間を必要とする。

#### ◆成績評価の方法◆

課題となったレポートや演奏に対して教員からフィードバックを授業内で行い、学生同士のディスカッションによってもお互いにフィードバックを行う。成績評価において授業内容への取り組み、課題の達成度、出席等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

#### ◆参考図書◆

『心で弾くピアノ』セイモア・バーンスタイン著（音楽之友社）  
『ピアノ奏法 音楽を表現する喜び』井上直幸（春秋社）  
『主体的学び』につなげる評価と学習方法 ～カナダで実践されるICEモデル～Sue Fostaty Young／Robert J.Willson（東信堂）  
その他、授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSL706U		
科目名	ピアノ教育研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	堀江 志磨		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

実際のピアノ教育について 現場では何か起きているのかを知り、自身の演奏・指導のヒントとすることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期を踏まえて、後期では、生徒に対する教師の働きかけを知り、枠組みを使用して新しい視点で公開レッスンの視聴をする。意見交換を通じて、教師の指導方法、指導心情などを考える。

- 1) ガイダンス
- 2) 指導と生徒の自律について考える
- 3) 実際のレッスンでは何が起きているのかを教師の立場で考える
- 4) 教師は生徒にどう働きかけるのか？(ブルーム改訂版を使って考える)
- 5) 教師は生徒にどう働きかけるのか？(ICEモデルを使って考える)
- 6) レッスンで実際に起こることはなにか？(公開レッスン映像視聴)
- 7) 公開レッスン映像を視聴して、意見交換・共有
- 8) レッスンで実際に起こることはなにか？(公開レッスン聴講)
- 9) 公開レッスンを聴いて、意見交換・共有
- 10) レッスンで実際に起こることはなにか？(公開レッスン聴講)
- 11) 公開レッスンを聴いて、意見交換・共有
- 12) 2回の公開レッスンの比較、意見交換・発展
- 13) DVD視聴を通し、音楽・演奏について考える
- 14) 1年の振り返り10min free talking
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

資料を読む、課題について考える、自分の意見をまとめる。  
課題準備のため週1～3時間程度の時間を必要とする。

#### ◆成績評価の方法◆

課題となったレポートや演奏に対して教員からフィードバックを授業内で行い、学生同士のディスカッションによってもお互いにフィードバックを行う。成績評価において授業内容への取り組み、課題の達成度、出席等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

#### ◆参考図書◆

『心で弾くピアノ』セイモア・バーンスタイン著(音楽之友社)  
『ピアノ奏法 音楽を表現する喜び』井上直幸(春秋社)  
その他、授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MSP705N		
科目名	器楽(弦管打)演習 I		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

演奏家、教育者になるための基礎的なノウハウを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 バロック以前～ロマン派/作品研究(伴奏なし)①ドイツ人作曲家
- 第3回 バロック以前～ロマン派/作品研究(ピアノ伴奏)①ドイツ人作曲家
- 第4回 バロック以前～ロマン派/作品研究(室内楽作品)①ドイツ人作曲家
- 第5回 バロック以前～ロマン派/作品研究(伴奏なし)②フランス人作曲家
- 第6回 バロック以前～ロマン派/作品研究(ピアノ伴奏)②フランス人作曲家
- 第7回 バロック以前～ロマン派/作品研究(室内楽作品)②フランス人作曲家
- 第8回 バロック以前～ロマン派/作品研究(伴奏なし)③イタリア人作曲家
- 第9回 バロック以前～ロマン派/作品研究(ピアノ伴奏)③イタリア人作曲家
- 第10回 バロック以前～ロマン派/作品研究(室内楽作品)③イタリア人作曲家
- 第11回 バロック以前～ロマン派/作品研究(伴奏なし)④諸国の作曲家
- 第12回 バロック以前～ロマン派/作品研究(ピアノ伴奏)④諸国の作曲家
- 第13回 バロック以前～ロマン派/作品研究(室内楽作品)④諸国の作曲家
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
課題については、授業内で毎回、フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP706N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

器楽(弦管打)演習Ⅰを踏まえ、演奏家、教育者になるための基礎的なノウハウを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)  
 第2回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)①ドイツ人作曲家  
 第3回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)①ドイツ人作曲家  
 第4回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)①ドイツ人作曲家  
 第5回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)②フランス人作曲家  
 第6回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)②フランス人作曲家  
 第7回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)②フランス人作曲家  
 第8回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)③イタリア人作曲家  
 第9回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)③イタリア人作曲家  
 第10回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)③イタリア人作曲家  
 第11回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)④諸国の作曲家  
 第12回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)④諸国の作曲家  
 第13回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)④諸国の作曲家  
 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)  
 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 課題については、授業内で毎回、フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進捗等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP707N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

演奏家、教育者になるためのノウハウを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 協奏曲作品研究①ドイツ人作曲家
- 第3回 協奏曲作品研究②フランス人作曲家
- 第4回 協奏曲作品研究③イタリア人作曲家
- 第5回 協奏曲作品研究④諸国の作曲家
- 第6回 中間発表に向けてのプログラム研究①無伴奏
- 第7回 中間発表に向けてのプログラム研究②ピアノ伴奏
- 第8回 中間発表に向けてのプログラム研究③室内楽作品
- 第9回 中間発表に向けてのプログラム研究④協奏曲作品
- 第10回 中間発表に向けて①(演奏表現の工夫:曲目別)
- 第11回 中間発表に向けて②(演奏表現の工夫:プログラム全体を通して)
- 第12回 中間発表の振り返り
- 第13回 研究報告と修了演奏プログラムの関連について
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
課題については、授業内で毎回、フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP708N		
科目名	器楽(弦管打)演習IV		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

演奏家、教育者になるためのノウハウを身に付ける。修了演奏でその成果を発揮する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 修了演奏会に向けてのプログラム研究①無伴奏
- 第3回 修了演奏会に向けてのプログラム研究②ピアノ伴奏
- 第4回 修了演奏会に向けてのプログラム研究③室内楽作品
- 第5回 修了演奏会に向けてのプログラム研究④協奏曲
- 第6回 修了演奏プログラム仮決定
- 第7回 修了演奏プログラムの検討①無伴奏
- 第8回 修了演奏プログラムの検討②ピアノ伴奏
- 第9回 修了演奏プログラムの検討③室内楽作品
- 第10回 修了演奏プログラムの検討④協奏曲
- 第11回 修了演奏プログラム最終決定
- 第12回 修了演奏に向けて①(演奏表現の工夫:曲目別)
- 第13回 修了演奏に向けて②(演奏表現の工夫:プログラム全体を通して)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示にしたがい、必要な予習、および復習をしてくること。(毎日1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 毎回の授業で出される課題の達成度を含め、総合的に判断する。  
 課題は常に授業内においてフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSS713U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

それぞれの楽器において、レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を目指す。演奏の前にその楽曲についての研究発表を口頭で行なう。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 作品A(バロック): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第3回 作品B(古典): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 作品C(ロマン派): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 作品D(近代): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 作品E(現代): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 ソロ演奏に関する振り返りと重奏・協奏曲の進め方等
- 第8回 二重奏とピアノによる演奏: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第9回 三重奏: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第10回 演奏会に向けて(1): 準備・方法
- 第11回 演奏会に向けて(2): 緊張と向き合う方法
- 第12回 クラス内発表会に向けて(プログラム構成と演奏曲決定)
- 第13回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫・前編)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫・後編)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安: 毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS714U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

それぞれの楽器において、レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を目指す。演奏の前にその楽曲についての研究発表を口頭で行なう。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(前期の振り返りと後期の授業の目的、進め方等)
- 第2回 アンサンブル(1)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第3回 アンサンブル(2)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 アンサンブル(3)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 アンサンブル(4)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 アンサンブル(5)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 重奏・協奏曲の振り返りと試験曲に関する留意点等
- 第8回 木管楽器:演奏とディスカッション(課題確認)
- 第9回 金管楽器:演奏とディスカッション(課題確認)
- 第10回 打楽器:演奏とディスカッション(課題確認)
- 第11回 弦楽器:演奏とディスカッション(課題確認)前編
- 第12回 弦楽器:演奏とディスカッション(課題確認)後編
- 第13回 試験に向けた試演会開催(1)
- 第14回 試験に向けた試演会開催(2)
- 第15回 1年間の授業の振り返り

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安:毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS715U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	漆原 啓子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

大学院生一人ひとりの修了試験プログラムを題材にし、ステージマナーも含め、演奏するということとはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を目指す。演奏の前にその楽曲についての研究発表を口頭で行なう。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 作品A(バロック):曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第3回 作品B(古典):曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 作品C(ロマン派):曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 作品D(近代):曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 作品E(現代):曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 ソロ演奏に関する振り返りと重奏・協奏曲の進め方等
- 第8回 二重奏とピアノによる演奏:曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第9回 三重奏:曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第10回 演奏会に向けて(1):準備・方法
- 第11回 演奏会に向けて(2):緊張と向き合う方法
- 第12回 クラス内発表会に向けて(プログラム構成と演奏曲決定)
- 第13回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫・前編)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫・後編)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安:毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS716U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	漆原 啓子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

大学院生一人ひとりの修了試験プログラムを題材にし、ステージマナーも含め、演奏するということとはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を目指す。演奏の前にその楽曲についての研究発表を口頭で行なう。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(前期の振り返りと後期の授業の目的、進め方等)
- 第2回 アンサンブル(1)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第3回 アンサンブル(2)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 アンサンブル(3)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 アンサンブル(4)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 アンサンブル(5)曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 重奏・協奏曲の振り返りと試験曲に関する留意点等
- 第8回 木管楽器:演奏とディスカッション(課題確認)
- 第9回 金管楽器:演奏とディスカッション(課題確認)
- 第10回 打楽器:演奏とディスカッション(課題確認)
- 第11回 弦楽器:演奏とディスカッション(課題確認)前編
- 第12回 弦楽器:演奏とディスカッション(課題確認)後編
- 第13回 試験に向けた試演会開催(1)
- 第14回 試験に向けた試演会開催(2)
- 第15回 1年間の授業の振り返り

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安:毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MCS734N		
科目名	作品創作演習 I		
科目詳細			
担当教員	(作品創作)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)中間発表作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲演習 I」では、中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作を準備する。  
 なお、編成についてはいずれも自由であるが、中間発表作品に関しては担当教員と相談し決定するものとする。  
 中間発表作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、とくに以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 自主的作品創作の完成
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。  
 準備学習の目安:週5時間程度

#### ◆成績評価の方法◆

作品創作の達成状況と授業への参加態度、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

中間発表作品は研究課題と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS735N		
科目名	作品創作演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(作品創作)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)中間発表作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅱ」では「作曲演習Ⅰ」の内容を踏まえて、中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作を完成させる。  
 なお、編成についてはいずれも自由であるが、中間発表作品および修了作品に関しては担当教員と相談し決定することとする。  
 「作曲演習Ⅰ」と同じに内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、とくに以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 中間発表作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 中間発表作品の完成・パート譜作成等
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。  
 準備学習の日安:週5時間程度

#### ◆成績評価の方法◆

中間発表の作品提出・演奏、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

中間発表作品は研究課題と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS736N		
科目名	作品創作演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(作品創作)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作品創作演習Ⅲ」は「作品創作演習Ⅱ」の内容を踏まえて、修了作品創作と自主的作品創作为準備する。なお、編成についてはいずれも自由であるが、修了作品に関しては担当教員と相談し決定することとする。修了作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 自主的作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 自主的作品創作の完成
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。  
 準備学習の目安:週5時間程度

#### ◆成績評価の方法◆

作品創作の達成状況と授業への参加態度、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS737N		
科目名	作品創作演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(作品創作)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作品創作演習Ⅳ」では「作品創作演習Ⅲ」の内容を踏まえて、修了作品創作と自主的作品創作を完成させる。なお、編成についてはいずれも自由であるが、修了作品に関しては担当教員と相談し決定することとする。修了作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の音楽作品の聴取
- 第3回 時代様式の考察
- 第4回 楽器・奏法・技法の検討
- 第5回 芸術文化への広汎な視点と創作との関係性
- 第6回 音楽語法の考察
- 第7回 自律的方法論の模索
- 第8回 創作のための楽曲研究
- 第9回 修了作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)
- 第10回 修了作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)
- 第11回 修了作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)
- 第12回 修了作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)
- 第13回 修了作品創作への作曲個人レッスン(応用)
- 第14回 修了作品の完成・パート譜作成等
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
 担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。  
 準備学習の目安:週5時間程度

#### ◆成績評価の方法◆

修了審査会における作品提出・演奏審査と、最終試験における譜面及び研究報告の審査(面接)。  
 その他、授業で随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS738N		
科目名	音楽理論演習 I		
科目詳細			
担当教員	(音楽理論)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮且つ独創性豊かな視点を持って、音楽理論に関する課題を自ら設定し研究を行うことができる。(2)和声的書法、対位法的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「音楽理論演習 I」では、主に2つの学修を平行して行う。

- ① 修士論文執筆に向けた準備段階として関心がある時代、作曲家、書法などについて調査、分析する。
- ② 創作和声、フーガを作曲し、音楽理論の書法について探求を行う。

授業内容

- 1) オリエンテーション
- 2) 時代様式の考察
- 3) 作曲家による様式の考察
- 4) 形式の考察
- 5) 楽器編成の考察
- 6) 和声的書法に関する考察
- 7) 創作和声の作曲①(ソプラノ課題1)
- 8) 創作和声の作曲②(ソプラノ課題2)
- 9) 創作和声の作曲③(バス課題1)
- 10) 創作和声の作曲④(バス課題2)
- 11) 対位法的書法に関する考察
- 12) フーガの作曲①(主題と提示部)
- 13) フーガの作曲②(嬉遊部)
- 14) フーガの作曲③(追迫部)
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、研究に対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

#### ◆成績評価の方法◆

作曲課題の達成状況と研究の進捗状況、授業への参加態度、また、それらのフィードバックに対する進歩の状況などを、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS739N		
科目名	音楽理論演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(音楽理論)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮且つ独創性豊かな視点を持って、音楽理論に関する課題を自ら設定し研究を行うことができる。(2) 研究内容に沿った中間発表作品を作曲し、発表することができる。(3)和声的書法、対位法的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「音楽理論演習Ⅱ」では「音楽理論演習Ⅰ」の内容を踏まえて、研究題目の決定にむけた絞り込みを行う。具体的には、任意の作曲家の楽曲を分析し、レポートを作成する。また、中間発表に向けた作品創作とフーガの作曲を中心に行う。

#### 授業内容

- 1) 第1セメスター振り返り
- 2) 楽曲分析①(分析のポイントと方法)
- 3) 楽曲分析②(分析の内容検討)
- 4) 楽曲分析③(分析の考察と結論)
- 5) 楽曲分析に基づくレポートの作成①(執筆と添削)
- 6) 楽曲分析に基づくレポートの作成②(仕上げと確認)
- 7) 研究の絞り込み
- 8) フーガ作曲①(主題と提示部)
- 9) フーガ作曲②(嬉遊部)
- 10) フーガ作曲③(追迫部)
- 11) 中間発表の作品創作①(全体のプラン)
- 12) 中間発表の作品創作②(作曲と添削)
- 13) 中間発表の作品創作③(仕上げと確認)
- 14) 和声課題の分析、創作和声の作曲等
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、レポートに対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

#### ◆成績評価の方法◆

中間発表に向けての作曲状況と、研究の進捗状況、フーガと創作和声の作曲進度、また、それらのフィードバックに対する進歩の状況などを、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

中間発表作品は論文で取り組む研究と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS740N		
科目名	音楽理論演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(音楽理論)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1) 新鮮且つ独創性豊かな視点を持って、音楽理論に関する課題を自ら設定し研究を行うことができる。(2) 和声的書法、対位的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「音楽理論演習Ⅲ」では、主に2つの学修を平行して行う。

- 1) 修士論文執筆に向け、研究を具体的に進める。
- 2) 創作和声、フーガなどを作曲し、音楽理論の書法について探求を行う。

#### 授業内容

- 1) オリエンテーション、「音楽理論演習Ⅱ」の振り返り
- 2) 研究①(研究題目に沿う研究方法)
- 3) 研究②(研究方法の具体的プラン)
- 4) 研究③(時代的考察)
- 5) 研究④(作曲家固有の様式・作曲法)
- 6) 研究⑤(楽曲分析・主要な楽曲について)
- 7) 研究⑥(楽曲分析・関連する楽曲について)
- 8) 研究⑦(特徴の抽出)
- 9) 研究⑧(特徴の分類)
- 10) フーガの作曲① 自作の主題によるフーガ前半部
- 11) フーガの作曲② 自作の主題によるフーガ後半部
- 12) 創作和声の作曲① バス課題(バロック時代様式による)
- 13) 創作和声の作曲② ソプラノ課題(古典派、ロマン派、近代から任意の様式を選択)
- 14) 創作和声の作曲③ 二重奏課題(ロマン派以降の様式による)
- 15) 前期の総括と後期に向けた展望

#### ◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、研究に対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

#### ◆成績評価の方法◆

作曲課題の達成状況と研究の進捗状況、授業への参加態度、また、それらのフィードバックに対する進歩の状況などを、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS741N		
科目名	音楽理論演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(音楽理論)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1) 新鮮且つ独創性豊かな視点を持って、音楽理論に関する課題を自ら設定し研究を行うことができる。(2) 修了試験に向け、研究内容に関連する作品を創作できる。(3) 和声的書法、対位的書法の技術を探求し、洗練された書法で和声課題、フーガ等の作品を創作することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「音楽理論演習Ⅳ」は修了試験に向け、これまでの研究を、修士論文、修了作品として完成させる。

##### 授業内容

- 1) 「音楽理論演習Ⅲ」の振り返り
- 2) 研究① 論文の執筆における検討(研究方法、時代様式、作曲法など)
- 3) 研究② 論文の執筆における検討(分析部分)
- 4) 研究③ 論文の執筆における検討(考察部分)
- 5) 研究④ 論文の執筆における検討(序章、最終章)
- 6) フーガの作曲(前半部)
- 7) フーガの作曲(後半部)
- 8) 創作和声の作曲(添削)
- 9) 創作和声の作曲(仕上げと確認)
- 10) 修了作品の作曲① 曲種、形式、編成
- 11) 修了作品の作曲② 作曲の方法
- 12) 修了作品の作曲③ 作曲と添削
- 13) 修了作品の作曲④ ③を踏まえた作曲の継続と添削
- 14) 修了作品の作曲⑤ 作品の完成と確認
- 15) まとめと修了試験の準備

#### ◆準備学習の内容◆

原則として、毎回学生が準備した分析、作曲、研究に対して、議論、添削、追加の課題提示などを行う。

#### ◆成績評価の方法◆

音楽理論演習Ⅰ～Ⅳの成果として、原則創作和声5曲以上、学習フーガ2曲以上の提出を義務とする。それらの達成状況と研究の進捗状況、授業への参加態度、また、それらのフィードバックに対する進歩の状況などを、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS705N		
科目名	ソルフェージュ演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。具体的には、(1) 教育的視点をもった研究、演奏、創作が行える。(2) 指導ポイントが明確なソルフェージュ課題作成ができ、課題の指導が行える。

#### ◆授業内容・計画◆

「ソルフェージュ演習 I」では、自己のソルフェージュ能力を高めるとともに、文献研究、授業見学、メソードの比較研究などを通して、ソルフェージュ指導者が知るべき基本事項について学修する。

- 1) ガイダンス
- 2) 先行研究・論文の学修①(論文題目と研究方法)
- 3) 先行研究・論文の学修②(研究内容の検討)
- 4) ソルフェージュに関する基本語彙
- 5) 授業見学に関するレポート①(ソルフェージュ課題を用いた授業)
- 6) 授業見学に関するレポート②(実作品を用いた授業)
- 7) メソード研究①(フォルマシオン・ミュージカル)
- 8) メソード研究②(ダルクローズ・リトミック)
- 9) メソード研究③(コダーイ・システム)
- 10) メソード研究④(日本のソルフェージュ教育の現状)
- 11) 課題作成①(指導のポイント)
- 12) 課題作成②(課題の作曲と指導法)
- 13) オーケストラ・スコアのリダクション①(リダクション楽譜の作成)
- 14) オーケストラ・スコアのリダクション②(リダクション楽譜の演奏)
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回学生と相談のうえ設定した課題について、学生自身が調査、練習、作成した内容について、議論、添削、指導、追加課題の提示などを行う。

#### ◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況、フィードバックに対する進歩の状況などを、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

『ソルフェージュ』視唱・読譜・リズム・聴音 全4冊 国立音楽大学編(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS706N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。具体的には、(1) 教育的視点をもった研究、演奏、創作が行える。(2) 指導ポイントが明確なソルフェージュ課題作成ができ、中間発表において発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「ソルフェージュ演習Ⅱ」では、「ソルフェージュ演習Ⅰ」の成果を踏まえ、引き続き自己のソルフェージュ能力を高めるとともに、論文執筆に向けた研究の絞り込みを行い、課題作成、指導について学修する。

- 1) 「ソルフェージュ演習Ⅰ」の振り返り
- 2) 聴覚に関する研究
- 3) 聴音課題の教材研究と教材作成
- 4) 演奏に関する研究
- 5) リズム課題の教材研究と教材作成
- 6) 読譜課題の教材研究と教材作成
- 7) 視唱課題の教材研究と教材作成
- 8) 総合課題の教材研究と教材作成
- 9) 任意の教材研究と教材作成
- 10) 教材の実践とフィードバック
- 11) オーケストラ・スコアのリダクション①(リダクション譜の作成方法)
- 12) オーケストラ・スコアのリダクション②(リダクション譜の作成と添削)
- 13) オーケストラ・スコアのリダクション③(リダクション譜の完成と確認)
- 14) オーケストラ・スコアのリダクション④(演奏レッスン)
- 15) 中間発表への最終確認

#### ◆準備学習の内容◆

毎回学生と相談のうえ設定した課題について、学生自身が調査、練習、作成した内容について、議論、添削、指導、追加課題の提示などを行う。学生は、常に指導する立場からのアプローチについて考え、説明できるよう準備する。

#### ◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況、フィードバックに対する進歩の状況、中間発表に向けた進捗状況を、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

『ソルフェージュ』視唱・読譜・リズム・聴音 全4冊 国立音楽大学編(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS707N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身につける。具体的には、(1)教育的視点をもった研究、演奏、創作が行える。(2)指導ポイントが明確なソルフェージュ課題作成ができ、課題の指導が行える。

#### ◆授業内容・計画◆

「ソルフェージュ演習Ⅲ」では、自己のソルフェージュ能力を高めるとともに、研究を具体的に進め、研究内容を応用した課題作成、指導法について探究する。

- 1) オリエンテーション
- 2) 研究① 題目と具体的な研究方法
- 3) 研究② 参考文献、参考課題の研究
- 4) 研究③ 研究の主部(分析)
- 5) 研究④ 研究の主部(考察)
- 7) ソルフェージュ課題の研究(さまざまなソルフェージュ課題の実施)
- 8) ソルフェージュ課題の研究(課題のポイント)
- 9) ソルフェージュ課題の作成(ポイントを明確にした課題の作成)
- 10) ソルフェージュ課題の作成(添削と指導法)
- 11) ソルフェージュ課題の実施
- 12) オーケストラ・スコアのリダクション①(リダクション譜の作成)
- 13) オーケストラ・スコアのリダクション②(添削と演奏のポイント)
- 14) オーケストラ・スコアのリダクション③(演奏レッスン)
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回学生と相談のうえ設定した課題について、学生自身が調査、練習、作成した内容について、議論、添削、指導、追加課題の提示などを行う。

#### ◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況、フィードバックに対する進歩の状況などを、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

『ソルフェージュ』視唱・読譜・リズム・聴音 全4冊 国立音楽大学編(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS708N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身につける。具体的には(1)教育的視点をもった研究、演奏、創作が行える。(2)指導ポイントが明確なソルフェージュ課題作成ができ、修了作品を発表できる。

#### ◆授業内容・計画◆

「ソルフェージュ演習Ⅳ」では、引き続き自己のソルフェージュ能力を高めるとともに、修了試験に向けて、研究題目をより深く探究して論文執筆を進めるとともに、修了作品(課題集)を作曲し、演奏の集大成であるスコア・リーディングの発表に向けて準備を行う。

- 1) 「ソルフェージュ演習Ⅲ」の振り返り
- 2) 修了発表に向けたオーケストラ作品のリダクション①(リダクション譜の作成)
- 3) 修了発表に向けたオーケストラ作品のリダクション②(添削と演奏のポイント)
- 4) 修了発表に向けたオーケストラ作品のリダクション③(完成と確認)
- 5) 修了発表に向けたオーケストラ作品のリダクション④(演奏レッスン)
- 6) 研究①(前期の研究部分の検討)
- 7) 研究②(指導法の検討)
- 8) 研究③(指導法に基づく課題の作成)
- 9) 研究④(課題のブラッシュアップ)
- 10) 修了発表に向けた課題集のための追加課題の作曲
- 11) 修了発表に向けた課題集のための追加課題の添削
- 12) 修了発表に向けた課題集の完成と確認
- 13) 論文の内容の確認
- 14) 自作課題とオーケストラ作品の演奏レッスン
- 15) まとめと修了試験の準備

#### ◆準備学習の内容◆

毎回学生と相談のうえ設定した課題について、学生自身が調査、練習、作成した内容について、議論、添削、指導、追加課題の提示などを行う。学生は、常に指導する立場からのアプローチについて考え、説明できるように準備する。

#### ◆成績評価の方法◆

修士論文と関連するソルフェージュ実技や課題作曲に対する取り組み、達成状況、フィードバックに対する進歩の状況、修了試験に向けた準備の進捗状況を総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

『ソルフェージュ』視唱・読譜・リズム・聴音 全4冊 国立音楽大学編(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS742N		
科目名	コンピュータ音楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作や研究を完遂できる。

#### ◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1 直接
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2 間接
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3 周辺
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作レッスン1 原理
- 7) 習作レッスン2 展開
- 8) 習作レッスン3 統合
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作レッスン1 原理
- 11) 作品創作レッスン2 批評
- 12) 作品創作レッスン3 展開
- 13) 作品創作レッスン4 議論
- 14) 作品創作レッスン5 統合
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)  
 聴取の詩学 枠と出来事(庄野進 著/春秋社)  
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)  
 計算できるもの、計算できないもの(John MacCormick 著/オライリージャパン)  
 ゲーデル、エッシャー、バウハ(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)  
 ヒトの耳 機械の耳(リチャード・F・ライオン/東京電機大学出版局)  
 16・17世紀の数学的音楽理論(大愛崇晴 著/晃洋書房)  
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)  
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)  
 息吹(テッド・チャン 著/早川書房)  
 Inside Computer Music(Michael Clarke 著/Oxford University Pr)  
 Composing Electronic Music(Curtis Roads 著/Oxford University Pr)  
 Electronic and Computer Music(Peter Manning 著/Oxford University Pr)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS743N		
科目名	コンピュータ音楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作や研究を完遂できる。

#### ◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1 直接
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2 間接
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3 周辺
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作レッスン1 原理
- 7) 習作レッスン2 展開
- 8) 習作レッスン3 統合
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作レッスン1 原理
- 11) 作品創作レッスン2 批評
- 12) 作品創作レッスン3 展開
- 13) 作品創作レッスン4 議論
- 14) 作品創作レッスン5 統合
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)  
 聴取の詩学 枠と出来事(庄野進 著/春秋社)  
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)  
 計算できるもの、計算できないもの(John MacCormick 著/オライリージャパン)  
 ゲーデル、エッシャー、バウハ(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)  
 ヒトの耳 機械の耳(リチャード・F・ライオン/東京電機大学出版局)  
 16・17世紀の数学的音楽理論(大愛崇晴 著/晃洋書房)  
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)  
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)  
 息吹(テッド・チャン 著/早川書房)  
 Inside Computer Music(Michael Clarke 著/Oxford University Pr)  
 Composing Electronic Music(Curtis Roads 著/Oxford University Pr)  
 Electronic and Computer Music(Peter Manning 著/Oxford University Pr)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS744N		
科目名	コンピュータ音楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作や研究を完遂できる。

#### ◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1 直接
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2 間接
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3 周辺
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作レッスン1 原理
- 7) 習作レッスン2 展開
- 8) 習作レッスン3 統合
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作レッスン1 原理
- 11) 作品創作レッスン2 批評
- 12) 作品創作レッスン3 展開
- 13) 作品創作レッスン4 議論
- 14) 作品創作レッスン5 統合
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)  
 聴取の詩学 枠と出来事(庄野進 著/春秋社)  
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)  
 計算できるもの、計算できないもの(John MacCormick 著/オライリージャパン)  
 ゲーデル、エッシャー、バウハ(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)  
 ヒトの耳 機械の耳(リチャード・F・ライオン/東京電機大学出版局)  
 16・17世紀の数学的音楽理論(大愛崇晴 著/晃洋書房)  
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)  
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)  
 息吹(テッド・チャン 著/早川書房)  
 Inside Computer Music(Michael Clarke 著/Oxford University Pr)  
 Composing Electronic Music(Curtis Roads 著/Oxford University Pr)  
 Electronic and Computer Music(Peter Manning 著/Oxford University Pr)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS745N		
科目名	コンピュータ音楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作や研究を完遂できる。

#### ◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1 直接
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2 間接
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3 周辺
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作レッスン1 原理
- 7) 習作レッスン2 展開
- 8) 習作レッスン3 統合
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作レッスン1 原理
- 11) 作品創作レッスン2 批評
- 12) 作品創作レッスン3 展開
- 13) 作品創作レッスン4 議論
- 14) 作品創作レッスン5 統合
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音と文明(大橋力 著/岩波書店)  
 聴取の詩学 枠と出来事(庄野進 著/春秋社)  
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)  
 計算できるもの、計算できないもの(John MacCormick 著/オライリージャパン)  
 ゲーデル、エッシャー、バウハ(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)  
 ヒトの耳 機械の耳(リチャード・F・ライオン/東京電機大学出版局)  
 16・17世紀の数学的音楽理論(大愛崇晴 著/晃洋書房)  
 数量化革命(アルフレッド・W. クロスビー 著/紀伊国屋書店)  
 声の文化と文字の文化(ウォルター・J. オング 著/藤原書店)  
 息吹(テッド・チャン 著/早川書房)  
 Inside Computer Music(Michael Clarke 著/Oxford University Pr)  
 Composing Electronic Music(Curtis Roads 著/Oxford University Pr)  
 Electronic and Computer Music(Peter Manning 著/Oxford University Pr)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS709N		
科目名	作曲法研究 I		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

現代の音楽は、古典派などの音楽と違い様々なスタイルの音楽が共存している。例えば、H.ラッペンマンとA.ペルトには何の共通項も見出せないにも関わらず、ほぼ同じ年代の作曲家である。このことから判るように、大切なことは自身の美学を見出すことである。この授業では決して切り離すことができない過去の音楽(主に19世紀末から20世紀の音楽)を今一度検証し、「なぜそのような語法に至ったのか」を考察することで、自らの美学的な立脚点を明確にして、さらにそれを深める機会にしたい。

#### ◆授業内容・計画◆

授業では、David Cope著「現代音楽キーワード事典」を元にして、それぞれの語法を今一度確認し、またときには曲についての分析も行なう。ただ知識を得るだけではなく、なぜ?どうして?といった視点を持って個々の事象を掘り下げてほしいし、またディスカッションの場も多く持ちたい。映像やCDを数多く視聴する。

- (1) ガイダンス/授業の説明と自己紹介
- (2) 起源～調性の概観 拡張される和声 その1 前半
- (3) 起源～調性の概観 拡張される和声 その2 後半
- (4) 無調性と音列主義 その1 前半
- (5) 無調性と音列主義 その2 後半
- (6) 学生の発表 その1
- (7) 学生の発表 その2
- (8) 日本の作曲家の系譜 その1 前半
- (9) 日本の作曲家の系譜 その2 後半
- (10) 作曲家、木下正道氏を迎えて
- (11) テクスチャリズム～クラスター技法 その1 前半
- (12) テクスチャリズム～クラスター技法 その2 後半
- (13) 不確定性 ～J.ケージのインタビューをめぐって～
- (14) 様々なスタイルの共存
- (15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う作曲家について、楽譜を見ながら多くの曲を聴いておくこと。そして表面的な知識だけではなく、なぜそうなのかということも同時に考えること。  
 授業では、各自の考えを述べてもらい、そこから議論をしていきます。また、授業内に全て聴くことができなかった曲については、必ず全て聴いておくこと。  
 授業をきっかけに、更に興味の対象(音楽だけに限りません)を広げ、深めていくことが望ましい。

目安時間:1時間

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発言、レポートなど総合的に判断する。  
 授業中に課題について常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「現代音楽キーワード事典」デイヴィッド・コープ著(春秋社)

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

プリントをこちらで用意します。

ナンバリング	MCS710N		
科目名	作曲法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

現代の音楽は、古典派などの音楽と違い様々なスタイルの音楽が共存している。例えば、H.ラッペンマンとA.ペルトには何の共通項も見出せないにも関わらず、ほぼ同じ年代の作曲家である。このことから判るように、大切なことは自身の美学を見出すことである。この授業では決して切り離すことができない過去の音楽(主に19世紀末から20世紀の音楽)を今一度検証し、「なぜそのような語法に至ったのか」を考察することで、自らの美学的な立脚点を明確にして、さらにそれを深める機会にしたい。

#### ◆授業内容・計画◆

後期の授業では音楽と時間の関係や、そもそも音楽とは何か?と言ったような根源的な問題が提起されているテキストを読み、それを元にディスカッションする。積極的な発言が求められる。映像やCDも数多く視聴する。

- (1) 音楽と時間についての考察 その1 ~ 18世紀音楽を中心に
- (2) 音楽と時間についての考察 その2 ~ 日本の時間という概念、日本的とは?
- (3) 音楽と時間についての考察 その3 ~ アメリカ実験主義音楽を中心に
- (4) 音楽と時間についての考察 その4 ~ L.ノーノとS.シャリーノ
- (5) 学生による分析発表 その1
- (6) 学生による分析発表 その2
- (7) 音楽とは何か その1 ~ 素材の拡張、電子音楽、ノイズ
- (8) 音楽とは何か その2 ~ J.マセダ、高橋悠治の試み
- (9) 聴取の詩学 その1 ~ J.ケージの初期音楽
- (10) 聴取の詩学 その2 ~ J.ケージの中期、後期における試み
- (11) 聴取の詩学 その3 ~ ミニマル・ミュージック
- (12) 聴取の詩学 その4 ~ M.フェルドマンの音楽
- (13) 作曲家 鈴木純明氏を迎えて
- (14) 自作品、或いは研究テーマのプレゼンテーション その1
- (15) 自作品、或いは研究テーマのプレゼンテーション その2、まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う作曲家について、楽譜を見ながら多くの曲を聴いておくこと。そして表面的な知識だけではなく、なぜそうなのかということも同時に考えること。

授業では、各自の考えを述べてもらい、そこから議論をしていきます。また、授業内に全て聴くことができなかった曲については、必ず全て聴いておくこと。

授業をきっかけに、更に興味の対象(音楽だけに限りません)を広げ、深めていくことが望ましい。

目安時間:1時間

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発言、レポートなど総合的に判断する。

授業中に課題について常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「音楽的時間の変容」椎名亮輔著(現代思潮新社)、「音を投げる」近藤譲著(春秋社)、「聴取の詩学」J.ケージからそしてJ.ケージへ 庄野進著(勁草書房)他。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

既に絶版になっているものもあるので、こちらで用意します。

ナンバリング	MCS711N		
科目名	作曲法研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	神本 真理		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

20世紀中頃以降の音楽作品を中心とした分析と研究を行う。テキストとして扱う音楽作品そのものだけでなく、時代背景や、同時代を生きた異分野のアーティストなどの周辺知識も交えながら、単なる音楽的な分析のみならず、その作品から読み取れる精神的な側面など、より深い視点で、それぞれの作品の音楽語法を見つめていくことを通して、自身の創作や研究に新たな視座を見出すことを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンスと小テスト(20世紀初頭～中期、現代に至る名作の基礎知識の確認)
2. 新ウィーン楽派 vol.1 調性の定義と新たな漂流
3. 新ウィーン楽派 vol.2 12音技法を用いた様々な音楽語法
4. メシアン(“Et Exspecto Resurrectionem Mortuorum”)
5. ブーレーズ(“Le Marteau sans maître”)
6. 学生による発表(自作品、または研究テーマについて) vol.1
7. 学生による発表(自作品、または研究テーマについて) vol.2
8. ヴァレーズの音楽における音響への新しい概念について(“Déserts”)
9. クセナキスの音楽における音の質感と推計楽との関わり(“Phlegra” / “Hibiki Hana Ma”)
10. リゲティの音響空間／拍節感の歪み等について(“Konzert für Violine und Orchester”, “Atmosphères”)
11. リゲティの室内楽作品(“Three pieces for Cembalo”, “String Quartets”)
12. ベリオの音楽語法 vol.1ソロ作品とオーケストラ作品との関連を交えて(“Sequenza VII”⇔“Chemeins IV” / “Sequenza VI”⇔“Chemeins II”)
13. ベリオの音楽語法vol.2 コラージュの概念(“Sinfonia”より第3楽章《O King》など)
14. アベルギスの音楽における声の可能性について(“Récitations”)
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

テキストとして取り扱う作品については、予め伝達をしますので、各自、自主的にスコアと音源に触れ、音楽の全体像を把握しておくこと。また、さらに余裕がある場合は、同じ作曲家の他の作品にも触れるように努め、より幅広く、音楽への知見と思索に繋げられたい。(目安:1週間につき1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

- 1.試験(授業内での分析発表内容)
  - 2.授業への積極的な姿勢(受講生同士を含めたディスカッションなど)も参考とする。
- その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『現代音楽を読み解く88のキーワード』ジャン＝イヴ・ボスール著、栗原 詩子 訳(音楽之友社)  
 その他、授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

特に無し。

#### ◆留意事項◆

毎回の授業で配布するプリントをファイリングして、分析発表のモデルとして保管しておくこと。

ナンバリング	MCS712N		
科目名	作曲法研究IV		
科目詳細			
担当教員	神本 真理		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

20世紀中頃からの世界的な文化背景を踏まえ、21世紀を生きる私たちの同時代の音楽に至るまで、社会情勢や時代との関わりの中で生まれてきた重要な作品を中心に取り上げる。テキストとして取りあげる作品の楽器編成は、器楽、声楽のみならず、エレクトロニクスを用いた作品をも含む。多くの情報に溢れた現代社会の中での、音楽の在り方そのものの可能性について幅広い視点で思索を深めていく中で、自身の創作や研究をより高質なものと繋げられたい。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 新しい複雑性 (Ferneyhough, “String Quartet No.3”)
2. 20世紀初頭の音楽から、現代への語法の扉 (Sibelius, “Tapiola”から見られるスペクトル楽派への変遷)
3. スペクトル楽派の作曲家たちの室内楽作品における時間と音色の概念について vol.1 (Murail, “Treize couleurs du soleil couchant” / “Attracteurs étranges”)
4. スペクトル楽派の作曲家たちの室内楽作品における時間と音色の概念について vol.2 (Grisey, “Vortex temporum” / “Stèle”)
5. 音色の異化 vol.1 ベッソンの室内楽作品 (“Cinq chansons” / “Mes béatitudes”)
6. 音色の異化 vol.2 ラッヘンマンの室内楽作品 (“Salut für Caudwell”)
7. 音色の異化 vol.3 シャリーノの静謐な音空間について (“Introduzione all’ oscuro”)
8. 電子音響を伴うミクスト作品 vol.1 サーリアホ (“Noa Noa” / “Maa…”)
9. 電子音響を伴うミクスト作品 vol.2 ハーヴェイ (“Advaya”)
10. 現代のヨーロッパで活躍する作曲家たち (エクトール・パラ、ディアナ・ロタルなど)
11. 日本の作曲家 vol.1 湯浅譲二 (《プロジェクション》シリーズの作品/電子音響の作品)
12. 日本の作曲家 vol.2 望月 京 (“La chambre claire” / “All that is including me”)
13. 学生による分析発表 vol.1
14. 学生による分析発表 vol.2
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

IVでの分析発表については、IIIでの分析発表より、さらに深く精緻なアナリゼを行い、発表を行うことを最終試験の評価とする。よって、時間をかけて少しずつ準備を進めておくこと。

作品の選択や分析内容については、随時質問を受け付けることとする。(目安:1週間につき1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

1. 試験(授業内での分析発表内容)
  2. 授業への積極的な姿勢(ディスカッションなど)も参考とする。
- その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『現代音楽を読み解く88のキーワード』ジャン＝イヴ・ボスール著、栗原 詩子 訳(音楽之友社)  
その他、授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

特に無し。

#### ◆留意事項◆

毎回の授業で配布するプリントをファイリングして、分析発表のモデルとして保管しておくこと。

ナンバリング	MCS713N		
科目名	コンピュータ音楽研究 I		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コンピュータプログラミングの基礎を習得しつつ、IoTや機械学習などの応用技術を用いて作品創作を実践する。特に、各学生が個人プロジェクトを通じて技術統合の力を養い、ものづくりに対する独自のアプローチを深めることを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業内容確認、研究計画立案、プロジェクトテーマの選定)
- 第2回 コンピュータの基礎と構造: 歴史と現在、基礎操作の確認
- 第3回 プログラミングの基礎1: 変数、データ型、演算式、条件分岐とループ
- 第4回 プログラミングの基礎2: 関数、文字列、配列、ファイル操作
- 第5回 IoT基礎: センサーとマイコン(Raspberry Pi, Arduino)を用いたデータ取得と制御
- 第6回 IoT応用: クラウド連携やリアルタイムデータ処理の実践
- 第7回 機械学習1: 基本的なアルゴリズム(分類・回帰)の理論と簡単な実装
- 第8回 機械学習2: 音響・画像データを用いた応用例(生成モデルや特徴抽出)
- 第9回 ものづくり実践1: IoTや機械学習を活用したプロトタイプ的设计
- 第10回 ものづくり実践2: センサーやアクチュエータを統合したシステム構築
- 第11回 作品創作計画: 技術統合のためのプロジェクト具体化とスケジュール設定
- 第12回 作品創作実践1: プロトタイプ制作とフィードバック
- 第13回 作品創作実践2: 技術統合と完成作品の仕上げ
- 第14回 作品創作実践3: 発表準備(プレゼンテーション資料やデモ動画の作成)
- 第15回 作品発表と総括: 個人プロジェクトの成果発表、質疑応答、授業のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野のリサーチを怠らないこと。目安週2時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終課題制作で評価する。フィードバックは授業内で随時、および課題提出後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

- 「コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート」Curtis Roads 著(東京電機大学出版局)
- 「Electronic Music and Sound Design Vol. 1&2」Alessandro Cipriano, Maurizio Giri 著(Contemponet)
- 「Generative Design」Hartmut Bohnackerほか 著(ビー・エヌ・エヌ新社)
- 「ゼロから作るDeep Learning」(斎藤 康毅)
- 「Designing Sound」Andy Farnell 著(The MIT Press)
- 「Computer Models of Musical Creativity」David Cope 著(The MIT Press)
- 「創るためのAI 機械と創造性のはてしない物語」(徳井直生)
- 「音楽・数学・言語 情報科学が拓く音楽の地平」(東条 敏, 平田 圭二 著(近代科学社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS714N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

作品創作や演奏、インスタレーション制作、教育などのためのシステムを開発し、自作品へ応用する。

#### ◆授業内容・計画◆

各学生が個人プロジェクトを企画し、実現に向けての基礎研究と開発、試行を行う。開発環境や使用メディアは問わない。自作品創作への応用を目指し、ものづくりへの知見を深める。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 第1回 オリエンテーション(後期の流れと目標確認、プロジェクトテーマの再確認・調整)
- 第2回 高度なプログラミング1:オブジェクト指向とデザインパターン(応用プログラミング手法)
- 第3回 高度なプログラミング2:データ構造とアルゴリズムの応用(効率的なプログラム設計)
- 第4回 IoT応用発展1:複数センサーやアクチュエータの統合制御
- 第5回 IoT応用発展2:リアルタイムモニタリングとクラウドシステムの連携
- 第6回 機械学習応用1:深層学習の基礎とモデル訓練(音声・画像データ)
- 第7回 機械学習応用2:生成モデルとクリエイティブ応用(GANやVAEを活用)
- 第8回 技術統合ワークショップ1:IoTデバイスと機械学習の連携プロトタイプ制作
- 第9回 技術統合ワークショップ2:データビジュアライゼーションとUI設計
- 第10回 作品制作1:プロジェクト進捗共有とフィードバック(中間発表)
- 第11回 作品制作2:実装の深化と問題解決(グループディスカッションを含む)
- 第12回 作品制作3:最終プロトタイプの完成と調整
- 第13回 発表準備1:プレゼンテーション資料の作成、デモの準備
- 第14回 発表準備2:リハーサルとフィードバック
- 第15回 最終発表と総括:個人プロジェクトの成果発表、授業全体のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野のリサーチを怠らないこと。目安週2時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終課題制作で評価する。フィードバックは授業内で随時、および課題提出後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

- 「コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート」Curtis Roads 著(東京電機大学出版局)
- 「Electronic Music and Sound Design Vol. 1&2」Alessandro Cipriano, Maurizio Giri 著(Contemponet)
- 「Generative Design」Hartmut Bohnackerほか 著(ビー・エヌ・エヌ新社)
- 「ゼロから作るDeep Learning」(斎藤 康毅)
- 「Designing Sound」Andy Farnell 著(The MIT Press)
- 「Computer Models of Musical Creativity」David Cope 著(The MIT Press)
- 「創るためのAI 機械と創造性のはてしない物語」(徳井直生)
- 「音楽・数学・言語 情報科学が拓く音楽の地平」(東条 敏, 平田 圭二 著(近代科学社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS715N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

コンピュータ音楽を中心に、現代のテクノロジーが音楽や芸術、美学に与える影響を多角的に探る。音楽認知やメディア論、AI、アルゴリズム作曲、センシング技術など、関連する領域を横断的に学び、新たな表現の可能性を探求する。また、研究調査を通じて、音楽の枠を超えたイノベーションの実現方法を実践的に学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション: 授業目標の説明、各学生の研究テーマの共有
- 第2回 リサーチデザイン1: 音楽認知心理学と聴覚美学(音響と脳科学の関連性)
- 第3回 リサーチデザイン2: メディアアートと美学(レフ・マノビッチ、マクルーハンなど)
- 第4回 リサーチデザイン3: AIとアルゴリズム作曲(技術的背景と芸術的応用)
- 第5回 リサーチデザイン4: センシング技術と身体性(生体信号と音楽の関係)
- 第6回 リサーチ発表1: テーマに基づく調査結果の発表(理論・基礎研究)
- 第7回 リサーチ発表2: テーマに基づく調査結果の発表(パフォーマンス研究)
- 第8回 ディスカッション: 研究方法や表現技術に関する議論
- 第9回 調査・研究発表1: 音響表現におけるコンピュータ音楽の役割
- 第10回 調査・研究発表2: AI生成音楽と創作プロセスの変容
- 第11回 ディスカッション: 音楽とテクノロジーの新しい美学
- 第12回 調査・研究発表3: センシング技術の応用例(身体表現)
- 第13回 調査・研究発表4: インタラクティブパフォーマンスの研究と応用
- 第14回 ディスカッション: 個々のテーマを横断的に結びつけた考察
- 第15回 まとめと発表: 最終成果のプレゼンテーションとディスカッション

#### ◆準備学習の内容◆

自ら選んだテーマにそって調査、研究し発表に向けて準備する。目安週2時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況(調査と発表)  
授業中、随時フィードバックを行う

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要な本、資料などは授業開始時に指示する。

#### ◆参考図書◆

リサーチデザイン、新・100の法則(BNN新社)、  
音楽の起源(上)、  
Nils Wollinほか(人間と社会社)、  
音楽のカルチュラルスタディーズ(アルテスパブリッシング)  
メディアテクノロジーシリーズ(コロナ社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS716N		
科目名	コンピュータ音楽研究IV		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

前期の研究成果を基に、学生が主体となり、独自のテーマに基づく研究や実践を進める。音楽、AI、センシング、メディアアートの領域を統合し、作品制作や研究発表を通じて、現代の表現技術を深化させる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション:前期の成果確認、後期の進め方と目標設定
- 第2回 研究発表に向けて1:テーマの深掘りと基礎研究の進展
- 第3回 研究発表に向けて2:メディアアートと音楽の新しい形態
- 第4回 研究発表に向けて3:AI生成とアルゴリズム音楽の応用例
- 第5回 ディスカッション:個々のテーマを他者と共有
- 第6回 ワークショップ1:センシング技術とパフォーマンス
- 第7回 ワークショップ2:AI生成音楽のリアルタイム操作
- 第8回 研究発表に向けて4:コンピュータ音楽の文化的影響と社会的背景
- 第9回 ディスカッション:テーマ横断的な議論
- 第10回 プロジェクト制作1:テーマに基づくプロトタイプの開発
- 第11回 プロジェクト制作2:中間発表とフィードバック
- 第12回 プロジェクト制作3:最終調整と完成
- 第13回 プレゼン準備1:作品の表現手法と展示形式の検討
- 第14回 プレゼン準備2:リハーサルとフィードバック
- 第15回 最終発表:完成作品の展示とディスカッション

#### ◆準備学習の内容◆

自ら選んだテーマにそって調査、研究し発表に向けて準備する。目安週2時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況(調査と発表)  
授業中、随時フィードバックを行う

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要な本,資料などは授業開始時に指示する。

#### ◆参考図書◆

リサーチデザイン、新・100の法則(BNN新社)、音楽の起源(上)、Nils Wollinほか(人間と社会社)、音楽のカルチュラルスタディーズ(アルテスパブリッシング)

#### ◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ音楽研究IIIも合わせて履修のこと

ナンバリング	MCS717N		
科目名	ソルフェージュ研究 I		
科目詳細			
担当教員	近藤 岳		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

学部で学んできたソルフェージュの再検証並びに再構築を行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1、既習の内容の再確認
- 2、各学生のソルフェージュ四分野における能力の検証
- 3、第二回授業で明らかになった部分の討議
- 4、各学生の特性に応じた補完的課題の研究1
- 5、各学生の特性に応じた補完的課題の研究2
- 6、上記課題の実施による効果測定の方法の討議
- 7、上記課題による効果測定1
- 8、課題への取り組みを通して自身の問題点の再検討
- 9、新たに明らかとなった課題の認識
- 10、上記課題への問題意識の形成
- 11、問題意識の形成に基づいた対処方法の研究1
- 12、問題意識の形成に基づいた対処方法の研究2
- 13、各専攻に応じ、問題を改善するための練習方法の研究1
- 14、上記練習方法を用いた実作品の演奏
- 15、実作品演奏についての評価

#### ◆準備学習の内容◆

過去のソルフェージュ学習についての自己評価をしておくこと(目安:60分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加度を持って成績評価の基礎とする。授業内課題へは適宜フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

高度なソルフェージュ力と現代音楽作品の演奏については密接な関係があるので、興味の有無に関わらず、学習の一部として積極的に演奏、聴取に関わること

ナンバリング	MCS718N		
科目名	ソルフェージュ研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	近藤 岳		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

前期での学習内容を敷衍して実作品の演奏につなげる

#### ◆授業内容・計画◆

- 1、ベルク、シェーンベルク、ウェーベルンの作品の鑑賞
- 2、上記作曲家の作品の中から、専攻に応じて学習作品の選定
- 3、選定作品の準備1
- 4、選定作品の準備2
- 5、上記作品の演奏、並びに他の履修学生からの評価、討論
- 6、メシアンと同時、または以降のフランスの作品の鑑賞
- 7、上記作品の中から、専攻に応じて学習作品の選定
- 8、選定作品の準備1
- 9、選定作品の準備2
- 10、上記作品の演奏、並びに他の履修学生からの評価、討論
- 11、既習二作品とソルフェージュ力との関連性を考える。
- 12、履修学生の任意による1945年以降に作曲された作品の準備
- 13、上記作品について演奏
- 14、当該作品の演奏についての履修生による評価、討論
- 15、まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

前期とも関連するが嗜好性の如何にかかわらず、自分の音楽的能力向上のために現代作品の鑑賞、演奏に努めること。(目安:60分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加度を持って成績評価の根拠とする。授業内の課題についてのフィードバックも含める。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

学内外を問わず現代音楽の演奏会には積極的に参加することが望ましい。

ナンバリング	MCL701U		
科目名	作曲家作品研究 I		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1.4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。(2) 修士論文、研究報告執筆への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

#### ◆授業内容・計画◆

本授業は、修士課程2年次での修士論文または研究報告の制作・執筆を念頭に置き、その前段階として、研究レポートを作成した上でプレゼンテーションを行い、さらにその内容についての意見交換を通して、研究内容を深めていくことを目的とする。

担当教員による冒頭数回のレクチャーを経て、以降個々の履修生による研究発表を中心に進める。

研究発表は、各履修生が設定した研究テーマをもとに、そのテーマに関係する作曲家の作品を分析し、研究レポートにまとめ、それをレジュメとしてプレゼンテーションを行う(各履修生1回ずつ)。

また、毎回発表の内容について履修者全員で討議・討論をする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レクチャー(1) 授業内研究発表のテーマの設定について
- 第3回 レクチャー(2) 研究テーマに類する参考文献の収集について
- 第4回 レクチャー(3) 授業内研究発表のレジュメの作成およびプレゼンテーションについて
- 第5回 <履修生1>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第6回 <履修生2>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第7回 <履修生3>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第8回 <履修生4>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第9回 <履修生1~4>への質問内容についてのフィードバック
- 第10回 <履修生5>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第11回 <履修生6>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第12回 <履修生7>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第13回 <履修生8>のプレゼンテーションと全体での質疑応答
- 第14回 <履修生5~8>への質問内容についてのフィードバック
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。

プレゼンテーションの準備として、配付資料(レジュメ、譜例等)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

準備学習の目安: 週3時間程度

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL702U		
科目名	作曲家作品研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。(2)修士論文、研究報告執筆への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

#### ◆授業内容・計画◆

本授業は、修士課程2年次での修士論文または研究報告の制作・執筆を念頭に置き、その前段階として、研究レポートを作成した上でプレゼンテーションを行い、さらにその内容についての意見交換を通して、研究内容を深めていくことを目的とする。

担当教員による冒頭数回のレクチャーを経て、以降個々の履修生による研究発表を中心に進める。

研究発表は、各履修生が設定した研究テーマをもとに、そのテーマに関係する作曲家の作品を分析し、研究レポートにまとめ、それをレジュメとしてプレゼンテーションを行う(各履修生1回ずつ)。

また、毎回発表の内容について履修者全員で討議・討論をする。なお、プレゼンテーションは「作曲家作品研究Ⅱ」で取り上げたテーマをさらに発展させた内容であることが望ましい。

第1回 オリエンテーション

第2回 レクチャー(1)授業内研究発表のテーマの設定について

第3回 レクチャー(2)研究テーマに類する参考文献の収集について

第4回 レクチャー(3)授業内研究発表のレジュメの作成およびプレゼンテーションについて

第5回 <履修生1>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第6回 <履修生2>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第7回 <履修生3>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第8回 <履修生4>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第9回 <履修生1~4>への質問内容についてのフィードバック

第10回 <履修生5>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第11回 <履修生6>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第12回 <履修生7>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第13回 <履修生8>のプレゼンテーションと全体での質疑応答

第14回 <履修生5~8>への質問内容についてのフィードバック

第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。

プレゼンテーションの準備として、配付資料(レジュメ、譜例等)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

準備学習の目安:週3時間程度

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL703U		
科目名	音楽テクノロジー I		
科目詳細			
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ライブエレクトロニクスやサウンドアート創作のための総合的なMaxプログラミング技術を向上させられる。

#### ◆授業内容・計画◆

各学生が自身の研究・創作に必要となる、Cycling '74 Maxのプログラミング技術を向上させるための総合ワークショップ。各種コントロールアルゴリズム、リアルタイム音声信号処理、分析、外部インターフェースとの接続、アプリケーション開発等、必要に応じてあらゆる領域を扱う。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) 計画の策定
- 3) コントロール・アルゴリズム1～乱数
- 4) コントロール・アルゴリズム2～確率
- 5) リアルタイム音声信号処理1～音合成
- 6) リアルタイム音声信号処理2～エフェクト
- 7) 中間報告
- 8) 分析1～演奏データ検出
- 9) 分析2～音響分析
- 10) 外部インターフェースとの接続1～MIDIデバイス
- 11) 外部インターフェースとの接続2～OSC
- 12) プログラムの検討～効率化
- 13) プログラムの検討～安定性
- 14) 成果発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、日常的にプログラミングを行うこと。目安週1時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終成果発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および最終成果発表後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

Sound Composition (Trevor Wishart 著 / Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Designing Sound (Andy Farnell / The MIT Press)  
 Designing Audio Objects for Max/MSP and Pd (Eric Lyon 著 / A-R Editions)  
 Immersive Sound (Agnieszka Roginska 編集 / Routledge)  
 武満徹の電子音楽 (川崎弘二 著 / アルテスパブリッシング)  
 日本の電子音楽 (川崎弘二 著 / 愛育社)  
 日本の電子音楽 論考編 1 (川崎弘二 著 / engine books - difference)  
 日本のライブ・エレクトロニクス音楽 (川崎弘二 著 / engine books - difference)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL704U		
科目名	音楽テクノロジーⅡ		
科目詳細			
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ライブエレクトロニクスやサウンドアート創作のための総合的なMaxプログラミング技術を向上させられる。

#### ◆授業内容・計画◆

各学生が自身の研究・創作に必要となる、Cycling '74 Maxのプログラミング技術を向上させるための総合ワークショップ。各種コントロールアルゴリズム、リアルタイム音声信号処理、分析、外部インターフェースとの接続、アプリケーション開発等、必要に応じてあらゆる領域を扱う。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) 計画の策定
- 3) コントロール・アルゴリズム1～イージング
- 4) コントロール・アルゴリズム2～テンデンシーマスク
- 5) リアルタイム音声信号処理1～グラニュー技術
- 6) リアルタイム音声信号処理2～スペクトル処理
- 7) 中間報告
- 8) 分析1～アタック検出
- 9) 分析2～パラメータ操作への適用
- 10) 外部インターフェースとの接続1～モーショントラッキング
- 11) 外部インターフェースとの接続2～ジェスチャトラッキング
- 12) プログラムの検討～効率化
- 13) プログラムの検討～安定性
- 14) 成果発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、日常的にプログラミングを行うこと。目安週1時間以上。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習、および最終課題制作で評価する。フィードバックは授業内で随時、および最終成果発表後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

Sound Composition (Trevor Wishart 著 / Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Designing Sound (Andy Farnell / The MIT Press)  
 Designing Audio Objects for Max/MSP and Pd (Eric Lyon 著 / A-R Editions)  
 Immersive Sound (Agnieszka Roginska 編集 / Routledge)  
 武満徹の電子音楽 (川崎弘二 著 / アルテスパブリッシング)  
 日本の電子音楽 (川崎弘二 著 / 愛育社)  
 日本の電子音楽 論考編 1 (川崎弘二 著 / engine books - difference)  
 日本のライブ・エレクトロニクス音楽 (川崎弘二 著 / engine books - difference)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS719U		
科目名	スコア・リーディング I		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

複数(多段)の譜表を同時に読み込み、ピアノで演奏することにより、スコアリーディングの能力はもとより、読譜力の向上を図ることができる。ピアノを演奏しない学生はそれぞれの専攻楽器を用いて楽譜の立体的な理解を図る。

#### ◆授業内容・計画◆

平易な音部記号に始まり、七種類の音部記号それぞれの読譜に習熟したのち、それらを総合的に扱う。

- 1)ト音記号2つ
- 2)ト音記号3つ
- 3)バス記号2つ
- 4)バス記号3つ
- 5)ト音記号とバス記号による大譜表 前半
- 6)ト音記号とバス記号による大譜表 後半
- 7)混声合唱のレダクション1(調的なもの) 前半
- 8)混声合唱のレダクション2(調的なもの) 後半
- 9)混声合唱のレダクション3(調的ではないもの)前半
- 10)混声合唱のレダクション4(調的ではないもの)後半
- 11)一つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 前半
- 12)一つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 後半
- 13)二つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 前半
- 14)二つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 後半
- 15)当該期における問題点の抽出、反省

#### ◆準備学習の内容◆

ピアノが演奏できるように、常に準備しておくこと。日常的基礎練習が望ましい。ピアノを演奏しない学生はそれぞれの事情に応じて楽譜の立体的理解を深める内容での授業運営を行う。

#### ◆成績評価の方法◆

課題への理解度及び、授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

実作品を用いるので、その都度履修学生と相談しながら決定する。

#### ◆参考図書◆

特段指定しない

#### ◆留意事項◆

段階的に学習していくので、欠席をしないこと

ナンバリング	MCS720U		
科目名	スコア・リーディングⅡ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

今まで学習した能力を用い、移調楽器を含む総譜がピアノ上で演奏することができる。ピアノを演奏しない学生はそれぞれの楽器、専攻に応じた対応を研究して音楽的理解を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

当期よりト音記号、バス記号以外も扱う。より、複雑な楽譜への対応。

- 1)アルト記号の読譜
- 2)ヴィオラの楽譜の演奏
- 3)メゾソプラノ記号の読譜
- 4)in Fの移調楽器の楽譜の演奏
- 5)ソプラノ記号の読譜
- 6)in Aの移調楽器の楽譜の演奏
- 7)テノール記号の読譜
- 8)in Bの移調楽器の楽譜の演奏
- 9)バリトン記号の読譜
- 10)in Gの移調楽器の楽譜の演奏
- 11)移調楽器を含むトリオの演奏
- 12)移調楽器を含む四重奏の演奏
- 13)移調楽器を含む五重奏の演奏
- 14)実作品のスコア(古典派まで)の演奏
- 15)実作品のスコア(近代まで)の演奏

#### ◆準備学習の内容◆

ピアノが演奏できるように、常に準備しておくこと。日常的基礎練習が望ましい。ピアノを演奏しない学生は個々の事情に応じて、楽譜を通じての音楽的理解を深める。

#### ◆成績評価の方法◆

課題への理解度及び、授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

実作品を用いるので、その都度履修学生と相談しながら決定する。

#### ◆参考図書◆

特に指定しない

#### ◆留意事項◆

段階的に学習していくので、欠席をしないこと

ナンバリング	MCS721U		
科目名	フーガ実習 I		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ヨーロッパ音楽の根幹である対位法、その技法と精神を自ら「フーガを書く」ことで体験してゆきます。

#### ◆授業内容・計画◆

フーガ作曲が初めての学生と、すでに経験のある学生、習熟した学生が混在するクラスです。学生各自の進捗や技量によって内容はおのずと異なります。

- ① 特に進んだ学生は、二重フーガや器楽のフーガの作曲も視野に入れてレッスンします。
- ②すでにフーガを作曲したことのある学生は、各自のペースで「学習フーガ」を作曲します。
- ③ 初心者の場合には、少しずつまず3声、次いで4声の「学習フーガ」の技法を体得してゆき、7月に予定の試演を目指して1曲完成をめざします。

随時、ヘンデル、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン等のフーガを分析する時間を持ちたいと考えています。

また、「フーガ演奏会」(2024年度は3月)等にて作品を試演しますので、それを通じて「作曲」と「演奏」の間にある様々なことについても最初から視野に入れて学んでください。

初心者向きの進捗は概ね、

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学習フーガの分析と全体の把握、用語の理解(1)
- 第3回 学習フーガの分析と全体の把握、用語の理解(2)学習フーガと「フーガ」の相違点
- 第4回 主題群の準備(1) 長調・変応なし(A)
- 第5回 主題群の準備(2) 短調・変応なし (B)
- 第6回 主題群の準備(3) 長調・短調 変応あり(C)
- 第7回 主要提示の作成(1) 上記(A)と(B)
- 第8回 主要提示の作成(2) 上記(C)
- 第9回 嬉遊部と副提示部の作成(1)(A)を用いて
- 第10回 嬉遊部と副提示部の作成(2)(B)を用いて
- 第11回 嬉遊部と副提示部の作成(3)(C)を用いて
- 第12回 追迫の作成(1) (A)を用いて
- 第13回 追迫の作成(2) (B)を用いて
- 第14回 追迫の作成(3) (C)を用いて
- 第15回 まとめ

を進めます。

#### ◆準備学習の内容◆

各自がしっかりと事前にフーガ課題を書き進めて授業に臨んでください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS722U		
科目名	フーガ実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-325	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽を魅力的なものにするさまざまな”起伏”を意識して、「よく構築された書法」に習熟すべくフーガ作曲を試みます。

#### ◆授業内容・計画◆

フーガ実習Ⅰの指導方針の延長線で開講します。

フーガ演奏会を視野に入れ、「楽器(おもに弦楽四重奏、五重奏またはサクソフォン四重奏)で演奏する」ことを十分に考慮してフーガを作曲してゆきます。

分析についても随時とりいれてゆきます。

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 フーガ演奏会むけの作品作成(1) 主題群の準備
  - 第3回 フーガ演奏会むけの作品作成(2) 主要提示の作曲
  - 第4回 フーガ演奏会むけの作品作成(3) 副提示部の作曲(前半)
  - 第5回 フーガ演奏会むけの作品作成(4) 副提示部の作曲(後半)
  - 第6回 フーガ演奏会むけの作品作成(5) 追白部の作曲
  - 第7回 フーガ演奏会むけの作品作成(6) 全体への手入れ
  - 第8回 フーガ演奏会むけの作品作成(7) 仕上げ
  - 第9回 フーガ演奏会むけの作品作成(8) パート譜の作成・スコア浄書
  - 第10回 別の主題によるフーガ(1) 主要提示の作曲
  - 第11回 別の主題によるフーガ(2) 副提示部の作曲(前半)
  - 第12回 別の主題によるフーガ(3) 副提示部の作曲(後半)
  - 第13回 別の主題によるフーガ(4) 追白部の作曲
  - 第14回 別の主題によるフーガ(5) 全体への手入れ
  - 第15回 まとめ
- で進めます。

#### ◆準備学習の内容◆

各自がしっかりと事前にフーガ課題を書き進めて授業に臨んでください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS723U		
科目名	和声実習 I		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

各時代様式による和声法を理解し、研究の基礎となる分析、実習を行うことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

和声実習と楽曲分析を総合し、専攻の実技や研究に活かすことが目的である。  
 学生のレベルにより、実習の難易度は異なる。

1. 授業ガイダンス
2. バロック時代における声部書法と和声
3. 通奏低音実習
4. 課題の実習①バロック
5. 古典派のカデンツ
6. 古典派の転調
7. 課題の実習②古典派
8. 古典派とロマン派の比較
9. ドミナントの概念の拡大と転調法の多様化
10. 課題の実習③ロマン派
11. 近代フランスの和声①フォーレ
12. 近代フランスの和声②ドビュッシー
13. 課題の実習④フランスの和声教材
14. 課題の実習⑤任意のスタイル
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

実作品や課題は、指示した内容を学生が予習していることを前提に授業を行う(60分)。  
 授業で学んだ課題や内容について復習する(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

期末提出課題と平常点の総合評価による。  
 随時授業内で課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

『総合和声』島岡譲 他 著、音楽之友社  
 『新しい和声』林達也著、アルテスパブリッシング社  
 『実践的和声学習の手引き』 P. I. チャイコフスキー著、山本明尚訳、音楽之友社  
 『音楽アナリーゼのための実践ガイド』ナジ・ハキム、マリ=ベルナデット・デュフルセ著、野平多美 他 訳、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MCS724U		
科目名	和声実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

各時代様式による和声法を理解し、研究の基礎となる分析、実習を行うことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

和声実習と楽曲分析を総合し、専攻の実技や研究に活かすことが目的である。

授業内容に並行して、学生が研究する作曲家や作品を取り上げることがある。

また、近代フランスの和声をシャラン、ビッチュ、デュボア、フォーシェ、ギャロンなどの課題を通じて学ぶ。

1. 前期の復習
2. 古典派の様式と実習(モーツァルト・ベートーヴェン)
3. ロマン派の様式と実習①(シューベルト・メンデルスゾーン)
4. ロマン派の様式と実習②(ショパン・シューマン)
5. 後期ロマン派の様式と実習(ワーグナー・R.シュトラウス)
6. 近代フランスの様式と実習①(フォーレ)
7. 近代フランスの様式と実習②(ドビュッシー)
8. 近代フランスの様式と実習③(ラヴェル)
9. スクリャービンの様式と実習
10. メシアンの移調の限られた旋法
11. フランス和声の実践①バス課題
12. フランス和声の実践②ソプラノ課題
13. フランス和声の実践③弦楽四重奏
14. フランス和声の実践④器楽伴奏
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

実作品や課題は、指示した内容を学生が予習していることを前提に授業を行う(60分)。

授業で学んだ課題やないようについて復習する(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

期末課題提出と平常点の総合評価による。

随時授業内で課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

『総合和声』島岡譲 他 著、音楽之友社

『新しい和声』林達也 著、アルテスパブリッシング社

『実践的和声学習の手引き、P.I.チャイコフスキー 著、山本明尚訳、音楽之友社

『音楽アナリーゼのための実践ガイド』ナジ・ハキム、マリ=ベルナデット・デュフルセ 著、野平多美 他 訳、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MCS725U		
科目名	古典対位法 I		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-32	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ルネッサンス期のポリフォニーの書法を理解し、2声の実習を行うことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

今日私達が多く取り組むバロック以降の音楽を理解する助けとなるよう、美しいメロディについての見識を高める。  
 具体的には、16世紀ルネサンスの作曲家ジョヴァンニ・ダ・パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。

- ・和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「旋律線」に対する感覚を養う。
- ・長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法を勉強することにより、機能と声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するヒントを得る。
- ・パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れず、歌うつもりで作曲する。しばしば実施した課題を合唱する。

第1セメスターは2声の対位法の実習を行う。

1. ポリフォニーとパレストリーナの対位法
2. 全音符対位法(1)説明と範例
3. 全音符対位法(2)実習①ドリア旋法による
4. 全音符対位法(3)実習②その他の旋法による
5. 二分音符対位法(1)説明と範例
6. 二分音符対位法(2)実習①ドリア旋法による
7. 二分音符対位法(3)実習②さまざまな旋法による
8. 近代の楽曲における旋法の用例と分析
9. 四分音符対位法(1)説明と範例
10. 四分音符対位法(2)実習①ドリア旋法による
11. 四分音符対位法(3)実習②さまざまな旋法による
12. 移勢対位法(1)説明と範例
13. 移勢対位法(2)実習①ドリア旋法による
14. 移勢対位法(3)実習②さまざまな旋法による
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- 1) 授業で解説した対位法を、実習する(60分)。
- 2) 授業で取り上げた作品や例題等を実際に演奏し、美しさを確かめる(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業は実習が中心である。授業内で常にフィードバックを行いながら、技術を磨き、理解を深める。  
 提出課題と平常点で総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「パレストリーナ様式による対位法」ホセ・イグナチオ・テホン著、音楽之友社

#### ◆参考図書◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、必要に応じてコピーを配布)  
 「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

一人一人のペースでじっくり課題に向き合う。  
 作曲のみならず声楽・器楽・音楽教育・音楽学専攻の学生にも十分理解できる内容なのでぜひ履修してほしい。

ナンバリング	MCS726U		
科目名	古典対位法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,3,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

ルネッサンス期のポリフォニーの書法を理解し、2声～3声の実習を行うことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

前期に引き続き実習を進める。2声の続きから始め、3声へとすすむ。

1. 混合対位法(1)説明と範例
2. 混合対位法(2)実習①ドリア旋法による
3. 混合対位法(3)実習②さまざまな旋法による
4. 自由対位法(1)説明と範例
5. 自由対位法(2)実習①ドリア旋法による
6. 自由対位法(3)実習②さまざまな旋法による
7. パレストリーナの模倣書法
8. 模倣(1)説明と範例
9. 模倣(2)実習①ドリア旋法による
10. 模倣(3)実習②さまざまな旋法による
11. 2声対位法の総括
12. 3声対位法の特徴
13. 3声による実習(1)全音符
14. 3声による実習(2)任意の音価による
15. まとめ

他に、パレストリーナの作品、その後の時代の対位法的作品の分析も行う。

#### ◆準備学習の内容◆

- 1) 授業で解説した対位法を、実習する(60分)。
- 2) 授業で取り上げた作品や例題等を実際に演奏し、美しさを確かめる(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業は実習が中心である。授業内で常にフィードバックを行いながら、技術を磨き、理解を深める。課題提出と毎回の課題の添削により総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「パレストリーナ様式による対位法」ホセ・イグナチオ・テホン著、音楽之友社

#### ◆参考図書◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、必要に応じてコピーを配布)  
 「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

一人一人のペースでじっくり課題に向き合う。  
 作曲専攻のみならず、声楽・器楽・音楽教育・音楽学専攻の学生にも十分理解できる内容なので、ぜひ履修してほしい。  
 対位法を勉強すると、楽譜の見方が変わってくる。演奏や音楽指導にぜひ対位法で学んだ感覚を活かしてほしい。

ナンバリング	MCL705U		
科目名	原典講読(作曲) I		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽に関する外国語文献を理解する基礎を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 第31章の読解:前半
3. 第31章の読解:後半
4. 第32章の読解:前半
5. 第32章の読解:後半
6. 第32章の作品分析の読解
7. 第33章の読解:前半
8. 第33章の読解:後半
9. 第33章の作品分析の読解
10. 第34章の読解:前半
11. 第34章の読解:後半
12. 第34章の作品分析の読解
13. 第35章の読解:前半
14. 第35章の読解:後半
15. 第35章の作品分析の読解

扱う文献は、受講者の希望に応じて、変更する場合がある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で指示する箇所の予習・復習をすること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

J. Peter Burkholder, Donald Jay Grout and Claude V Palisca. A History of Western Music. 10th ed. (Norton, 2019)  
 J. Peter Burkholder, Donald Jay Grout and Claude V Palisca. Norton Anthology of Western Music. Vol. 3. The Twentieth Century and Beyond. 8th ed. (Norton, 2019)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL706U		
科目名	原典講読(作曲)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽に関する外国語文献を理解する基礎を身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 前期の復習
2. 第36章の読解:前半
3. 第36章の読解:後半
4. 第36章の作品分析の読解
5. 第37章の読解:前半
6. 第37章の読解:後半
7. 第37章の作品分析の読解
8. 第38章の読解:前半
9. 第38章の読解:後半
10. 第38章の作品分析の読解
11. 第39章の読解:前半
12. 第39章の読解:後半
13. 第39章の作品分析の読解
14. 用語の確認
15. まとめ

扱う文献は、受講者の希望に応じて、変更する場合がある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業で指示する箇所の予習・復習をすること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

J. Peter Burkholder, Donald Jay Grout and Claude V Palisca. A History of Western Music. 10th ed. (Norton, 2019)  
 J. Peter Burkholder, Donald Jay Grout and Claude V Palisca. Norton Anthology of Western Music. Vol. 3. The Twentieth Century and Beyond. 8th ed. (Norton, 2019)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS727U		
科目名	楽曲分析 I		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

主に20世紀以降の作品を取り上げ、CD音源と楽譜を通して、その作曲意図、語法、作曲技法、楽器法などをできるだけ丁寧に読み込み分析する。作品の時代背景を踏まえた上で、作曲家の音楽観や創意を考察し作品への理解が深まるようにしたい。また、分析力を培うことによって履修生個々の研究領域においてもその成果が還元されるよう、よい影響をもたらす時間としたい。分析には独自の解釈が得られるレベルにまで到達できることを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

・担当教員が提示する楽曲分析の他に、受講生は年に2回程度の分析発表を行う。それに基づき楽譜の検証と議論を重ね、作品の理解と考察を深める。  
 ・授業で取り上げる作品は、1945年以降のヨーロッパ音楽が中心であるが、受講生の経験値や能力的状況を鑑み、以下の楽曲の変更はあり得る。

- ①ガイダンス／授業の説明と自己紹介
- ②伝統・革新・妙義・機知～H.ホリガーの独奏作品1
- ③伝統・革新・妙義・機知～H.ホリガーの独奏作品2
- ④拡大的改作～P.ブーレーズ 1
- ⑤拡大的改作～P.ブーレーズ 2
- ⑥履修生の発表(1)
- ⑦前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑧履修生の発表(2)
- ⑨前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑩履修生の発表(3)
- ⑪前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑫室内楽作品1G.ベソン／変奏法
- ⑬室内楽作品2G.ベソン／フィルトレージュの技法
- ⑭室内楽作品3ラッヘンマン／特殊音響と抽象表現
- ⑮室内楽作品4ラッヘンマン／構造と形式

#### ◆準備学習の内容◆

・日頃から各自の音楽の関心事を整理し、楽曲を準備しておくこと。  
 ・授業で取り扱う作品は2週以上にわたって読み込んでいくため、CDと楽譜で音楽全体を把握しておくこと。  
 ・授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

1.試験(授業内の分析発表内容)。  
 2.授業へ参加姿勢(発言やディスカッションなど)。  
 分析発表については、講評を行い、常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS728U		
科目名	楽曲分析Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

主に20世紀以降の作品を取り上げ、CD音源と楽譜を通して、その作曲意図、語法、作曲技法、楽器法などをできるだけ丁寧に読み込み分析する。作品の時代背景を踏まえた上で、作曲家の音楽観や創意を考察し作品への理解が深まるようにしたい。また、分析力を培うことによって履修生個々の研究領域においてもその成果が還元されるよう、よい影響をもたらす時間としたい。分析には独自の解釈が得られるレベルにまで到達できることを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

・担当教員が提示する楽曲分析の他に、受講生は年に2回程度の分析発表を行う。それに基づき楽譜の検証と議論を重ね、作品の理解と考察を深める。  
 ・授業で取り上げる作品は、1945年以降のヨーロッパ音楽が中心であるが、受講生の経験値や能力的状況を鑑み、以下の楽曲の変更はあり得る。

- ①S.シャリーノ／新しいフォルム
- ②S.シャリーノ／音響の魔術
- ③S.シャリーノ／歌の認知と過去の音楽との関連
- ④S.ジェルヴァゾーニ／詩的展開法 1
- ⑤S.ジェルヴァゾーニ／詩的展開法 2
- ⑥履修生の発表(4)
- ⑦前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑧履修生の発表(5)
- ⑨前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑩履修生の発表(6)
- ⑪前回の発表を基に議論し研究する。
- ⑫管弦楽作品～B.A.ツィンマーマン／引用の効果
- ⑬管弦楽作品～B.A.ツィンマーマン／変容の手法
- ⑭新しい潮流～E.ポッペ、F.フィリデイ、M.アンドレの作品から
- ⑮新しい潮流～E.ポッペ、F.フィリデイ、M.アンドレの作品から

#### ◆準備学習の内容◆

・日頃から各自の音楽の関心事を整理し、楽曲を準備しておくこと。  
 ・授業で取り扱う作品は2週以上にわたって読み込んでいくため、CDと楽譜で音楽全体を把握しておくこと。  
 ・授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

1.試験(授業内の分析発表内容)。  
 2.授業へ参加姿勢(発言やディスカッションなど)。  
 分析発表については、講評を行い、常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

授業形態については様々な状況に応じて「対面」を導入する。

ナンバリング	MCS729U		
科目名	作曲特殊研究 I		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

「演奏」という視点から、音楽作品の解釈と表現について考えることは、自らの音楽について考察を深めるためのひとつの指針となる。過去から現代に至る様々なスタイルの音楽について、演奏における作品解釈と表現方法の実際的な面を研究することにより、自分自身が拠って立つ美学的な視点を明確にできるようにし、創作活動に役立てることができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

グループ授業の特質を生かし、作品解釈のための研究、ディスカッション、鑑賞、実演をまじえながら授業を行なう。

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題曲1-1「ピアノソロ作品」: 作曲様式の研究
- 第3回: 課題曲1-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第4回: 課題曲1-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第5回: 課題曲1-4: 実演
- 第6回: 課題曲2-1「ピアノ4手作品」: 作曲様式の研究
- 第7回: 課題曲2-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第8回: 課題曲2-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第9回: 課題曲2-4: 実演
- 第10回: 課題曲3-1「2台ピアノ作品」: 作曲様式の研究
- 第11回: 課題曲3-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第12回: 課題曲3-3: 奏法と表現の可能性の探求その1
- 第13回: 課題曲3-4: 奏法と表現の可能性の探求その2
- 第14回: 課題曲3-5: 実演
- 第15回: まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる楽曲を練習し、作曲家について調べておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末のまとめの演奏を評価しフィードバックを行なうこと、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS730U		
科目名	作曲特殊研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-325	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

「演奏」という視点から、音楽作品の解釈と表現について考えることは、自らの音楽について考察を深めるためのひとつの指針となる。過去から現代に至る様々なスタイルの音楽について、演奏における作品解釈と表現方法の実際的な面を研究することにより、自分自身が拠って立つ美学的な視点を明確にできるようにし、創作活動に役立てることができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

グループ授業の特質を生かし、作品解釈のための研究、ディスカッション、鑑賞、実演をまじえながら授業を行なう。

- 第1回: 課題曲1-1「ソロ楽器作品」: 作曲様式の研究
- 第2回: 課題曲1-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第3回: 課題曲1-3: 奏法と表現の可能性の探求その1
- 第4回: 課題曲1-4: 奏法と表現の可能性の探求その2
- 第5回: 課題曲1-5: 実演
- 第6回: 課題曲2-1「アンサンブル作品」: 作曲様式の研究
- 第7回: 課題曲2-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第8回: 課題曲2-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第9回: 課題曲2-4: 実演
- 第10回: 課題曲3-1「ピアノソロ作品」: 作曲様式の研究
- 第11回: 課題曲3-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第12回: 課題曲3-3: 奏法と表現の可能性の探求その1
- 第13回: 課題曲3-4: 奏法と表現の可能性の探求その2
- 第14回: 課題曲3-5: 実演
- 第15回: まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる楽曲を練習し、作曲家について調べておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすること、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

#### ◆参考図書◆

授業内に指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MPL701N		
科目名	音楽教育学研究 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)自身の研究テーマの位置を探り、関連する研究分野について説明できる。(2)自身の研究の範囲や方法について理解したことを説明できる。(3)研究に必要な資料を収集してその概要を説明できる。(4)自身の研究全体の構成を手際よく構築し助言により再構築できる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:音楽教育学における研究とは
2. 研究計画、研究方法、論文執筆要項
3. 研究論本の読み方、情報の整理、パソコンおよび電子データ操作のテクニック
4. CiNii、J-STAGE、図書館書庫の活用方法
5. 文献の引用方法とノート作成のテクニック
6. 学会の活動と研究内容、参加方法、院生フォーラム
7. 研究の分野(1):演奏とパフォーマンスの研究、指導方法・実践の研究
8. 研究の分野(2):哲学的・社会的・心理学的研究
9. 研究の分野(3):歴史的研究、カリキュラム研究、国際比較研究、メソッドの研究
10. 研究の分野(4):作品の創作、教材教具の開発研究

11. 音楽教育学における量的・質的アプローチ
12. 文献リスト作成、文献レビュー
13. 論文構成
14. 研究テーマと研究の背景・目的・方法
15. 研究報告レポートの作成、学会発表・学内中間発表の内容

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

#### ◆参考図書◆

日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社、山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社、中嶋恒雄、斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社、『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウェンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

#### ◆留意事項◆

- ・パソコンを活用した情報収集とプレゼンテーション等のテクニックを身に付けること。
- ・図書館を活用できるようにすること。
- ・明確な研究課題を持ち、そのテーマについて熟考を重ねていくこと。
- ・資料などについてはGoogle Classroomを通して共有する。

ナンバリング	MPL702N		
科目名	音楽教育学研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)研究に必要な調査を計画し実行することができる。(2)論理構成の検討に基づき自身の研究計画を修正することができる。(3)専門的な研究を自律的に行うための基本的な態度を身に付ける。(4)執筆要項に基づき修士論文を完成させるための段取りや手順を説明できる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 「音楽教育学研究Ⅰ」の振り返りと中間発表・学会発表の準備
2. 中間発表資料の作成
3. 中間発表用プレゼンテーション資料の作成、質疑対策資料の作成
4. 中間発表の実施とフィードバック、研究内容の修正
5. 学会発表資料・ポスターの作成、発表準備
6. 学会発表の実施とフィードバック
7. 研究テーマ・論文構成・研究計画の見直し
8. 自らの研究過程の省察、論旨・論理性
9. 修士論文のテーマと研究の範囲の確定
10. 「修論執筆要項」の内容の理解
11. 学術論文のルール・倫理規定
12. 参考文献・資料・引用文献の解釈・検討、先行研究のリビュー
13. 序論・序章の作成(研究の動機、研究の目的、研究の方法)
14. 研究に必要な視察・フィールドワーク・実践・講習会受講等
15. 中間報告の準備、研究交流の意義と方法

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)
- ・中間発表におけるプレゼンテーション、質疑への応答の内容(事後にフィードバックする。)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

#### ◆参考図書◆

日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社・山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社、中嶋恒雄、斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン/ウェンガー/佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『学び』の認知科学事典』佐伯胖監修/渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード/プリチャード/田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

#### ◆留意事項◆

- ・中間発表については、自身の研究テーマの特質に合わせて準備を万全に整えるとともに、発表を聞く立場に立ったプレゼンテーションを考え、発表に臨むこと。
- ・資料などについては、Google Classroomを共有すること。

ナンバリング	MPL703N		
科目名	音楽教育学研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)必要十分な先行研究に当たりレビューすることができる。(2)論理構成の検討に基づき自身の研究計画を修正することができる。(3)実践研究、調査研究を計画的に行い分析することができる。(4)論文執筆に必要な段取りを把握し実行することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 「音楽教育学研究Ⅰ」の振り返りと中間発表・学会発表の準備
2. 研究テーマ・論文構成・研究計画の見直しと題目の決定
3. 先行研究と文献リスト
4. 実践研究(1)調査研究の計画
5. 実践研究(2)調査研究の実施
6. 実践研究(3)調査研究の分析
7. 学会・研究会での発表の内容、発表の申込み
8. 全体の論理構成と結論
9. 自身の研究分野の研究史
10. 術語の定義
11. 詳細な論文構成の作成
12. 参考文献・資料・引用文献の解釈・検討、先行研究のリビュー
13. 論文の文章のスタイル
14. 研究に必要な視察・フィールドワーク・実践・講習会受講等
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・研究報告レポート(修士論文の一部、学内中間発表・学会発表の内容、授業の都度フィードバックする。)
- ・毎回の課題提出状況(授業の都度フィードバックする。)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・授業担当者が直接指示する。

#### ◆参考図書◆

日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社、山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社、中嶋恒雄、斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建邦社、『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウェンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『学び』の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディープ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

#### ◆留意事項◆

- ・修士論文の題目を確定し提出しなければならないので、自身の研究の音楽教育における位置を十分に見極める必要がある。基本的文献に当たって基礎知識を確実に身に付けるとともに、最新の研究成果を把握する必要がある。
- ・資料などについては、Google Classroomを通して共有する。

ナンバリング	MPL704N		
科目名	音楽教育学研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)自身の研究成果とその意義を理解し説明することができる。(2)執筆要項に照らして、適切な執筆内容・方法で論述することができる。(3)明快で分かりやすく、論理的な一貫性がある文章を書くことができる。(4)音楽教育学の発展に寄与する研究を進めることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究発表に向けてのスケジュール
2. 中間発表、学会発表の準備
3. 実践研究、調査研究の執筆と資料のまとめ方
4. 自らの研究過程の省察
5. 中間発表とディスカッション
6. 学会発表の振り返り
7. 文章のまとめ方と論旨の一貫性
8. 資料・引用文献の使い方
9. 文献・資料からの引用と脚注
10. 修士論文の執筆
11. 註、文献一覧の作成
12. 巻末資料の作成
13. 目次、図、表の点検と修正
14. 修士論文の添削と修正
15. 修士論文要旨の作成

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自身の研究テーマに基づき、文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。(目安毎週2時間)
- ・授業内容・計画に基づく担当教員からの都度の課題について、パソコンを用いて資料を作成すること。(目安毎週2時間)
- ・中間発表において、パワーポイント等のプレゼンテーションのデータ、配布資料を作成すること。(目安5時間)

#### ◆成績評価の方法◆

・中間発表における発表内容、修士論文の構成・表現・ボリューム・テーマの意義、都度の課題の提出状況から総合的に評価する。課題等について適宜フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

・授業担当者が直接指示する。

#### ◆参考図書◆

日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社。山本文茂『これからの音楽教育を考える 展望と指針』音楽之友社。中嶋 恒雄、斎藤博『音楽教育研究のまとめ方』建帛社。『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)『わかり方の探究』佐伯胖(小学館)、『臨床の知とは何か』中村雄二郎(岩波新書)、『状況に埋め込まれた学習』レイヴン／ウエンガー／佐伯胖訳(産業図書)、『ワークショップ』中野民夫(岩波新書)、『臨床教育学入門』河合隼雄(岩波書店)、『「学び」の認知科学事典』佐伯胖監修／渡部信一編(大修館書店)、『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』刈宿・佐伯・高木(東京大学出版会)、『ディーブ・アクティブラーニング』松下佳代他(勁草書房)、『アクティブラーニングのための心理学』ウーラード／プリチャード／田中俊也訳(北大路書房)、『音楽心理学入門』星野悦子他(誠信書房)

#### ◆留意事項◆

- ・執筆中の修士論文は少しずつ添削を受け、修正を加えていくようにしたい。
- ・資料などについては、Google Classroomを通して共有する。

ナンバリング	MPL713N		
科目名	音楽教育研究法 I		
科目詳細			
担当教員	八幡 眞由美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育研究の対象,研究分野及び研究方法について理解する。(2)音楽教育研究の現状と課題,研究動向などについて理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 研究することの意味とその倫理について考える
- 第2回 さまざまな研究方法を知る:目的に即した研究方法の選択の重要性
- 第3回 研究したことを文章にまとめる
- 第4回 面接法とは
- 第5回 観察法とは:観察するときにはなにに留意すればよいか
- 第6回 事例研究法とは:何に配慮すべきか
- 第7回 質問紙法とは:質問紙法を用いることの長所と短所は何か
- 第8回 質問用紙の作り方:聞き方によって回答は変わる
- 第9回 質問用紙の作成
- 第10回 データ処理の方法を学ぶ:(1)記述統計
- 第11回 " : (2)推測統計
- 第12回 " : (3)カイ2乗検定
- 第13回 " : (4)t検定と分散分析法
- 第14回 論文作成の際の留意点

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い,資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。(目安毎週2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み,課題の発表,レポート課題の成果などを総合して評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜紹介する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

問題意識をもつてのぞむこと。

ナンバリング	MPL714N		
科目名	音楽教育研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽教育に関わる研究課題を見つけ、その課題解決が可能な研究方法や文献レビュー、また研究計画の方法を学び、自分の研究課題を深めることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.研究テーマ(課題)の発表と検討
- 3.修士論文の研究計画(1) 目的と方法
- 4.修士論文の研究計画(2) 先行研究レビュー
- 5.文献検索(1)検索の方法
- 6.文献検索(2)文献表の作成
- 7.文献レビュー(1)文献購読の方法
- 8.文献レビュー(2)文献レビューの方法
- 9.先行研究レビュー発表・前半
- 10.先行研究レビュー発表・後半
- 11.研究の構想・前半
- 12.研究の構想・後半
- 13.研究構想及び研究の発表と討議(1)学生A
- 14.研究構想及び研究の発表と討議(2)学生B
- 15.研究構想及び研究の発表と討議(3)学生C

#### ◆準備学習の内容◆

毎回の課題や発表の準備をした上で、研究課題について明確な問いを持つこと(毎週1~2時間を目安とする)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、また課題の成果と発表内容を総合的に評価する。発表や課題については授業毎にフィードバックを行う

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業で資料等を適宜提示する。

#### ◆参考図書◆

授業で適宜紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MPL715N		
科目名	音楽教育研究法Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	八幡 眞由美		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育研究の対象,研究分野及び研究方法について理解する。(2)音楽教育研究の現状と課題,研究動向などについて理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 研究することの意味とその倫理について考える
- 第2回 さまざまな研究方法を知る:目的に即した研究方法の選択の重要性
- 第3回 研究したことを文章にまとめる
- 第4回 面接法とは
- 第5回 観察法とは:観察するときにはなにに留意すればよいか
- 第6回 事例研究法とは:何に配慮すべきか
- 第7回 質問紙法とは:質問紙法を用いることの長所と短所は何か
- 第8回 質問用紙の作り方:聞き方によって回答は変わる
- 第9回 質問用紙の作成
- 第10回 データ処理の方法を学ぶ:(1)記述統計
- 第11回 " : (2)推測統計
- 第12回 " : (3)カイ2乗検定
- 第13回 " : (4)t検定と分散分析法
- 第14回 論文作成の際の留意点

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い,資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。(目安毎週2時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み,課題の発表,レポート課題の成果などを総合して評価する。授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜紹介する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

問題意識をもつてのぞむこと。

ナンバリング	MPL716N		
科目名	音楽教育研究法Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	瀧川 淳		
学年	2年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽教育に関わる研究課題を見つけ、その課題解決が可能な研究方法や文献レビュー、また研究計画の方法を学び、自分の研究課題を深めることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.研究テーマ(課題)の発表と検討
- 3.修士論文の研究計画(1) 目的と方法
- 4.修士論文の研究計画(2) 先行研究レビュー
- 5.文献検索(1)検索の方法
- 6.文献検索(2)文献表の作成
- 7.文献レビュー(1)文献購読の方法
- 8.文献レビュー(2)文献レビューの方法
- 9.先行研究レビュー発表・前半
- 10.先行研究レビュー発表・後半
- 11.研究の構想・前半
- 12.研究の構想・後半
- 13.研究構想及び研究の発表と討議(1)学生A
- 14.研究構想及び研究の発表と討議(2)学生B
- 15.研究構想及び研究の発表と討議(3)学生C

#### ◆準備学習の内容◆

毎回の課題や発表の準備をした上で、研究課題について明確な問いを持つこと(毎週1~2時間を目安とする)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、また課題の成果と発表内容を総合的に評価する。発表や課題については授業毎にフィードバックを行う

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業で資料等を適宜提示する。

#### ◆参考図書◆

授業で適宜紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MPL717U		
科目名	音楽教育内容論A		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

1. 音楽教育における歌唱、器楽、創作(音楽づくり)の内容について理解を深める。
2. 音楽教育の内容における諸課題について検討する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 授業の進め方(ガイダンス)
2. 幼児教育における領域「表現」の内容
3. 小学校の音楽教育内容:歌唱(低学年)
4. 小学校の音楽教育内容:歌唱(中学年)
5. 小学校の音楽教育内容:歌唱(高学年)
6. 小学校の音楽教育内容:器楽(低学年)
7. 小学校の音楽教育内容:器楽(中学年)
8. 小学校の音楽教育内容:器楽(高学年)
9. 小学校の音楽教育内容:音楽づくり(低学年)
10. 小学校の音楽教育内容:音楽づくり(中学年)
11. 小学校の音楽教育内容:音楽づくり(高学年)
12. 各自の課題発表:歌唱を中心に
13. 各自の課題発表:器楽を中心に
14. 各自の課題発表:音楽づくりを中心に
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業時に提示される課題を十分に事前学習した上で、授業参加すること。(目安は毎週90分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加意欲、課題への取り組み方、発表等を総合して評価する。発表についてはフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜提示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で適宜提示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MPL718U		
科目名	音楽教育内容論B		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

「音楽教育内容論A」での示唆を基に、音楽教育における歌唱、器楽、創作(音楽づくり)の内容について理解を深める。2. 音楽教育の内容における諸課題について検討する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 授業の進め方(ガイダンス)
2. 中学校の音楽教育内容:歌唱(1学年)
4. 中学校の音楽教育内容:歌唱(2学年)
5. 中学校の音楽教育内容:歌唱(3学年)
6. 中学校の音楽教育内容:器楽(1学年)
7. 中学校の音楽教育内容:器楽(2学年)
8. 中学校の音楽教育内容:器楽(3学年)
9. 中学校の音楽教育内容:創作(1学年)
10. 中学校の音楽教育内容:創作(2学年)
11. 中学校の音楽教育内容:創作(3学年)
12. 各自の課題発表:歌唱を中心に
13. 各自の課題発表:器楽を中心に
14. 各自の課題発表:創作を中心に
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業時に提示される課題を十分に事前学習した上で、授業参加すること。(目安は毎週90分程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加意欲、課題への取り組み方、発表等を総合して評価する。発表についてはフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜提示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で適宜提示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MPL719U		
科目名	音楽教育方法論A		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽教育方法に関する基本的な考え方を整理するとともに、学校音楽教育の特色ある教育方法とその背景を学び、音楽科の教育方法について理解を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 音楽教育方法に関する基本的な考え方
3. 音楽の授業における教育方法
4. 音楽の授業における教育方法－成果と課題
3. 戦前の学校音楽教育における教育方法－唱歌の時代
4. 戦後の特色のある教育方法1－新教育と単元学習
  
5. 戦後の特色のある教育方法2－創造性の育成とふしづくり教育
6. 昭和の時代に典型的にみられた教育方法－歌唱の授業を中心に
7. 戦後の特色のある教育方法3－創造的音楽学習1
8. 戦後の特色のある教育方法4－創造的音楽学習2
9. 平成にみられた教育方法の変化とその背景1
10. 平成にみられた教育方法の変化とその背景2
11. 平成29年改訂の学習指導要領にみられる教育方法への提言1  
－資質・能力を目指す視点から－
12. 平成29年改訂の学習指導要領にみられる教育方への提言2  
－主体的・対話的で深い学びの視点から－
13. 令和の学校教育に求められる教育方法を考える1
14. 令和の学校教育に求められる教育方法を考える2
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

楽教材方法論の課題についてレジュメを作成する。毎週1－2時間を目安とする。

#### ◆成績評価の方法◆

音楽教育方法論の課題について、授業内で議論を深め、レジュメの内容について授業の中でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時指定する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

教育方法の基盤となる学習指導要領の目標、内容、内容の取扱い、評価規準・題材の目標の作成について、十分理解しておくこと。

授業で必要な資料については、GoogleClassroomにて共有する。図書館を積極的に活用すること。

ナンバリング	MPL720U		
科目名	音楽教育方法論B		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

国内外の音楽教育方法に関する様々な方法論についての基本的な理解とともに、音楽のジャンルに応じた教育方法についての知見を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. リトミック(ジャック=ダルクローズ)の理念と方法
3. リトミック(日本国内での取組)の広がり
4. 学校教育におけるリトミック
3. コダーイ・メソッドの理念と方法
4. 日本におけるコダーイ・メソッドの広がり
  
5. オルフシュールベェルクの理念と方法
6. 日本にオルフシュールベェルクの広がり
7. コンセプチュアル・ラーニング(概念学習)の理念と方法
8. 日本の音楽教育とコンセプチュアル・ラーニング(概念学習)との関連
9. 創造的音楽学習の理念と方法
10. サウンド・エデュケーションの理念と方法
11. 日本におけるサウンド・エデュケーションの広がり
12. 日本の伝統音楽の伝承にみられる教育方法1(宮内庁)
13. 日本の伝統音楽に学習みられる教育方法2(口唱歌など)
14. ポピュラー音楽における教育方法
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

課題に関する提出レポートの作成、毎週1-2時間を目安とする。

#### ◆成績評価の方法◆

音楽教育方法論に関するレポート、授業の参加度などをもとに総合的に評価する。フィードバックについては、口頭による講評、提出されたレポートへアドバイスなどを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

様々な教育方法に関する書籍や論文を、適宜、用いる。

#### ◆参考図書◆

その都度、紹介する。

#### ◆留意事項◆

業で必要な資料については、GoogleClassroomにて共有する。図書館を積極的に活用すること。

ナンバリング	MWL701N		
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 前期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。(週5時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL702N		
科目名	音楽学演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 後期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。(週5時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL703N		
科目名	音楽学演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 前期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。(週5時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL704N		
科目名	音楽学演習IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文を執筆し提出できる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 夏休みの成果の確認
- 2) プロスペクトへの準備(1)目次の作成
- 3) プロスペクトへの準備(2)発表内容の検討
- 4) プロスペクトへの準備(3)レジュメの作成
- 5) プロスペクトへの準備(4)読み上げ原稿の作成
- 6) プロスペクトの総括
- 7) 論文執筆(1)全体計画の確認
- 8) 論文執筆(2)第1章の執筆
- 9) 論文執筆(3)第2章の執筆
- 10) 論文執筆(4)書式等について
- 11) 論文執筆(5)第3章の執筆
- 12) 論文執筆(6)第4章の執筆
- 13) 論文執筆(7)文献表の作成
- 14) 論文執筆(8)要旨の作成
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。(週5時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL707N		
科目名	楽器・音響演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 研究のテーマの選定
2. 研究のテーマの決定
3. 本実験の計画
4. 本実験の計画と資料作成とフィードバック
5. 本実験の実験計画書の作成とフィードバック
6. 本実験の機材準備とフィードバック
7. 本実験の実施 実験参加者への依頼とフィードバック
8. 本実験の実施 実験参加者への説明とフィードバック
9. 本実験の実施 聴取条件の説明とフィードバック
10. 本実験の実施 実験刺激の作成とフィードバック
11. 本実験の実施 聴取実験
12. 本実験の実施 実験結果の収集
13. 本実験の実施 実験結果の分析とフィードバック
14. 本実験の実施 実験結果の報告とフィードバック
15. 全体討論

#### ◆準備学習の内容◆

修士論文執筆のための研究計画を立て、特に本実験ができるようになるため、研究内容についてあらかじめ考えておくこと、日頃から準備をしておく(目安 1時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom, Slack, Google Drive, Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MWL708N		
科目名	楽器・音響演習IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文を学術論文の体裁に従ってまとめる。また、クラス内での発表を通して魅力的な発表ができるようになり、かつ有意義なディスカッションを円滑にできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 本実験の検証
2. 本実験の検証後の分析とフィードバック
3. 追加実験の計画とフィードバック
4. 追加実験の計画と実験参加者への依頼
5. 追加実験のための呈示刺激の作成とフィードバック
6. 追加実験の実施
7. 追加実験の分析
8. 修士学位論文の目次設定
9. 修士学位論文の2章の執筆とフィードバック
10. 修士学位論文の3章の執筆とフィードバック
11. 修士学位論文の4章の執筆とフィードバック
12. 修士学位論文の5章の執筆とフィードバック
13. 修士学位論文の1, 6章の執筆とフィードバック
14. 修士学位論文全体の執筆とフィードバック
15. 全体討論

#### ◆準備学習の内容◆

2年間の研究実施の最終形態として、修士学位論文の執筆ができるようになるため、関連論文を複数読んでおくことなど、日頃から準備しておく(目安 1時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

以下の基準に従って総合的に評価する。

- ・学術的に見て、研究内容が妥当であるか。(内容)
- ・研究内容について主体的に滞りなく進められているか。(進捗)
- ・研究内容を他者へわかりやすく説明できているか。(学内外での発表、発表資料、報告書の作成等)
- ・研究内容についてのディスカッションができ、意見交換ができているか。(討論)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指定する。

#### ◆参考図書◆

適宜指定する。

#### ◆留意事項◆

グループレッスンにするか、あるいは個人レッスンに分割するかは、相談の上決定する。関連技術の調査のために、学外での学会に参加し聴講することがある。また、自らの研究成果を学外の学会で発表をすることがある。日常の連絡等において、Zoom, Slack, Google Drive, Google Calendar等のグループウェアを用いる。

ナンバリング	MWL709N		
科目名	音楽療法演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文の作成へ向けて、個々のテーマに基づいた研究目的、方法等の設定及び具体的な進め方について把握する。必要に応じて扱う事例の計画及び倫理的手続きにも着手する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション
- 2)研究目的・方法の確認
- 3)最新の研究動向の確認
- 4)研究における倫理的手続きの確認
- 5)研究における仮説の設定および検証法の確認
- 6)研究における仮説の設定および検証法の洗練化
- 7)先行研究の読み込み(概観)
- 8)先行研究の読み込み(精読)
- 9)7～8のまとめ
- 10)事例や臨床エピソードの計画
- 11)事例や臨床エピソードの準備
- 12)10～11のまとめ
- 13)論文の章立てや全体構成の検討
- 14)前期末における全体構成の吟味
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマに即して、学習や作業を進める。(週8時間程度) 研究の概要を自分なりにまとめる。先行研究を揃え、読み始める。各自の臨床現場を設定し、可能なら実践を開始しておく。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜、授業内で指示する

#### ◆参考図書◆

適宜、授業内で指示する

#### ◆留意事項◆

臨床現場においては、音楽療法士の倫理を遵守する

ナンバリング	MWL710N		
科目名	音楽療法演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

個々のテーマに基づいて修士論文作成のプロセスを進め、全体の構成を整えることができる。必要に応じて扱う事例の実践および検討を進める。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション
- 2)研究目的・方法の再確認
- 3)最新の研究動向の再確認
- 4)研究における倫理的配慮の再確認
- 5)研究における仮説の設定および検証法の再確認
- 6)研究における仮説の設定および検証法の洗練化
- 7)先行研究の読み込み(概観)
- 8)先行研究の読み込み(精読)
- 9)7～8のまとめ
- 10)事例や臨床エピソードの整理
- 11)事例や臨床エピソードの検討
- 12)11～12のまとめ
- 13)論文の章立てや全体構成の検討
- 14)後期末における全体構成の吟味
- 15)論文構想の発表会

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマに即して、学習や作業を進める。(週5時間程度) 研究概要のまとめを洗練する。先行研究を読み進め、さらに検索する。各自の臨床現場において、実践および検討を進める。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜、授業内で指示

#### ◆参考図書◆

適宜、授業内で指示

#### ◆留意事項◆

臨床現場においては、音楽療法士の倫理を遵守する

ナンバリング	MWL711N		
科目名	音楽療法演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション
- 2)研究テーマの確認
- 3)先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4)実践調査データの整理
- 5)実践調査データの検討
- 6)実践調査データの理論的考察
- 7)実践調査プロセスの内省
- 8)自身の研究状況のまとめ
- 9) 研究テーマの再確認
- 10)研究目的の再確認
- 11)研究方法の再確認
- 12)中間発表の準備
- 13)中間発表の予行
- 14)中間発表
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。(週5時間程度) 実践調査の経過および結果をまとめる。論文構想を完成し、執筆を開始する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内評価

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜、授業内で指示する

#### ◆参考図書◆

適宜、授業内で指示する

#### ◆留意事項◆

臨床現場および研究過程においては、音楽療法士の倫理を遵守する

ナンバリング	MWL712N		
科目名	音楽療法演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

◆授業目標◆

修士論文を完成し、提出する。

◆授業内容・計画◆

- 1) 全体計画の確認
- 2) 第1章の執筆
- 3) 第2章の執筆
- 4) 第3章の執筆
- 5) 第4章の執筆
- 6) 書式等の確認
- 7) 第1章の再検討
- 8) 第2章の再検討
- 9) 第3章の再検討
- 10) 第4章の再検討
- 11) 文献表の作成
- 12) 要旨の作成
- 13) プレゼンテーション資料の作成
- 14) 読み原稿の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

授業内評価

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜、授業内で指示する

◆参考図書◆

適宜、授業内で指示する

◆留意事項◆

臨床現場および研究過程においては、音楽療法士の倫理を遵守する

ナンバリング	MWL713U		
科目名	音楽学研究法 I		
科目詳細	学部「音楽情報研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミ I」との合同授業が1回入ります。それ以外の回では、修士1～2年生と学部4年生が持ち回りで発表を行います。発表内容は、各自の関心にもとづいて進めている研究の途中経過報告です。発表者は、指導教員の指導を受けながら準備を進め、読み上げ原稿と配付資料(+パワポ資料任意)を用意して下さい。聴き手は、質疑応答時間に積極的に質問やコメントをしましょう。

#### ◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1)4/14 オリエンテーション、研究発表1
- 2)4/28 研究発表2
- 3)5/19 研究発表3
- 4)6/2 研究発表4
- 5)6/16 総合ゼミ I との合同授業①:ゲスト講師によるお話
- 6)6/30 研究発表5
- 7)7/14 研究発表6

#### ◆準備学習の内容◆

発表者は、レジュメ(読み上げ原稿そのままではなく、発表概要をまとめたもの)を準備する。また、声に出して読み上げ練習をし、割当時間内に発表を終えられるように調整する。発表者が準備にかかる時間は、30時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容と討論への参加度を総合的に評価します。発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MWL714U		
科目名	音楽学研究法Ⅱ		
科目詳細	学部「音楽情報研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅡ」との合同授業が2回入ります。

第2回は、学部3年生による卒業研究プロスペクト(卒業研究のテーマや内容についての見通し)の発表です。

その他の回は、修士論文、および卒業研究の中間発表です。

中間発表は、完成作の全体像を示しつつ、それまでに仕上がった部分、とりわけ完成作の要点となる部分について詳しく論じる(あるいは報告する)ものです。1月の完成に向けて軌道修正したり、欠陥を補ったりするために行います。

次年度、自分が発表する番になることを意識して、発表方法や質疑応答の仕方について注意深く観察し学びましょう。

また、積極的に発表内容に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1)9/8 総合ゼミⅡとの合同授業①:ゲスト講師によるお話
- 2)9/22 3年生による卒業研究プロスペクト
- 3)10/6 研究発表1
- 4)10/20 総合ゼミⅡとの合同授業②:ゲスト講師によるお話
- 5)11/10 研究発表2
- 6)12/8 研究発表3
- 7)12/22 研究発表4

#### ◆準備学習の内容◆

学期末レポートに向け、聴いた発表のいずれかについて独自にさらなる調査・考察を進める(週1時間程度)。

#### ◆成績評価の方法◆

学期末レポートと討論への参加度を総合的に評価します。

発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MWL715U		
科目名	音楽学研究法Ⅲ		
科目詳細	学部「音楽情報研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅠ」との合同授業が1回入ります。それ以外の回では、修士1～2年生と学部4年生が持ち回りで発表を行います。発表内容は、各自の関心にもとづいて進めている研究の途中経過報告です。発表者は、指導教員の指導を受けながら準備を進め、読み上げ原稿と配付資料(+パワポ資料任意)を用意して下さい。聴き手は、質疑応答時間に積極的に質問やコメントをしましょう。

#### ◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1)4/14 オリエンテーション、研究発表1
- 2)4/28 研究発表2
- 3)5/19 研究発表3
- 4)6/2 研究発表4
- 5)6/16 総合ゼミⅠとの合同授業①:ゲスト講師によるお話
- 6)6/30 研究発表5
- 7)7/14 研究発表6

#### ◆準備学習の内容◆

発表者は、レジュメ(読み上げ原稿そのままではなく、発表概要をまとめたもの)を準備する。また、声に出して読み上げ練習をし、割当時間内に発表を終えられるように調整する。発表者が準備にかかる時間は、30時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容と討論への参加度を総合的に評価します。発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MWL716U		
科目名	音楽学研究法Ⅳ		
科目詳細	学部「音楽情報研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	2年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅡ」との合同授業が2回入ります。

第2回は、学部3年生による卒業研究プロスペクト(卒業研究のテーマや内容についての見通し)の発表です。

その他の回は、修士論文、および卒業研究の中間発表です。中間発表は、完成作の全体像を示しつつ、それまでに仕上がった部分、とりわけ完成作の要点となる部分について詳しく論じる(あるいは報告する)ものです。1月の完成に向けて軌道修正したり、欠陥を補ったりするために行います。

発表者は、指導教員の指導を受けながら準備を進め、読み上げ原稿と配付資料(+パワポ資料任意)を用意して下さい。

聴き手は、積極的に発表内容に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

#### ◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1)9/8 総合ゼミⅡとの合同授業①:ゲスト講師によるお話
- 2)9/22 3年生による卒業研究プロスペクト
- 3)10/6 研究発表1
- 4)10/20 総合ゼミⅡとの合同授業②:ゲスト講師によるお話
- 5)11/10 研究発表2
- 6)12/8 研究発表3
- 7)12/22 研究発表4

#### ◆準備学習の内容◆

発表者は、レジュメ(読み上げ原稿そのままではなく、発表概要をまとめたもの)を準備する。

また、声に出して読み上げ練習をし、割当時間内に発表を終えられるように調整する。

発表者が準備にかかる時間は30時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

発表内容と討論への参加度を総合的に評価します。

発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MWL718U		
科目名	音楽美学研究B		
科目詳細	博士「音楽美学特講B」と合同		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽の哲学的問題を考えるうえでの思考の枠組みを修得し、具体的事例を深く考察できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

美学の基礎概念を、音楽との関連においてとりあげる。  
 「象徴」「美的価値」「美的態度」「趣味」の四概念を扱う予定。  
 画像や音源を活用し、可能な限り具体的な次元からも話を展開する。

- 1.「象徴」①その定義
- 2.「象徴」②象徴とアレゴリー(美術史における)
- 3.「象徴」③象徴主義芸術(文学および美術)
- 4.「象徴」④音楽における象徴
- 5.「美的価値」①その定義
- 6.「美的価値」②模作、贋作に価値はあるか
- 7.「美的価値」③善美
- 8.「美的態度」①無関心性
- 9.「美的態度」②唯美主義
- 10.「美的態度」③音楽における例
- 11.「趣味」①美学における趣味概念について
- 12.「趣味」②趣味概念の歴史
- 13.「趣味」③音楽とグルメ
- 14.「趣味」④音楽における○○趣味
- 15.まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、応用的なコメントペーパーを「宿題」として出す。次週の初めにそれをクラスで発表してもらう。その準備に週3時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

課題への取組みによる。フィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

『美学辞典』佐々木健一(東京大学出版会)1995年。  
 『精神と音楽の交響 西洋音楽美学の流れ』今道友信(編)(音楽之友社)1997年。

#### ◆留意事項◆

出席および議論への参加度を重視します。

ナンバリング	MWL721U		
科目名	西洋音楽史研究A		
科目詳細	博士「西洋音楽史特講A」と合同		
担当教員	安田 和信		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

西洋の楽器の歴史と作曲家・作品との関連を理解する

#### ◆授業内容・計画◆

西洋音楽で用いられる楽器は時代によって構造や仕様が変化(あえて「進歩」とは言わない)してきた。作曲家たちは当然のことながら同時代の楽器の構造などが持つ特性に従って自作で使用してきたと言って良いだろう。この授業ではそのような楽器と作曲家・作品の関連を探りながら、「その作品がなぜそのように書かれたのか」ということの一部を考えていく。原則として教員の講義で進めるが、履修者によるプレゼンテーションも部分的に取り入れる予定である。

1. イントロダクション(楽器の歴史と作品の関係についての総論)
2. ベートーヴェンとピアノ
3. バッハとトランペット
4. ハイドンとフンメルのトランペット協奏曲
5. モーツァルトのクラリネット協奏曲
6. シューマンとホルン
7. 18世紀後半から19世紀末にかけてのティンパニの使用法
8. リストが所有していたピアノ
9. 19世紀のピアノとペダル
10. 足鍵盤付きピアノの系譜
11. 弦楽器とスコルダトゥーラ
12. ヴィオロンチェッロ・ピッコロ、ヴィオロンチェッロ・ダ・スパツラ
13. カストラートと現代における「復興」
14. コントラバスの変遷
15. まとめ(楽器と作品の関係の研究を深めるために)

#### ◆準備学習の内容◆

次回で取り上げる作曲家や楽器について基本的な情報を消化しておくこと(約60分)

#### ◆成績評価の方法◆

期末レポート(70%)と授業に取り組む姿勢(30%)  
 授業中に教員から多くの問いかけ、質問を実施するので、積極的に答えること。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

毎回、資料を配布する。

#### ◆参考図書◆

『ニューグローヴ世界音楽大事典』(講談社)所収の、本授業で扱う作曲家や楽器についての項目。  
 他の文献に関しては、当該授業に関連するものを授業で紹介する。

#### ◆留意事項◆

授業を受けるにあたっては、テーマとなる作曲家や楽器の知識が非常に重要であり、しっかりとした予習をすることが求められる。

ナンバリング	MWL723U		
科目名	アジア音楽史研究A		
科目詳細			
担当教員	伏木 香織		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

アジア地域の音楽・舞踊・芸能はどのように日本に伝えられていたのか。本授業では1945年の終戦までの間に、日本ではどのようにアジア地域の音楽や舞踊、諸芸能が伝えられ、人々の憧れを醸成していたのかを一次資料(史料)を探索しながら探る。

#### ◆授業内容・計画◆

第二次世界大戦当時、南方戦線への慰問団に参加した文化人たちの中にはアジア地域の音楽や芸能の知識を得て、それを見たり学んだりすることを期待して参加していたものもいた。古関裕而などはその代表的なひとりである。本講義では、1945年以前に発行された諸文献などを手がかりとしながら、当時、どのような研究書が参照されていたのかを明らかにするとともに、国立国会図書館デジタルコレクションに収められている一次資料(史料)の内容とその背景を分析する。

【1回】イントロダクション(授業の進め方の説明と学習計画の立案)

国立国会図書館デジタルコレクションの使用方案内

【2回】南方への憧れ～戦前の日本におけるアジア諸地域に対するイメージ(講義)

【3回】史料探索ガイダンス(実習)

書籍検索と文献リストの作成方法ガイダンス

【4回】史料探索(実習・グループワーク)(1):「ジャワ」

【5回】史料探索(実習・グループワーク)(2):「マラヤ」

【6回】史料探索(実習・グループワーク)(3):「ビルマ」

【7回】文献リスト発表と一次資料選択(発表・グループワーク)

【8回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(1):松原晩香『南方の芝居と音楽』誠美書閣、1943年

【9回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(2):小澤愛国『世界各国の人形劇』慶應出版社、昭和18年

【10回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(3):田邊尚雄『大東亜と音楽』教學局、1942年

【11回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(4):田邊尚雄『南洋・台湾・沖縄紀行』音楽之友社、1943年

【12回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(5):印南高一『支那の影絵芝居』玄光社、1944年

【13回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(6):中西武夫 訳編『東亜の舞踊』教育図書、1943年

【14回】史料分析実習～史料分析と受講生による発表(7):村上清『南洋民族性の観察 馬來民謡:附・瓜哇影絵』、正々堂、1933年

【15回】総合討論

#### ◆準備学習の内容◆

本授業は、第3回以降は演習形式で実施する。授業内実習としてPCあるいはタブレット等を用いた検索、講読を行う。ただし史料の読み込みは各自で事前に行っておくこと。また史料探索はグループワークで行うが、発表資料は事前にグループ内で協力して作成しておくこと。また史料分析は個人ワークとなるが、一次資料(史料)を分析的に読みながら、発表日までにレジュメを作成しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

口頭発表(史料探索報告、史料分析報告)、文献リストの作成・提出、史料分析の発表レジュメの提出は必須。これらに加えて学期末レポートを成績評価の対象とする。なおレポートは各自の発表内容(史料分析報告)に基づいたものとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特になし。国立国会図書館デジタルコレクションを使用するので、初回のガイダンスの後、各自で利用登録をすること。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MWL727U		
科目名	楽器学研究A		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

この授業では楽器学研究の一端を担う音響分析に関する技術を習得する。簡単なプログラムコードを自ら設計し、動作させることができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

1. はじめに 楽器学研究の歴史
2. pythonの基礎1 インストールと起動
3. pythonの基礎2 コマンドとchatgptの利用
4. ADSR分析1
5. ADSR分析2 合成
6. 倍音分析1
7. 倍音分析2 合成
8. MDSによる可視化
9. 収録1
10. 収録2
11. ADSRと倍音の取得
12. 可視化と考察
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーションとディスカッション
15. まとめとフィードバック

#### ◆準備学習の内容◆

教科書の内容を自習し、基本プログラミングを自分で入力し、動きを確かめておくこと(目安1.5時間)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと毎回のレスポンスシート、課されたレポートの実施状況などを総合的に評価する。フィードバックは授業内において毎回行なう。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、適宜参考図書を提示する。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。教室のパソコンが使えるものの、パソコンを自分で準備することを強く薦める。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明するため、Macを使っている人は自分で問題解決をする必要がある。プログラミング言語「python」を使うため、あらかじめ自学自習が望ましい(<https://www.python.jp/train/index.html> の内容を理解しておくことが望ましい)。

ナンバリング	MWL728U		
科目名	楽器学研究B		
科目詳細	2名の教員が担当する		
担当教員	早稲田 みな子, 前島 美保		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	ティプロマポリシーとの関連: 1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

1. 楽器学について概要を理解する。2. 楽器に関する各種の研究手法、および適切な文献を利用する方法を知る。3. 楽器学の用語と分析方法により楽器について論述できる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽活動にとって楽器は不可欠の存在といつてよい。楽器は人間の日々の営みと深く結びつき、社会における様々な局面で親しまれている。そして楽器の世界は驚くほど多様である。本講義においては、楽器の多様な世界を垣間見ることを通して、それらの楽器を研究するということはどういうことか、概要を知ることがを目標とし、最終的には各種の楽器について論述する基礎的な視点を習得することを目指す。

前半7回は早稲田が、後半6回は前島が担当する。

前半では、アジア以外の地域の多様な楽器、後半では、日本を中心とするアジアの楽器を扱う。

1～7回: 早稲田担当

1. 導入
2. 楽器学の歴史
3. 楽器学の対象と方法1: 歴史的な研究
4. 楽器学の対象と方法2: 民族学的・社会的な研究
5. 楽器学の研究事例1: ヨーロッパ
6. 楽器学の研究事例2: その他の地域
7. 受講生の発表1

8～13回: 前島担当

8. 日本音楽と楽器学
9. 日本音楽に関する楽器研究史1: 近世以前
10. 日本音楽に関する楽器研究史2: 近現代
11. 日本音楽に関する楽器研究の事例1: 考古学的な研究
12. 日本音楽に関する楽器研究の事例2: その他
13. 受講生の発表2
14. 受講生の発表3
15. 総まとめ

進捗状況等により、内容や順番は適宜変更することがあります。

#### ◆準備学習の内容◆

配布資料を参考に、キーワードやわからない用語を文献やインターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安30分)。

第7回と第13-14回での発表にむけて、授業を参考にしつつ各自のテーマについて調査・研究をすすめ、発表原稿、レジュメ、必要に応じてパワーポイント資料を用意する(目安、一つの発表につき5時間程度)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および2回の発表とそのレジュメを総合して評価する。発表とレジュメについては、授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MWL729U		
科目名	楽器音響学研究A		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

演奏音の音響について着目し、科学的な研究手法に基づいた先行研究とその分析法を学び、理解できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

受講者の興味に合わせて適宜内容を変更し、フィードバックを行なう。以下は一例である。

- 1.ガイダンス
- 2.音響解析の基礎
- 3.Octaveを用いた波形処理(1) 導入
- 4.Octaveを用いた波形処理(2) 基礎操作
- 5.Octaveを用いた波形処理(3) 波形入力
- 6.Octaveを用いた波形処理(4) 分析
- 7.Octaveを用いた波形処理(5) 課題提示
- 8.Octaveを用いた波形処理(5) 課題実施
9. 討論
- 10.楽器音解析による演奏特徴解析法1 ~ピアノ~
- 11.楽器音解析による演奏特徴解析法2 ~バイオリン~
- 12.楽器音解析による演奏特徴解析法3 ~打楽器~
- 13.ディスカッション
- 14.全体討論
- 15.まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、先行研究に対する理解と考察およびそれらに対するフィードバックを通して総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

パソコンが必要となる。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。学会の聴講を行なう場合がある。

ナンバリング	MWL730U		
科目名	楽器音響学研究B		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

演奏のMIDI記録と演奏時の生体情報を取り上げ、科学的な研究手法に基づく先行研究とその分析法を学び、理解できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

受講者の興味に合わせて適宜内容を変更し、フィードバックを行なう。以下は一例である。

- 1.ガイダンス
- 2.概要
- 3.MIDI分析に基づく研究1 ~ピアノ演奏解析~
- 4.MIDI分析に基づく研究2 ~演奏特徴の強調処理~
- 5.MIDI分析に基づく研究3 ~ギター演奏の特徴解析~
- 6.ディスカッション
- 7.まとめ
- 8.生体信号の概要
- 9.脳波と心拍の概要
- 10.心拍計測による研究1 ~心理状態と心拍の関係~
- 11.心拍計測による研究2 ~音楽聴取時の心拍記録~
- 12.脳波計測による研究1 ~ $\alpha$ 波,  $\beta$ 波, ガンマ波の理解~
- 13.脳波計測による研究2 ~MMNを用いた研究~
- 14.ディスカッション
- 15.まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、先行研究に対する理解と考察およびそれらに対するフィードバックを通して総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

パソコンが必要となる。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。学会の聴講を行なう場合がある。

ナンバリング	MWL731N		
科目名	音楽療法特論 I		
科目詳細			
担当教員	三宅 博子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽療法の世界への入門として、この分野の総論的内容を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

講義中に、演習やグループ学習を適宜取り入れる。

- 1.イントロダクション 音楽療法とは？
- 2.音楽療法の概要
- 3.音楽療法の定義
- 4.音楽療法の歴史
- 5.音楽療法の対象領域
- 6.音楽療法の実際①実践のプロセス
- 7.音楽療法の実際②音楽活動の体験
- 8.音楽療法における〈健康〉の概念
- 9.音楽療法における〈音楽〉の概念
- 10.音楽の機能とアプローチ①心、身体、社会
- 11.音楽の機能とアプローチ②グループ発表
- 12.音楽療法の背景理論とアプローチ①身体へのアプローチ
- 13.音楽療法の背景理論とアプローチ②心理療法的アプローチ
- 14.音楽療法の背景理論とアプローチ④教育的・社会的アプローチ
- 15.まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

配布資料や紹介する参考図書を事前に読んでおく。講義中に紹介する資料、活動、展覧会、コンサートなどがあれば、出来るだけ触れてみる。講義で扱った事柄に興味関心のあることについて、さらに調べる。(目安1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよびレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する。

#### ◆参考図書◆

- 『音楽療法入門—理論と実践 I～III』、デイビス、グフェラー、タウト編、一麦出版社  
『音楽療法を知る—その理論と技法』宮本啓子、二俣泉編、杏林書院  
『音楽療法を定義する』ブルシア、東海大学出版会  
『子どもの音楽療法ハンドブック』若尾裕他 音楽之友社  
『ケースに学ぶ音楽療法 I・II』阪上正巳・岡崎香奈編 岩崎学術出版社

他、授業内で指示

#### ◆留意事項◆

本科目は、修士課程で日本音楽療法学会認定音楽療法士の受験資格取得を目指す学生のために、「音楽療法講義 I」と同内容にて行う。

各回の内容および進め方は、履修者の興味関心に応じて柔軟に変更する。

授業内で演習やグループ学習を行うことがあるため、出席をこころがけてください。

ナンバリング	MWL732N		
科目名	音楽療法特論Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	三宅 博子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽療法における基礎的な考え方や実践について、障害とコミュニティ音楽療法を主な対象領域とし、その概要を学ぶ。具体的には、①障害のある人との音楽療法について、障害の多面的理解・実践の詳細・障害と表現をめぐる問題などを理解する②コミュニティ音楽療法について、基本的な考え方や実践例を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

講義中に、演習やグループ学習を適宜取り入れる。

- 1.イントロダクション
- 2.障害と表現
- 3.知的発達障害のある人との音楽療法
- 4.発達支援の音楽療法
- 5.自閉スペクトラム症の音楽療法
- 6.神経学的多様性と音楽療法
- 7.脳血管障害後遺症と音楽療法
- 8.中間まとめ
- 9.障害学と音楽療法
- 10.障害と表現を巡る対話的な音楽実践
- 11.コミュニティ音楽療法①理論的背景
- 12.コミュニティ音楽療法②実践例
- 13.コミュニティ音楽療法③社会課題と向き合う音楽療法の企画
- 14.コミュニティ音楽療法④社会課題と向き合う音楽活動の企画発表
- 15.まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

配布資料や紹介する参考図書を事前に読んでおく。講義中に紹介する資料、活動、展覧会、コンサートなどがあれば、出来るだけ触れてみる。講義で扱った事柄で興味関心のあることについて、さらに調べる。(目安1時間)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよびレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜、授業内で指示する

#### ◆参考図書◆

- 『音楽で育てよう:子どものコミュニケーション・スキル』二俣泉、鈴木涼子(春秋社)  
『子どもの世界をよみとく音楽療法:特別支援教育の発達の視点を踏まえて』、加藤博之(明治図書)  
『実践:発達障害児のための音楽療法』ボクシル(人間と歴史社)  
『コミュニティ音楽療法への招待』スティーゲ、オーロ編(風間書房)  
『文化中心音楽療法』スティーゲ(音楽之友社)

他、授業内で指示

#### ◆留意事項◆

本科目は、修士課程で日本音楽療法学会認定音楽療法士の受験資格取得を目指す学生のために、「音楽療法講義Ⅱ」と同内容にて行う。

各回の内容および進め方は、履修者の興味関心に応じて柔軟に変更する。  
授業内で演習やグループ学習を行うことがあるため、出席をこころがけてください。

ナンバリング	MWL733N		
科目名	音楽療法特論Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	岡崎 香奈		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽療法の様々な理論と技法を理解し、その学術的および臨床的意義と役割を説明できる。

#### ◆授業内容・計画◆

様々なニーズを抱えるクライアントを対象した音楽実践例を紹介し、音楽の臨床的作用を探る。次のようなトピックスについて、講義および演習を行う。特に音楽中心音楽療法の理論と実践について検証し、国内外における最新の音楽療法の動向を紹介する。

1. オリエンテーション
2. ストレスと音楽
3. 認知症高齢者対象の音楽療法の理論
4. 認知症高齢者対象の音楽療法の実践
5. 脳梗塞後遺症患者の音楽療法の理論
6. 脳梗塞後遺症患者の音楽療法の実践
7. 終末期ケアにおける音楽療法の理論
8. 終末期ケアにおける音楽療法の実践
9. 精神障害者対象の音楽療法の理論
10. 精神障害者対象の音楽療法の実践
11. 東日本大震災後の被災者対象の音楽療法の理論と実践
12. 音楽療法における倫理
13. 音楽療法士のコンピテンシー(職業能力)について
14. 音楽療法の臨床的作用とセッションにおける実践技法
15. まとめ・試験

#### ◆準備学習の内容◆

事前事後学習は60分間を目安とする。授業前には必ず関連文献(授業内で指示)を講読し、授業後に振り返りの感想を書くこと(理論と実践を統合することでより理解を深めるため、一定の時間が必要である)。目安時間は、予習30分、復習30分

#### ◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験。  
適宜授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する。

#### ◆参考図書◆

- 『音楽療法事典・新訂版』デッカー＝フォイクト、他著、阪上正巳、他訳(人間と歴史社)  
『精神の病いと音楽－スキゾフレニア・生命・自然－』阪上正巳(廣済堂出版)  
『音楽療法と精神医学』阪上正巳(人間と歴史社)  
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編著(岩崎学術出版社)  
『音楽療法の現在』国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編(人間と歴史社)  
『文化中心音楽療法』B.スティーゲ著、阪上正巳監訳(音楽之友社)  
『芸術療法実践講座4 音楽療法』飯森真喜雄・阪上正巳編 岡崎香奈ほか著(岩崎学術出版社)

#### ◆留意事項◆

積極的に質問や討論を行うこと。  
本授業では、国内外の音楽療法実践映像を紹介するため、録音録画は不可。

ナンバリング	MWL734N		
科目名	音楽療法特論Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	岡崎 香奈		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽療法の様々な理論と技法を理解し、その学術的および臨床的意義と役割を説明できる。

#### ◆授業内容・計画◆

様々なニーズを抱える児童・成人を対象した音楽実践例を紹介し、発達と音楽の関係性を探る。次のようなトピックスについて、講義および演習を行う。特に音楽中心音楽療法の理論と実践について検証し、国内外における最新の音楽療法の動向を紹介する。

1. オリエンテーション:発達と音楽
2. 自閉症児対象の音楽療法の理論
3. 自閉症児対象の音楽療法の実践
4. 肢体不自由児対象の音楽療法の理論
5. 肢体不自由児対象の音楽療法の実践
6. 知的障害児対象の音楽療法の理論
7. 知的障害児対象の音楽療法の実践
8. 青少年対象の音楽療法の理論
9. 青少年対象の音楽療法の実践
10. ノードフ・ロビンズ音楽療法アプローチの理論
11. ノードフ・ロビンズ音楽療法アプローチの実践
12. 集団音楽療法の理論
13. 集団音楽療法の実践
14. 不登校児の音楽療法理論と実践
15. まとめ・試験

#### ◆準備学習の内容◆

事前事後学習は60分間を目安とする。授業前には必ず関連文献(授業内で指示)を講読し、授業後に振り返りの感想を書くこと(理論と実践を統合することでより理解を深めるため、一定の時間が必要である)。目安時間は、予習30分、復習30分

#### ◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験。  
適宜授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する。

#### ◆参考図書◆

- 『音楽療法事典・新訂版』デッカー＝フォイクト、他著、阪上正巳、他訳(人間と歴史社)  
『精神の病いと音楽－スキゾフレニア・生命・自然－』阪上正巳(廣済堂出版)  
『音楽療法と精神医学』阪上正巳(人間と歴史社)  
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編著(岩崎学術出版社)  
『音楽療法の現在』国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編(人間と歴史社)  
『文化中心音楽療法』B.スティーゲ著、阪上正巳監訳(音楽之友社)  
『芸術療法実践講座4 音楽療法』飯森真喜雄・阪上正巳編 岡崎香奈ほか著(岩崎学術出版社)

#### ◆留意事項◆

積極的に質問や討論を行うこと。  
本授業では、国内外の音楽療法実践映像を紹介するため、録音録画は不可。

ナンバリング	MWL742U		
科目名	音楽民族学研究B		
科目詳細	博士「音楽民族学特講B」と合同		
担当教員	植村 幸生		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

題目「民謡と民謡論の現在」。民謡とは何か、民謡の担い手は誰か、民謡はどのように存在しているか、民謡は社会とどのような関係をもつか、民謡と他ジャンルの音楽との関係はいかなるものか、民謡はどのように論じられ理解されてきたか、そして民謡に将来はあるか。こうした問題を、近年の研究成果を参照しながら主体的に議論することで、民族音楽学の基本的な思考方法を身につけることを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス:この授業の進め方
2. 総論:民謡という問題系(講義)
3. 民謡の存在論(1)概念と定義
4. 民謡の存在論(2)担い手と演唱の場
5. 民謡の存在論(3)伝播・変容・再創造
6. 民謡の存在論(4)真正性と「正調」
7. メディアと民謡(1)記録・収集・分類
8. メディアと民謡(2)舞台化と芸能化
9. メディアと民謡(3)レコードと放送
10. メディアと民謡(4)学校教育との関わり
11. 編曲と創作の位相(1)ポピュラー音楽、新民謡
12. 編曲と創作の位相(2)「芸術音楽」と民謡の相互交渉
13. 民謡の政治学(1)社会運動と民謡
14. 民謡の政治学(2)文化政策と民謡
15. 総括と展望(ディスカッション)

#### ◆準備学習の内容◆

第3回～第14回は受講者による発表とする。受講者は、各回の授業計画に示された題目に即して、指定された割り当て文献の報告、もしくは個人の研究関心に基づく自由発表を行う。準備時間は、文献報告では週に3～4時間、自由発表では週に5～6時間程度を要すると見込まれる。発表の回数は受講者数により変動するが、仮に4名とすれば各人3回程度となる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表に対して、文献等の理解度、資料等の提示方法、構成、書式などの観点から講評にあたるコメントを述べ、あわせて補足説明、関連情報の提供を行う。さらに内容に基づく期末レポートにより総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特定の教科書は用いないが、下記の参考書および関連文献を講読対象として指定する。それ以外に受講者が自発的に選択してきてもよい。

#### ◆参考図書◆

『民謡からみた世界音楽:うたの地脈を探る』細川周平編著(ミネルヴァ書房、2012年)  
 『民謡とは何か』島添貴美子(音楽之友社、2021年)  
 Folk Music: A Very Short Introduction. Slobin, Mark (Oxford University Press, 2011)  
 The Study of Folk Music in the Modern World. Bohlman, Philip (Indiana University Press, 1988)  
 その他多数あり。授業中に紹介する。

#### ◆留意事項◆

主体的、積極的な受講を期待します。

ナンバリング	MW743N		
科目名	演奏科学研究 I		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,4,5 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽を主観的または経験的な基準だけでなく、客観的かつ体系的に研究ができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽情報を研究するには、演奏音や音楽情報の収録や測定といった実験や実測が必要となる。本授業では、音楽情報を対象とした科学的・実験的な検証方法の基礎を学ぶ。□

- 
- 1.ガイダンス□
  - 2.演奏科学とは 音楽の科学研究に向けた準備□
  - 3.研究倫理□
  - 4.グラフの書き方, 集計報告□
  - 5.個人情報保護, 情報セキュリティ□
  - 6.グループディスカッション□
  - 7.Rの基礎□
  - 8.統計基礎 平均, 分散□
  - 9.統計基礎 相関係数, 共分散□
  - 10.統計的仮説検定□
  - 11.t検定, 分散分析□
  - 12.実験計画と実施□
  - 13.分析□
  - 14.全体ディスカッション□
  - 15.まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業の前半は事前に関連するキーワードを自分で調べて理解を深める必要がある(授業前に実施。目安は1.5時間)。また授業の後半は教科書に沿って進める。教科書の内容をよく読み、予習をしてから授業に取り組む必要がある。(目安 授業前に1.5時間)。また毎回の授業の後に内容を復習し体得する必要がある(目安1.5時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎, Rによるやさしい統計学, オーム社(2008)。978-4274067105 2700+TAX

#### ◆参考図書◆

授業において適宜紹介する。

#### ◆留意事項◆

演奏科学研究 I で学んだ基礎を、実際に演奏科学研究 II で実践的に学ぶことができる。さらに修士課題研究において科学的・実験的な取り組みを行いたい場合は、この授業を通してその基礎を学ぶことができる。

ナンバリング	MW744N		
科目名	演奏科学研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,4,5  1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽を主観的または経験的な基準だけでなく、客観的かつ体系的に研究ができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽情報を研究するには、演奏音や音楽情報の収録や測定といった実験や実測が必要となる。本授業では、音楽情報を対象とした科学的・実験的な検証方法の基礎を学ぶ。実験対象としては、例えば演奏音の音響信号、歌詞や文章などの日本語、行動実験による心理実験データ、楽譜の情報、楽器やレコードジャケットなどの音楽に関する画像情報などが可能である。□

□

- 1.ガイダンス□
- 2.実験計画□
- 3.収録実験の準備□
- 4.収録実験1 機器の設置と準備□
- 5.収録実験2 実験参加者へのインストラクションと実施□
- 6.収録実験3 記録結果の確認□
- 7.評価実験の準備□
- 8.評価実験の実施1 入力の準備□
- 9.評価実験の実施2 実施とフィードバック□
- 10.分析1 グラフ化□
- 11.分析2 統計的検定□
- 12.分析3 報告書の執筆□
- 13.グループディスカッション□
- 14.全体討論□
- 15.まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業の全体構成として、収録実験、評価実験、分析などを行なうため、事前の予習と復習が不可欠である(いずれも目安として1.5時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

難波精一郎, 桑野園子著, 「音の評価のための心理学的測定法」, コロナ社(1998)

#### ◆参考図書◆

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎, Rによるやさしい統計学, オーム社(2008)。978-4274067105 2700+TAX

#### ◆留意事項◆

演奏科学研究Ⅰで学んだ基礎を、実際に演奏科学研究Ⅱで実践的に学ぶことができる。さらに修士課題研究において科学的・実験的な取り組みを行いたい場合は、この授業を通してその実現可能性について考察できる。

ナンバリング	MGL705N		
科目名	指導法		
科目詳細			
担当教員	神部 智		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。課題研究報告、修士論文の作成に向け、研究論文執筆における学術的アプローチの方法やルールを習得する。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な事案とその意味について学ぶ。  
また、学術的研究を進めるための基本を習得する。  
主な内容は次の通り。

- 1)オリエンテーション
- 2)TAの心構えと役割
- 3)研究を始めるにあたって
- 4)研究者が守るべき倫理
- 5)研究題目に沿った資料調査の方法
- 5)研究対象について
- 6)学術論文とは何か
- 7)論文の執筆について
- 8)章立ての仕方
- 9)引用の方法
- 10)グループAによる発表
- 11)グループBによる発表
- 12)グループCによる発表
- 13)グループDによる発表
- 14)グループEによる発表
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。  
プレゼンテーションも課す。予習・復習の目安:2時間/週

#### ◆成績評価の方法◆

課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。  
課題等については授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。

ナンバリング	MVS731N		
科目名	舞台表現技術演習(日舞)		
科目詳細			
担当教員	花柳 妙千鶴		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1.4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

- 1、着物の着付け、礼儀作法、基本的所作を学ぶ。
- 2、日本舞踊の基本的な動作を習得することにより、舞台上での身体表現を、より自由に、より豊かにすることを目標とする。
- 3、日本舞踊の実習を通して、的確に役柄を表現する技術を学ぶ。
- 4、舞台の基礎知識と日本の伝統文化の基礎知識を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) \* 授業の進め方 \* 着物の名称、着付け、宣ひ方 \* 挨拶の基本手順の説明と実習 \* 扇の名称と扱い方 \* 作品鑑賞
- 2) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 基本動作(立つ、座る、歩く)の実習 \* 作品習得1 \* 着物の畳み方
- 3) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習1 \* 役柄による基本動作の実習1 \* 作品習得2 \* 着物の畳み方
- 4) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習2 \* 役柄による基本動作の実習2 \* 作品習得3 \* 着物の畳み方 \* 舞踊譜の書き方
- 5) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習3 \* 作品習得4 \* 着物の畳み方 \* 舞台機構の名称ときまり
- 6) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習4 \* 作品習得5
- 7) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習5 \* 作品習得6 \* 小道具の扱い
- 8) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 作品習得7 \* お太鼓の結び方、袴の着付け(男性)1
- 9) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 作品習得8 \* お太鼓の結び方、袴の着付け(男性)2
- 10) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習6 \* 舞台衣装の扱い方 \* 作品習得9
- 11) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 扇の名称と扱い方の練習7 \* 作品習得10
- 12) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 作品習得11(完成度を高める)
- 13) \* 着物着付け \* 扇を使つての挨拶 \* 作品習得12(完成度を高める)
- 14) \* 作品発表

#### ◆準備学習の内容◆

各自、初回授業までに

- 1)ゆかた 2)半幅帯(女性)、角帯(男性)どちらも作り帯でないもの 3)肌じゅばん
- 4)ステテコ(あるいはスバツツ 滑りの良いもの) 5)裾よけ(女性のみ) 6)履ひも3〜4本
- 7)白足袋(男女とも。レース等滑るもの不可。靴のサイズより0.5センチ小さめ)

- 8)胸に巻くタオル(浴用タオルなら2枚 薄手のバスタオルなら1枚)

- 9)稽古用扇子(日本舞踊用のもの。長さ27センチ位のもの。初回授業時に購入も可能¥2000位)10)風呂敷(浴衣一式包める大きさ) 11)筆記用具

以上を準備、持参のこと。

なお、8回目授業以降、なるべくゆかた以外の着付けもしたいので、以下のものを持っている方は持参のこと。(貸し出し可)

- (女性)1)着物 2)お太鼓用帯 3)えり付きじゅばん 4)すそよけ 5)帯枕 6)帯板 7)帯締め

- 8)帯揚げ

- (男性)1)袴

★準備できないもの、質問等、メールにて相談に応じます。

#### ◆成績評価の方法◆

提出物、実技試験により評価。

授業中に常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

実技 日本舞踊の基礎 花柳 千代著

無限といってもよい舞踊の動作の中から、主な基本動作を取り出し、単純化し、系統的にまとめ、用語を整理した本書は、初心者の方の歌舞伎舞踊への理解を助けるために最適な書。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS717U		
科目名	チェンバロ演習		
科目詳細			
担当教員	大塚 直哉		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-005	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	テイフロマボリシーとの関連:1,2,4 1.音楽のみならず文化や芸術に関する、幅広い知識・学識を身につけている/2.説得力のある演奏を行うことができる/3.自己の創作理念・理論による創作ができる/4.自己の演奏や創作について専門的な研究ができる/5.音楽学ならびに音楽教育学の分野において専門的な研究ができる		

#### ◆授業目標◆

チェンバロのためのソロ作品、通奏低音によるアンサンブルの実習を通じて、「ピアノ以前」の豊かな鍵盤奏法の伝統の一端を体験し、各自の専門に生かす引き出しを増やすことを目標とする。□

#### ◆授業内容・計画◆

チェンバロによるバロック期の鍵盤作品および通奏低音の実習を中心とする。  
 (●=チェンバロを学部時代に既習の者、☆=初めてチェンバロを履修する者)

第1回:

- チェンバロのレパートリー概観、レパートリーの相談
- ☆導入、チェンバロの発音の仕組み〜クリーガー「メヌエット」、数字付き低音の基礎(基本位置)

第2回:

- バッハのクラヴィーア作品(①組曲、②フーガを含む作品、③オーケストラ様式の作品の中から各自が選択する)、数字付き低音の復習
- ☆チェンバロのタッチの基礎(当時の鍵盤導入教材から学べる)〜F.クーブラン「プレリュード」、数字付き低音の基礎(第3音の変化)

第3回:

- バッハのクラヴィーア作品その2(第2回の続き)、【通奏低音】テレマンのメトードソナタから
- ☆舞曲を弾く①〜コレット「スペインのフォリア」、数字付き低音の基礎(4-3の進行)

第4回:

- バッハのクラヴィーア作品その3(第3回の続き)、【通奏低音】テレマンの続き
- ☆舞曲を弾く②〜ベッツォールト「メヌエット」、数字付き低音の基礎(パッヘルベルのカノン、4-3の進行、9-8の進行)

第5回:

- バッハのクラヴィーア作品その4(仕上げ)、【通奏低音】テレマン(仕上げ)
- ☆第1〜4回の復習、数字付き低音の基礎ここまでのまとめ

第6回:

- 17〜18世紀フランスのクラヴサン音楽(L.クーブラン、F.クーブラン、ラモらの作品から選択)、【通奏低音】フランスの作品(オテール:組曲、F.クーブランコンセールなど)
- ☆J.S.バッハ「小プレリュード ハ長調」、数字付き低音の基礎(グリーンズリーヴス、六の和音①)

第7回:

- 17〜18世紀フランスのクラヴサン音楽その2(続き)、【通奏低音】フランスの作品(続き)
- ☆J.S.バッハ「インヴェンション第1番」、数字付き低音の基礎(フォリア、六の和音②)

第8回:

- 17〜18世紀フランスのクラヴサン音楽その3(仕上げ)、【通奏低音】フランスの作品(仕上げ)
- ☆フィッシャー「シャコンヌ イ短調」、数字付き低音の基礎(六の和音まとめ)

#### ◆準備学習の内容◆

チェンバロ練習室での十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と試験、ミニコンサートでの演奏を加味して評価する。また各回のレッスンでの演奏に対するコメントのほか、ミニコンサートでの演奏についての講評の時間を設け、各受講生へのフィードバックとする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

大塚直哉編『クラヴィス』(現代ギター社)

#### ◆参考図書◆

渡邊順生「チェンバロ・フォルテピアノ」(東京書籍)□  
 大塚直哉編「リュウ・バロック」(GAKKEN)  
 □

#### ◆留意事項◆

- \* 授業時間以外にチェンバロ練習室に来て練習する時間が、最低でも週2時間は必要となる。そのことに留意して履修すること。
- \* 学生の到達度等を考慮し、学期開始後に各回で取り上げる内容を変更することがある。
- \* 履修者を10名以下に限定する。希望者多数の場合には、鍵盤楽器専攻(ピアノ、オルガン等)生を優先するものとする。

ナンバリング	DDS801N		
科目名	研究指導 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

研究の成果についてコメントする。成績は、積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS802N		
科目名	研究指導Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

研究の成果についてコメントする。成績は、積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS803N		
科目名	研究指導Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS804N		
科目名	研究指導IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS805N		
科目名	研究指導V		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

#### ◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。

#### ◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。

ナンバリング	DDS806N		
科目名	研究指導VI		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3,4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

#### ◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。

#### ◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。

ナンバリング	DDL807N		
科目名	特別総合演習 I		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子, 中田 朱美, 神部 智, 前島 美保, 早稲田 みな子, 三浦 雅展, 塚田 花恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,3,4 1. 自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5. 高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

(1)博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、適切な研究発表ができる。(2)教員を含む参加者全体によるディスカッションを通して、個々の発表内容や発表方法について客観的に評価できる。(3)他者の研究にも積極的に関与し、自己の視野を広げると共に、指導者として必須の「意見力」を将来の職を見すえて養う。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・授業は隔週に設定されます。
  - ・授業は原則として学生および研究生による研究発表とディスカッションです。
  - ・博士論文提出予定者はプレ発表の予行も行います。
- 【注】博士課程の学生は全員、毎回出席すること。  
【注】研究生の学生も全員、毎回出席すること。

- 第1回 ガイダンスと発表予定の確認、学位授与者の研究発表
- 第2回 個々の中間発表とディスカッション(1)
- 第3回 個々の中間発表とディスカッション(2)
- 第4回 個々の中間発表とディスカッション(3)
- 第5回 個々の中間発表とディスカッション(4)
- 第6回 博士論文提出予定者によるプレ発表の予行(1)
- 第7回 博士論文提出予定者によるプレ発表の予行(2)

#### ◆準備学習の内容◆

各自の発表に向けて研究し、資料作成を行う。他者の発表の回は、事前にGoogle Classroomにあげられた資料に目を通しておく。(週5時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加状況(最低1回の発言をもって出席とみなす)と発表内容。授業内で講評する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

なし

#### ◆留意事項◆

日程や担当者・発表内容についてはGoogle Classroomを通じて確認します。  
他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてください。

ナンバリング	DDL808N		
科目名	特別総合演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子, 中田 朱美, 神部 智, 早稲田 みな子, 前島 美保, 三浦 雅展, 塚田 花恵		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 1,3,4 1. 自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5. 高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

(1)博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、適切な研究発表ができる。(2)教員を含む参加者全体によるディスカッションを通して、個々の発表内容や発表方法について客観的に評価できる。(3)他者の研究にも積極的に関与し、自己の視野を広げると共に、指導者として必須の「意見力」を将来の職を見すえて養う。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・授業は隔週に設定されます。
  - ・授業は原則として学生および研究生による研究発表とディスカッションです。
  - ・博士論文提出予定者はプレ発表の予行も行います。
- 【注】博士課程の学生は全員、毎回出席すること。  
 【注】研究生の学生も全員、毎回出席すること。

- 第1回 個々の中間発表とディスカッション(1)
- 第2回 個々の中間発表とディスカッション(2)
- 第3回 個々の中間発表とディスカッション(3)
- 第4回 個々の中間発表とディスカッション(4)
- 第5回 個々の中間発表とディスカッション(5)
- 第6回 個々の中間発表とディスカッション(6)
- 第7回 個々の中間発表とディスカッション(7)

#### ◆準備学習の内容◆

各自の発表に向けて研究し、資料作成を行う。他者の発表の回は、事前にGoogle Classroomにあげられた資料に目を通しておく。(週5時間程度)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加状況(最低1回の発言をもって出席とみなす)と発表内容。授業内で講評する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

なし

#### ◆留意事項◆

日程や担当者・発表内容についてはGoogle Classroomを通じて確認します。  
 他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてください。

ナンバリング	DDL809N		
科目名	声楽領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL810N		
科目名	声楽領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL811N		
科目名	声楽領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL812N		
科目名	声楽領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL813N		
科目名	器楽領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)  
 第2回 器楽研究領域に関わる作品研究①/時代別無伴奏作品(古典)  
 第3回 器楽研究領域に関わる作品研究②/時代別無伴奏作品(近代)  
 第4回 器楽研究領域に関わる作品研究③/時代別無伴奏作品(現代)  
 第5回 器楽研究領域に関わる作品研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)  
 第6回 器楽研究領域に関わる作品研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)  
 第7回 器楽研究領域に関わる作品研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)  
 第8回 器楽研究領域に関わる作品研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)  
 第9回 器楽研究領域に関わる作品研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)  
 第10回 器楽研究領域に関わる作品研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)  
 第11回 器楽研究領域に関わる作品研究⑩/時代別室内楽作品(古典)  
 第12回 器楽研究領域に関わる作品研究⑪/時代別室内楽作品(近代)  
 第13回 器楽研究領域に関わる作品研究⑫/時代別室内楽作品(現代)  
 第14回 まとめ①/無伴奏作品及び室内楽作品  
 第15回 まとめ②/ピアノ伴奏作品及び協奏曲作品

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 授業中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL814N		
科目名	器楽領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)

第2回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究①/時代別無伴奏作品(古典)

第3回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究②/時代別無伴奏作品(近代)

第4回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究③/時代別無伴奏作品(現代)

第5回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)

第6回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)

第7回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)

第8回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)

第9回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)

第10回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)

第11回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑩/時代別室内楽作品(古典)

第12回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑪/時代別室内楽作品(近代)

第13回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑫/時代別室内楽作品(現代)

第14回 リサイクルプログラムの授業内発表及びディスカッション①

第15回 リサイクルプログラムの授業内発表及びディスカッション②

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
授業中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL815N		
科目名	器楽領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)  
 第2回 器楽研究領域に関わる作品研究①/時代別無伴奏作品(古典)  
 第3回 器楽研究領域に関わる作品研究②/時代別無伴奏作品(近代)  
 第4回 器楽研究領域に関わる作品研究③/時代別無伴奏作品(現代)  
 第5回 器楽研究領域に関わる作品研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)  
 第6回 器楽研究領域に関わる作品研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)  
 第7回 器楽研究領域に関わる作品研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)  
 第8回 器楽研究領域に関わる作品研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)  
 第9回 器楽研究領域に関わる作品研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)  
 第10回 器楽研究領域に関わる作品研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)  
 第11回 器楽研究領域に関わる作品研究⑩/時代別室内楽作品(古典)  
 第12回 器楽研究領域に関わる作品研究⑪/時代別室内楽作品(近代)  
 第13回 器楽研究領域に関わる作品研究⑫/時代別室内楽作品(現代)  
 第14回 まとめ①/無伴奏作品及び室内楽作品  
 第15回 まとめ②/ピアノ伴奏作品及び協奏曲作品

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
 授業中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL816N		
科目名	器楽領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:1,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)

第2回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究①/時代別無伴奏作品(古典)

第3回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究②/時代別無伴奏作品(近代)

第4回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究③/時代別無伴奏作品(現代)

第5回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)

第6回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)

第7回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)

第8回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)

第9回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)

第10回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)

第11回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑩/時代別室内楽作品(古典)

第12回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑪/時代別室内楽作品(近代)

第13回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑫/時代別室内楽作品(現代)

第14回 リサイクルプログラムの授業内発表及びディスカッション①

第15回 リサイクルプログラムの授業内発表及びディスカッション②

#### ◆準備学習の内容◆

授業内の指示に従い、必要な予習、及び練習をしておくこと。(毎日1時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
授業中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL817N		
科目名	創作領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:2,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL818N		
科目名	創作領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:2,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL819N		
科目名	創作領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:2,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL820N		
科目名	創作領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:2,3 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

※担当教員へご確認ください。

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL821N		
科目名	音楽学領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ~15.  
各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL822N		
科目名	音楽学領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1.～15.

各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL823N		
科目名	音楽学領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.

各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究内容の取り組み方から総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

データの整理・蓄積をこまめに行い、それらが論文のどこに反映されるのかを意識してほしい。併せて外部への発表などの機会も意識しつつ取り組むこと。

ナンバリング	DDL824N		
科目名	音楽学領域研究IV		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ~15.  
各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

データの整理・蓄積をこまめに行い、それらが論文のどこに反映されるのかを意識してほしい。併せて外部への発表などの機会も意識しつつ取り組むこと。

ナンバリング	DDL825N		
科目名	音楽教育学領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のためのための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1回～15回. テーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

前回の指導内容を踏まえ、継続性をもって研究テーマに取り組む。(毎週2時間を目安にする)

◆成績評価の方法◆

研究成果と学びに向かう力を総合的に判断する。なお、授業の都度、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

研究状況に応じて、適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL826N		
科目名	音楽教育学領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1～15回。テーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

前回の指導内容を踏まえ、継続性をもって研究テーマに取り組む。(毎週2時間を目安にする)

◆成績評価の方法◆

研究成果と学びに向かう力を総合的に判断する。なお、授業の都度、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

研究状況に応じて、適宜、指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL827N		
科目名	音楽教育学領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文の執筆のためのための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1回～15回. テーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

前回の指導内容を踏まえ、継続性をもって研究テーマに取り組む。(毎週2時間を目安にする)

◆成績評価の方法◆

研究成果と学びに向かう力を総合的に判断する。なお、授業の都度、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

研究状況に応じて、適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL828N		
科目名	音楽教育学領域研究IV		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

◆授業目標◆

博士論文執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1～15回。テーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

前回の指導内容を踏まえ、継続性をもって研究テーマに取り組む。(毎週2時間を目安にする)

◆成績評価の方法◆

研究成果と学びに向かう力を総合的に判断する。なお、授業の都度、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

研究状況に応じて、適宜、指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL829N		
科目名	音楽理論特講A		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 4 1. 自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5. 高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

和声法の歴史的変遷の理解に基づき、研究の基礎となる分析、実習ができるとともに、言語化して説明できる。

#### ◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的なアプローチの方法を考察していく。

1. 授業ガイダンス
2. バロック時代における声部書法と和声
3. 通奏低音実習
4. 課題の実習①バロック
5. 古典派のカデンツ
6. 古典派の転調
7. 課題の実習
8. 古典派とロマン派の比較
9. ドミナントの概念の拡大と転調法の多様化
10. 課題の実習③ロマン派
11. 近代フランスの和声①フォーレ
12. 近代フランスの和声②ドビュッシー
13. 課題の実習③近代フランス
14. 課題の実習⑤任意のスタイル
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

実作品や課題は、指示した内容を学生が予習していることを前提に授業を行う(60分)。  
授業で学んだ課題や内容について復習する(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

期末課題提出と平常点の総合評価による。  
随時授業内で課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

- 『総合和声』島岡譲 他 著、音楽之友社  
『新しい和声』林達也 著、アルテスパブリッシング社  
『実践的和声学習の手引き』P. I. チャイコフスキー著、山本明尚訳、音楽之友社  
『音楽アナリゼのための実践ガイド』ナジ・ハキム、マリ＝ベルナデット・デュフルセ著、野平多美 他 訳、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL830N		
科目名	音楽理論特講B		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

和声法の歴史的変遷の理解に基づき、研究の基礎となる分析、実習を行うことができるとともに、言語化して説明できる。

#### ◆授業内容・計画◆

和声実習と楽曲分析を総合し、専攻の実技や研究に活かすことが目的である。  
 授業内容に並行して、学生が研究する作曲家や作品を取り上げることがある。  
 また、近代フランスの和声をシャラン、ピッチュ、デュボア、フォーシェ、ギャロンなどの課題を通じて学ぶ。

1. 前期の復習
2. 古典派の様式と実習(モーツァルト・ベートーヴェン)
3. ロマン派の様式と実習①(シューベルト・メンデルスゾーン)
4. ロマン派の様式と実習②(ショパン・シューマン)
5. 後期ロマン派の様式と実習①(ヴァーグナー・R.シュトラウス)
6. 近代フランスの様式と実習①(フォーレ)
7. 近代フランスの様式と実習②(ドビュッシー)
8. 近代フランスの様式と実習③(ラヴェル)
9. スクリャービンの様式と実習
10. メシアンの移調の限られた旋法
11. フランス和声の実践①バス課題
12. フランス和声の実践②ソプラノ課題
13. フランス和声の実践③弦楽四重奏
14. フランス和声の実践④器楽伴奏
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

実作品や課題は、指示した内容を学習が予習していることを前提に授業を行う(60分)。  
 授業で学んだ課題や内容について復習する(30分)。

#### ◆成績評価の方法◆

期末課題提出と平常点の総合評価による。  
 随時授業内で課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で必要に応じて指示する。

#### ◆参考図書◆

『総合和声』島岡譲 他 著、音楽之友社  
 『新しい和声』林達也 著、アルテスパブリッシング社  
 『実践的和声学習の手引き』P. I. チャイコフスキー 著、山本明尚 訳、音楽之友社  
 『音楽アナリーゼのための実践ガイド』ナジ・ハキム、マリ＝ベルナデット・デュフルセ 著、野平多美 他 訳、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL832N		
科目名	音楽美学特講B		
科目詳細	修士「音楽美学研究B」と合同		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 4 1. 自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5. 高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

音楽の哲学的問題を考えるうえでの思考の枠組みを修得し、具体的事例を深く考察できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

美学の基礎概念を、音楽との関連においてとりあげる。  
 「象徴」「美的価値」「美的態度」「趣味」の四概念を扱う予定。  
 画像や音源を活用し、可能な限り具体的な次元からも話を展開する。

1. 「象徴」①その定義
2. 「象徴」②象徴とアレゴリー(美術史における)
3. 「象徴」③象徴主義芸術(文学および美術)
4. 「象徴」④音楽における象徴
5. 「美的価値」①その定義
6. 「美的価値」②模作、贋作に価値はあるか
7. 「美的価値」③善美
8. 「美的態度」①無関心性
9. 「美的態度」②唯美主義
10. 「美的態度」③音楽における例
11. 「趣味」①美学における趣味概念について
12. 「趣味」②趣味概念の歴史
13. 「趣味」③音楽とグルメ
14. 「趣味」④音楽における○○趣味
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、応用的なコメントペーパーを「宿題」として出す。次週の初めにそれをクラスで発表してもらう。その準備に週3時間程度。

#### ◆成績評価の方法◆

課題への取組みによる。フィードバックは授業内で行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

『美学辞典』佐々木健一(東京大学出版会)1995年。  
 『精神と音楽の交響 西洋音楽美学の流れ』今道友信(編)(音楽之友社)1997年。

#### ◆留意事項◆

出席および議論への参加度を重視します。

ナンバリング	DDL833N		
科目名	西洋音楽史特講A		
科目詳細	修士「西洋音楽史研究A」と合同		
担当教員	安田 和信		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

#### ◆授業内容・計画◆

西洋音楽で用いられる楽器は時代によって構造や仕様が変化(あえて「進歩」とは言わない)してきた。作曲家たちは当然のことながら同時代の楽器の構造などが持つ特性に従って自作で使用してきたと言って良いだろう。この授業ではそのような楽器と作曲家・作品の関連を探りながら、「その作品がなぜそのように書かれたのか」ということの一部を考えていく。原則として教員の講義で進めるが、履修者によるプレゼンテーションも部分的に取り入れる予定である。

1. イントロダクション(楽器の歴史と作品の関係についての総論)
2. ベートーヴェンとピアノ
3. バッハとトランペット
4. ハイドンとフンメルのトランペット協奏曲
5. モーツァルトのクラリネット協奏曲
6. シューマンとホルン
7. 18世紀後半から19世紀末にかけてのティンパニの使用法
8. リストが所有していたピアノ
9. 19世紀のピアノとペダル
10. 足鍵盤付きピアノの系譜
11. 弦楽器とスコルダトゥーラ
12. ヴィオロンチェッロ・ピッコロ、ヴィオロンチェッロ・ダ・スパッタ
13. カストラートと現代における「復興」
14. コントラバスの変遷
15. まとめ(楽器と作品の関係の研究を深めるために)

#### ◆準備学習の内容◆

次回で取り上げる作曲家や楽器について基本的な情報を消化しておくこと(約60分)

#### ◆成績評価の方法◆

期末レポート(70%)と授業に取り組む姿勢(30%)  
授業中に教員から多くの問いかけ、質問を実施するので、積極的に答えること。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

毎回、資料を配布する。

#### ◆参考図書◆

『ニューグローヴ世界音楽大事典』(講談社)所収の、本授業で扱う作曲家や楽器についての項目。  
他の文献に関しては、当該授業に関連するものを授業で紹介する。

#### ◆留意事項◆

授業を受けるにあたっては、テーマとなる作曲家や楽器の知識が非常に重要であり、しっかりとした予習をすることが求められる。

ナンバリング	DDL843N		
科目名	音楽民族学特講B		
科目詳細	修士「音楽民族学研究B」と合同		
担当教員	植村 幸生		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

題目「民謡と民謡論の現在」。民謡とは何か、民謡の担い手は誰か、民謡はどのように存在しているか、民謡は社会とどのような関係をもつか、民謡と他ジャンルの音楽との関係はいかなるものか、民謡はどのように論じられ理解されてきたか、そして民謡に将来はあるか。こうした問題を、近年の研究成果を参照しながら主体的に議論することで、民族音楽学の基本的な思考方法を身につけることを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス:この授業の進め方
2. 総論:民謡という問題系(講義)
3. 民謡の存在論(1)概念と定義
4. 民謡の存在論(2)担い手と演唱の場
5. 民謡の存在論(3)伝播・変容・再創造
6. 民謡の存在論(4)真正性と「正調」
7. メディアと民謡(1)記録・収集・分類
8. メディアと民謡(2)舞台化と芸能化
9. メディアと民謡(3)レコードと放送
10. メディアと民謡(4)学校教育との関わり
11. 編曲と創作の位相(1)ポピュラー音楽、新民謡
12. 編曲と創作の位相(2)「芸術音楽」と民謡の相互交渉
13. 民謡の政治学(1)社会運動と民謡
14. 民謡の政治学(2)文化政策と民謡
15. 総括と展望(ディスカッション)

#### ◆準備学習の内容◆

第3回～第14回は受講者による発表とする。受講者は、各回の授業計画に示された題目に即して、指定された割り当て文献の報告、もしくは個人の研究関心に基づく自由発表を行う。準備時間は、文献報告では週に3～4時間、自由発表では週に5～6時間程度を要すると見込まれる。発表の回数は受講者数により変動するが、仮に4名とすれば各人3回程度となる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表に対して、文献等の理解度、資料等の提示方法、構成、書式などの観点から講評にあたるコメントを述べ、あわせて補足説明、関連情報の提供を行う。さらに内容に基づく期末レポートにより総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特定の教科書は用いないが、下記の参考書および関連文献を講読対象として指定する。それ以外に受講者が自発的に選択してきてもよい。

#### ◆参考図書◆

- 『民謡からみた世界音楽:うたの地脈を探る』細川周平編著(ミネルヴァ書房、2012年)  
『民謡とは何か』島添貴美子(音楽之友社、2021年)  
Folk Music: A Very Short Introduction. Slobin, Mark (Oxford University Press, 2011)  
The Study of Folk Music in the Modern World. Bohlman, Philip (Indiana University Press, 1988)  
その他多数あり。授業中に紹介する。

#### ◆留意事項◆

主体的、積極的な受講を期待します。

ナンバリング	DDL839N		
科目名	音楽音響学特講A		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 4 1. 自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5. 高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

演奏音の音響を取り上げ、科学的な研究手法に基づく分析法を学び、自らが実践できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

受講者の興味に合わせて適宜内容を変更する。以下は一例である。

1. ガイダンス□
2. 音響解析の基礎□
3. Pythonを用いた波形処理(1) 導入□
4. Pythonを用いた波形処理(2) 基礎操作□
5. Pythonを用いた波形処理(3) 波形入力□
6. Pythonを用いた波形処理(4) 分析□
7. Pythonを用いた波形処理(5) 課題提示□
8. Pythonを用いた波形処理(5) 課題実施□
9. 討論□
10. 楽器音解析による演奏特徴解析法1 ~ピアノ~□
11. 楽器音解析による演奏特徴解析法2 ~バイオリン~□
12. 楽器音解析による演奏特徴解析法3 ~打楽器~□
13. ディスカッション□
14. 全体討論□
15. まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、先行研究に対する理解と考察およびそれらに対するフィードバックを通して総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

パソコンが必要となる。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。学会の聴講を行なう場合がある。

ナンバリング	DDL840N		
科目名	音楽音響学特講B		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:4 1.自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5.高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

演奏のMIDI記録と演奏時の生体情報を取り上げ、科学的な研究手法に基づく分析法を学び、自らが実践できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

受講者の興味に合わせて適宜内容を変更する。以下は一例である。

- 1.ガイダンス
- 2.演奏情報の解析(1)概要
- 3.演奏情報の解析(2)解析手法
- 4.演奏情報の解析(3)記録
- 5.演奏情報の解析(4)分析と考察
- 6.演奏情報の解析(5)ディスカッション
- 7.演奏情報の解析(6)まとめ
- 8.生体信号の解析(1)概要
- 9.生体信号の解析(2)心拍信号と脳波の概要
- 10.生体信号の解析(3)生体信号の記録
- 11.生体信号の解析(4)記録と分析
- 12.生体信号の解析(5)分析と評価
- 13.生体信号の解析(6)プログラミングによる分析
- 14.生体信号の解析(7)分析と考察
- 15.まとめと評価

#### ◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、先行研究に対する理解と考察およびそれらに対するフィードバックを通して総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

授業中に適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

パソコンが必要となる。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。学会の聴講を行なう場合がある。

ナンバリング	DDL841N		
科目名	教授法		
科目詳細			
担当教員	神部 智		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:5 1自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。博士論文の作成に向け、研究論文執筆における学術的アプローチの方法やルールを習得する。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な事案とその意味について学ぶ。  
 また、学術的研究を深めるための多様な視点を習得する。  
 主な内容は次の通り。

- 1)オリエンテーション
- 2)TAの心構えと役割
- 3)研究を始めるにあたって
- 4)研究者が守るべき倫理
- 5)研究題目に沿った資料調査の方法
- 5)研究対象について
- 6)学術論文とは何か
- 7)論文の執筆について
- 8)章立ての仕方
- 9)引用の方法
- 10)グループAによる発表
- 11)グループBによる発表
- 12)グループCによる発表
- 13)グループDによる発表
- 14)グループEによる発表
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。  
 プレゼンテーションも課す。予習・復習の目安:2時間/週

#### ◆成績評価の方法◆

課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。  
 課題等については授業内でフィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。

ナンバリング	MGS709U		
科目名	テーマ別演習 I (日本近現代音楽の研究)		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連:3,4 1自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2.研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3.自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4.音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

・明治以降の「日本の近現代音楽」についてその概要や歴史の変遷を理解できる。・上記における国立音楽大学の貢献について理解できる。  
・今後の音楽文化に対する自分の立場や役割について考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、それぞれの領域の講師が行なうオムニバス方式をとる。

##### 1 イントロダクション

- 1) 国立音楽大学の歴史(前島美保)
- 2~3 実用音楽
- 2) 戦後から令和~日本の商業音楽の変遷について(丸山和範)
- 3) 映像音楽の制作について(富貴晴美)
- 4~6 ピアノ
- 4) 西洋音楽黎明期における日本のピアノ作品~山田耕筰を中心に(佐野隆哉)
- 5) 演奏家の立場からみる邦人ピアノデュオ作品の諸相~三善晃、武満徹、西村朗、権代敦彦、杉山洋一らの作品から(加藤真一郎)
- 6) 作曲と演奏の現場から——近藤謙とより若い世代(井上郷子)
- 7 電子音楽 その1
- 7) 日本の電子音楽(大矢素子)
- 8~9 ジャズ
- 8) ジャズとクラシックの接点——ハーモニーにおいて(塩谷哲)
- 9) 日本人としてのジャズとの関わり(池田篤)
- 10~11 声楽
- 10) 日本の声楽曲の黎明期(松原有奈)
- 11) 日本歌曲~日本語の発音から生まれる歌唱法(松原有奈)
- 12 打楽器
- 12) 20世紀打楽器音楽から探るリズムと音色の生成&実践(新谷祥子)
- 13~14 電子音楽 その2
- 13) 電子オルガンの可能性(渡辺睦樹)
- 14) 日本におけるコンピュータ音楽の展開(今井慎太郎)
- 15) 前期授業のまとめ——関連情報の整理

\* 各回の授業タイトル・内容は進捗状況や講師の都合により変更になることもあります。

#### ◆準備学習の内容◆

この演習は、各回が異なる領域の情報を扱う授業となるので、授業に先立ち、該当する領域や音楽家について参考資料にあたり、基礎的な情報を得ておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および各講師が課す課題を総合して評価する。課題については適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しないが、各講師からの指示に注意すること。

#### ◆参考図書◆

基本的に各講師から資料が配布される。より深い学修のための参考図書については各講師に問い合わせること。

#### ◆留意事項◆

日本の近現代音楽の歴史的な流れとその特徴的な活動を知るための領域横断的な授業です。すべての講義に出席することでその在りようが理解できるようになるので、欠席は極力しないよう心がけること。

ナンバリング	MGS710U		
科目名	テーマ別演習Ⅱ(日本近現代音楽の研究)		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	ディプロマポリシーとの関連: 3.4 1. 自律して演奏会を計画し、説得力のある演奏を行うことができる/2. 研究を基礎にした自己の創作理念・理論による創作ができる/3. 自己の演奏や創作を進展できる研究ができる/4. 音楽学ならびに音楽教育学の分野において独創的な研究ができる/5. 高等教育機関において教授できる		

#### ◆授業目標◆

・明治以降の「日本の近現代音楽」についてその概要や歴史的変遷を理解できる。・上記における国立音楽大学の貢献について理解できる。  
・今後の音楽文化に対する自分の立場や役割について考えることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は、それぞれの領域の講師が行なうオムニバス方式をとる。

##### 1～5 作曲

- 1) 日本の音楽評論と創作(白石美雪)
- 2) 武満徹における西洋と日本(白石美雪)
- 3) 戦後日本の作曲家の系譜～伊福部昭とその門弟(菊池幸夫)
- 4) 戦後生まれ以降の日本の作曲家(渡辺俊哉)
- 5) 日本の合唱音楽(上田真樹)

##### 6 吹奏楽

- 6) 日本の吹奏楽の始まり(塚原康子)

##### 7 ジャズ その2

- 7) 日本ジャズ事始め(大島徹)

##### 8～9 日本音楽

- 8) くにとちと邦楽(前島美保)
- 9) 雅楽の姿——近現代および江戸後期(宮田まゆみ)

##### 10～11 音楽研究

- 10) 竹内道敬先生と竹内道敬文庫資料(吉野雪子)
- 11) 近代日本の洋楽器産業(井上さつき)
- 12～13 教育音楽・合唱
- 12) 学校音楽教育の歴史(1)——何を指してきたのか(津田正之)
- 13) 学校音楽教育の歴史(2)——どのように実現しようとしてきたのか(津田正之)

##### 14 教育・リトミック

- 14) 日本におけるリトミック教育の普及と展開(伊藤仁美)

##### 15) 後期授業のまとめ——関連情報の整理

\* 各回の授業タイトル・内容は進捗状況や講師の都合により変更になることもあります。

#### ◆準備学習の内容◆

この演習は、各回が異なる領域の情報を扱う授業となるので、授業に先立ち、該当する領域や音楽家について参考資料にあたり、基礎的な情報を得ておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、および各講師が課す課題を総合して評価する。課題については適宜フィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しないが、各講師からの指示に注意すること。

#### ◆参考図書◆

基本的に各講師から資料が配布される。より深い学修のための参考図書については各講師に問い合わせること。

#### ◆留意事項◆

日本の近現代音楽の歴史的な流れとその特徴的な活動を知るための領域横断的な授業です。すべての講義に出席することでその在りようが理解できるようになるので、欠席は極力しないよう心がけること。